

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第三十四冊

国分寺六ツ目遺跡

1999.10

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第三十四冊

国分寺六ツ目遺跡

1999.10

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団

序 文

四国横断自動車道は、高松～善通寺間が平成4年5月に開通しました。これにより、瀬戸大橋と香川県的高速道路が直結することになり、香川県は本格的な高速交通の時代を迎えております。

香川県教育委員会では、四国横断自動車道（高松～善通寺間）の建設に伴い、昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して、用地内の埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。3年6ヶ月の期間を要して28遺跡の発掘調査を実施し、平成3年9月に発掘調査を終了いたしました。また、平成3年度からは同センターにおきまして発掘調査の出土文化財の整理業務を順次行っているところであり、平成4年度からは調査報告書の刊行をいたしております。

このたび、「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十四冊」として刊行いたしますのは、綾歌郡国分寺町に所在する国分寺六ツ目遺跡についてであります。国分寺六ツ目遺跡の調査では、旧石器時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されております。特に縄文時代の石器の集積遺構は、県内における石器生産についての基準資料になるものと考えられます。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、日本道路公団及び関係機関並びに地元関係各位には多大の御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成11年10月

香川県教育委員会

教育長 折 原 守

例 言

1. 本報告書は、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第三十四冊で香川県綾歌郡国分寺町福家字六ツ目に所在する国分寺六ツ目遺跡（こくぶんじむつめいせき）の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が日本道路公団から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

予備調査 期間 平成元年7月,8月

本調査 期間 平成元年10月1日～平成2年2月28日

担当 植松邦浩 森下英治 佐藤竜馬 山本健 谷澤幸司

4. 調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

香川県土木部横断道対策室、同坂出土木事務所横断道対策課、国分寺町土木部高速自動車道担当、四国横断自動車道建設国分寺地区対策協議会、地元自治会

5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆、編集は山下平重が担当した。

6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第IV系の北であり、標高はT. P. を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

S B 掘立柱建物跡 S D 溝状遺構 S K 土坑 S P 柱穴

S X 不明遺構 S R 川跡

7. 石器実測図中の網目は摩滅痕を、輪郭線の回りの点線は潰れ痕をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損は濃く黒で潰している。

8. 挿図の一部に国土地理院地形図 白峰山 (1/25,000) 及び国土基本図を使用した。

9. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関等に分析を依頼・委託した。

土器胎土分析	岡山理科大学自然科学研究所	白石 純
サヌカイト産地分析	京都大学原子炉実験所	薬科哲男
放射性炭素年代測定	パリノ・サーヴェイ株式会社	

10. 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値 (単位m) である。

11. 土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1992年度版』を使用して表す。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

目 次

序文

例言

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査にいたる経過	1
第2節 調査の経過と体制	5
第2章 調査地と周辺の地形	7
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の方法	10
第2節 土層序	10
第3節 遺構と遺物	14
1 旧石器時代	14
2 縄文時代	15
3 弥生時代終末期	60
川跡	60
4 古代	60
溝跡	60
5 中世	60
土坑	60
溝跡	64
不明遺構	64
川跡	64
6 近世以降	66
建物跡	66
溝跡	67
川跡	70
7 時期不明の遺溝	70
8 包含層出土の遺物	70

第4章 自然科学分析の成果	76
第1節 国分寺六ツ目遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析	76
第2節 放射性炭素年代測定報告	87
第3節 国分寺六ツ目遺跡出土土器の胎土分析	90
第4節 自然科学分析についてのコメント	95
第5章 まとめ	97
第1節 遺構の変遷	97
第2節 サヌカイト集積遺構出土剥片について	100
第3節 サヌカイト集積遺構外出土石器類の分析	104
石器観察表	111
土器観察表	118
写真図版	
報告書抄録	
付図	

挿図目次

第1図 四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地 (高松～普通寺)	2	第12図 集積遺構出土剥片垂直分布図 (縦1/4・横1/8)	12
第2図 遺跡位置図(1)	7	第13～27図 集積遺構出土石器類 (1)～(15)(1/2)	20～34
第3図 遺跡位置図(2)(1/25,000)	8	第28図 3区断面図(1/80)	36
第4図 遺跡位置図(3)(1/5,000)	9	第29図 3区出土剥片等全点分布図	37
第5図 調査区割図(1/1,000)	11	第30図 3区出土剥片等有効分布図	38
第6図 1・2区断面図(1/80)	12	第31図 4区断面図(1/80)	39
第7図 2区断面図(1/80)	13	第32図 4区出土剥片等全点分布図	40
第8図 旧石器実測図(1/2)	14	第33図 4区出土剥片等有効分布図	41
第9図 サヌカイト集積遺構平・断面図 (1/8)	16	第34～50図 包含層出土石器(1)～(17) (1/2・1/3)	43～59
第10図 サヌカイト集積遺構上位平・断面図 (1/8)	17	第51・52図 2区SR01出土土器 (1)・(2)(1/4)	61・62
第11図 サヌカイト集積遺構下位平・断面図 (1/8)	18	第53図 1・2区SD01, 3区SK01, 1	

区SD02~06平・断面図(1/50) 及び出土土器(1/4).....	63
第54図 1区SX01平・断面図(1/50)....	64
第55図 3区SR02断面図(1/80).....	65
第56図 3区SR02出土土器(1/4).....	66
第57図 1区SB01平・断面図(1/100)....	66
第58図 6区断面図(1/80)及び6区SK01 ~04平・断面図(1/50).....	68
第59図 6区SK09~11・15~19及び SD01~08平・断面図(1/50)....	69
第60図 6区遺構出土の土器(1/4)・石器 (1/2).....	70
第61~64図 6区整地層出土の土器(1)~ (4)(1/4).....	71~74
第65図 3区SD01, 4区SD01, 5区断 面図(1/50,1/100), 1区SP05平・ 断面図(1/50)及び包含層出土土器 (1/4)・木器(1/6).....	75
第66図 サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原 産地.....	78
第67図 金山・五色台地域のサヌカイト, ガラ	

ス質安山岩の原産地.....	79
第68・69図 各胎土分類と周辺遺跡出土土器と の比較.....	94
第70図 国分寺六ツ目古墳と国分寺六ツ目遺跡 の土器胎土の比較.....	96
第71図 遺構変遷図(1)(縄文時代・弥生時 代終末期)(1/1,500).....	98
第72図 遺構変遷図(2)(古代・中世) (1/1,500).....	99
第73図 遺構変遷図(3)(近世以降) (1/1,500).....	100
第74図 集積遺構出土剥片の厚さ.....	101
第75図 集積遺構出土剥片の大きさ.....	102
第76図 集積遺構出土剥片重量分布図.....	103
第77~79図集積遺構外出土剥片の大きさ(1) ~(3).....	105~107
第80図 集積遺構外出土剥片の重量.....	108
第81図 集積遺構外出土剥片の打面.....	109
第82図 集積遺構外出土完形剥片の打面.....	109
第83図 石核剥片剥離面の大きさ.....	110

表 目 次

第1・2表 四国横断自動車道建設に伴う発掘 調査の概要(1)・(2).....	3・4
第3表 調査の体制.....	6
第4表 各サヌカイトの原産地における原石群 の元素比の平均値と標準偏差値... 80-81	
第5表 原産地不明の組成の似た遺物で作ら れた遺物群の元素比の平均値と標準偏 差値.....	82
第6表 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個 の分類結果.....	82
第7表 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト 原石72個の分類結果.....	82
第8表 和歌山市梅原原産地からのサヌカイト 原石21個の分類結果.....	82

第9表 国分寺六ツ目遺跡出土サヌカイト製 物の元素比分析結果.....	83
第10表 国分寺六ツ目遺跡出土の縄文時代サ ヌカイト製遺物の原産地推定結果.....	84
第11表 年代測定結果および樹種同定結果... 88	
第12表 国分寺六ツ目遺跡出土土器胎土分析試 料一覧表.....	93
第13表 集積遺構出土剥片打面の集計.....	101
第14表 集積遺構外出土土器類の集計.....	104
第15表 石核剥離面打面の集計.....	110
第16表 石鏃及び未製品の集計表.....	110
第17~23表 石器観察表(1)~(7).....	111~117
第24~28表 土器観察表(1)~(5).....	118~122

図版目次

- 図版1 遺跡遠景（現在）北から
1区 東半 空中写真
- 図版2 1区 西半 空中写真
1区 東半 全景西から
- 図版3 1区 西半 全景西から
2区 空中写真
- 図版4 2区 全景 西から
3区 空中写真
- 図版5 3区 全景 北から
3区断面（第28図）
- 図版6 3区断面（第28図）
3区断面（第28図）
- 図版7 3区断面（第28図）
3区断面（第28図）
- 図版8 4区 空中写真
4区 全景 北東から
- 図版9 4区断面（第31図）
4区断面（第31図）
- 図版10 4区断面（第31図）
5区 空中写真
- 図版11 5区 全景 西から
5区 西壁 断面（第65図）
- 図版12 6区 空中写真
6区 全景 北から
- 図版13 6区断面（第58図）
サヌカイト集積遺構
- 図版14 サヌカイト集積遺構
サヌカイト集積遺構（下位）
- 図版15 2区SR01断面（第6・7図）
2区SR01土器集中①② 北から
- 図版16 2区SR02土器集中①② 西から
1・2区SD01 西から
- 図版17 3区SK01・02検出状況 北から
3区SK01・02 北から
- 図版18 1区SD02・03 東から
1区SD03土器出土状況 北から
- 図版19 1区SX01 西から
3区SR02断面A 西から
- 図版20 3区SR02断面B 西から
3区SR02断面C 東から
- 図版21 6区SK02・03 西から
3区SD01 北東から
- 図版22 5区落ち込み杭 西から
1区SP05 北から
- 図版23 3区SK03 北西から
4区SD01 北から
- 図版24～74 出土石器
図版75～77 出土土器
図版78 炭化材

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経過

四国横断自動車道高松～善通寺間の建設は、同善通寺～豊浜間に引き続き、昭和57年1月8日に整備計画決定され、昭和59年11月30日に建設大臣から日本道路公団総裁に対して施工命令が下された。

香川県教育委員会では、この間路線内の埋蔵文化財包蔵地の確認を目的に国庫補助事業として分布調査^{*1}を実施し、これをもとに調査対象面積を39万㎡余りと判断した。路線内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、日本道路公団と文化庁の協議により、基本的には記録保存で対応することが決定した。

香川県教育委員会では、これを受けて香川県の担当課である土木部横断道対策室及び日本道路公団高松建設局高松工事事務所と昭和62年度から調査体制等について協議を開始した。

協議の結果、昭和63年度当初から2カ年の予定で本調査を実施すること、整理報告は発掘調査の終了後に実施すること等が決定した^{*2}。これを受けて香川県教育委員会では調査体制の充実を図ることを目的に、昭和62年11月に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを設置すると同時に、専門職員の増員等の措置を実施した。

平成元年6～9月には、綾歌郡国分寺町内に所在する埋蔵文化財包蔵地の具体的な内容を把握するため、日本道路公団と協議の上、用地買収の進捗にあわせて予備調査を実施した。予備調査の着手に当たっては、地元関係者、四国横断自動車道建設国分寺地区対策協議会、国分寺町建設課、同教育委員会、香川県坂出土木事務所横断道対策室、同用地課等の多大な協力を得た。

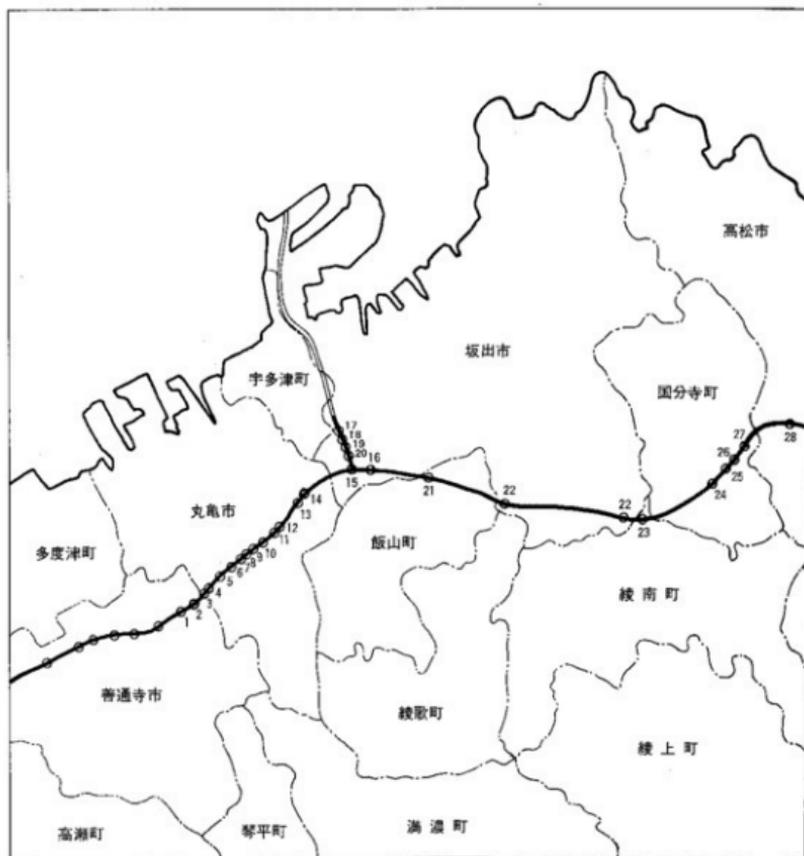
予備調査の結果、国分寺六ツ目遺跡や国分寺六ツ目古墳等の4遺跡について内容を把握し、同地区での本調査対象面積を22,250㎡に確定した。

*1 香川県教育委員会「国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・状況調査概報」1987

*2 最終的に、用地買収・家屋退去等の関係で調査期間は3年6ヶ月を要し、本調査面積は、予備調査による遺跡内容の確定を随時実施したことから、319,201㎡になった。

今回報告する国分寺六ツ目遺跡は、調査対象面積は5,600㎡である。本調査は、平成元年10月1日に着手し、平成2年2月28日に終了した。

調査は、香川県教育委員会が日本道路公団高松建設局から委託を受け、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施された。



第1図 四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（高松～普通寺）

№	道路名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間	遺構	遺物
1	龍川五糸遺跡	普通寺市藤田町	12,300 10,200	元. 6.26~2. 3.31 2. 4. 9~2.12. 5	弥生時代(塚塚、竪穴住居、溝)、 古代溝、中世建物、近世井戸	弥生土器、土師器、須恵器、石器、 木製品
2	龍川四糸遺跡	普通寺市藤田町・ 本徳町	20,200 1,700 300	元. 7. 1~2. 3.31 2. 5.28~2.12. 5 3. 4. 4~3. 6.18	古代掘立柱建物、中世建物、溝、土坑墓、 自然河川	縄文土器、土師器、須恵器、瓦器、磁器、 中世鏡
3	三糸器ノ原遺跡	丸亀市三糸町中村	12,041 1,300	63. 4.18~元. 2.10 元. 4.10~2. 3.31	弥生時代竪穴住居、溝、自然河川	弥生土器ほか
4	三糸黒鳥遺跡	丸亀市三糸町黒鳥	7,677	63. 6.15~63.11.26	ユニット、溝、建物	旧石器、弥生土器、陶磁器
5	郡家原遺跡	丸亀市三糸町黒鳥・郡 家町原	17,099 2,600	63. 4.18~元. 3.31 元. 4.10~2. 3.31	竪穴住居、掘立柱建物、溝	弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、 磨石ほか
6	郡家一里屋遺跡	丸亀市郡家町八幡上	14,067 6,450	63. 4.18~元. 3.31 元. 4.10~2. 3.31	掘立柱建物、溝、自然河川	弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉、陶器、有舌式銅器ほか
7	郡家大林上遺跡	丸亀市郡家町大林上	11,175	63. 6.15~元. 3.22	掘立柱建物、溝、自然河川	須恵器、磨石ほか
8	郡家田代遺跡	丸亀市郡家町田代	12,741	63. 6.15~元. 2.17	掘立柱建物、溝、火葬墓	弥生土器、須恵器、近世陶磁器、 ナイフ彩石器
9	川西北ノ原遺跡	丸亀市川西町北ノ原	3,033	63.12.12~元. 3.25	掘立柱建物、溝	
10	川西北七糸Ⅰ遺跡	丸亀市川西町北七糸	4,034	63.12.13~元. 3.27	溝、自然河川	土師器、須恵器
11	川西北七糸Ⅱ遺跡	丸亀市川西町北七糸	4,760	元. 2. 2~元. 3.31	掘立柱建物、溝	土師器
12	川西北・鍛冶屋遺跡	丸亀市川西町北	12,208	元. 4.10~元. 8.11	中世掘立柱建物、溝、自然河川	土師器、須恵器、近世陶磁器
13	坂野・東二瓦溝遺跡	丸亀市坂野町東二瓦溝	3,366	63.12.13~元. 3.27	掘立柱建物、溝、自然河川	土師器、須恵器
14	坂野・東分山崎南遺跡	丸亀市坂野町	300	2. 3. 1~2. 3.31		埴輪、須恵器、銚子銅器遺物

第1表 四国精断自動車道建設に伴う発掘調査の概要(1)

No	遺跡名	所在地	調査期間	遺構	遺物
15	川津東山田遺跡	坂出市川津町 敷山町東玖元	2. 8. 2~3. 3. 20 3. 9. 2~3. 9. 4	弥生時代竪穴住居, 古墳時代竪穴住居, 柱穴	弥生土器, 土師器, 須恵器
16	川津川西遺跡	坂出市川津町	5.400 2. 5.10~3. 1.17	古墳時代竪穴住居, 古代~中世建物, 溝	縄文土器, 土師器, 須恵器, 墨書土器, 土馬, 耳環
17	川津中塚遺跡	坂出市川津町	15,290 5,700 2. 5.10~3. 2.28 3. 4. 4~3. 9.13	弥生時代竪穴住居, 古代~中世竪立柱建物, 溝, 土坑, 土坑墓	弥生土器, 土師器, 須恵器, 耳環, 鉄小刀
18	川津下樋遺跡	坂出市川津町	9,650 200 2. 5.10~3. 1.31 3. 7. 1~3. 7.16	弥生時代(水田, 井堰), 溝, 自然河川	縄文晩期土器, 弥生土器, 石器(打製石丁はか), 木製品
19	川津二代取遺跡	坂出市川津町	10,400 2. 5.10~3. 3. 8	弥生時代(溝, 自然河川), 中世(建物, 溝)	弥生土器, 土師器, 石器
20	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	35,160 1,350 2. 4.12~3. 3.28 3. 7.18~3. 9.27	弥生時代自然河川, 弥生時代~古墳時代(竪穴住居, 竪立柱建物, 土坑), 古代~中世(溝, 水田)	弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器, 木製品, 帯金具
21	飯山一本松遺跡	飯山町	2,200 元. 4.17~元. 5.16		弥生土器, 土師器, 須恵器
22	府中地区	坂出市府中町	3,000 2.10.30~2.12.26	土坑	須恵器
23	綾郡奥下池所遺跡	綾津町	2,900 元. 5.22~元. 7.24	須恵器竪跡	須恵器
24	国分寺下日名代遺跡	国分寺町稲家	11,350 元. 8.19~2. 2.28	弥生時代溝, 水田, 動物足跡	弥生土器, 土師器, 須恵器
25	国分寺楠井遺跡	国分寺町稲家	4,400 2. 4.11~2.10. 2	古墳時代横穴式石室, 中世竪, 建物	土師器, 須恵器, 瓦質土器, 耳環
26	国分寺六ツ目古墳	国分寺町稲家	900 元. 9. 1~元.12.28	前方後円墳(主体部3基)	古式土師器, 鉄器
27	国分寺六ツ目遺跡	国分寺町稲家	5,600 元.10. 1~2. 2.28	中近世建物	弥生土器, 近世陶磁器, 石器
28	中間西井坪遺跡	高松市中間町	11,600 8,600 1,270 元. 8.19~2. 3.25 2. 5.10~3. 3.25 3. 4. 5~3. 7.18	旧石器ブロック, 弥生時代~近世建物, 埋輪焼成土坑, 古墳, 溝, 土坑	弥生土器, 土師器, 須恵器, 埴輪, 陶植, ナイフ形石器, 船底形石器

第2表 四国構造自動車道建設に伴う発掘調査の概要(2)

第2節 調査の経過と体制

発掘調査は工事請負方式で行い、調査面積5,600㎡で、調査期間は平成元年10月1日から平成2年3月8日までである。発掘調査の概要は平成元年度の概報及び当センター年報*1で報告している。

整理作業は、平成10年10月1日から開始し、6ヶ月の期間をかけて平成11年3月31日に終了した。整理作業の概要は平成10年度の当センター年報*2で報告している。

発掘調査及び整理作業の体制は第3表のとおりである。

その他、日々雇用職員職員として、調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員 池内あけみ

現場事務員 松井絹代

整理作業に携わった方々は以下のとおりである。

整理員 葛西薫

整理補助員 三谷和子 小林里美 赤熊久子

整理作業員 横井あゆみ 宮本房枝 満岡稔恵 真鍋徳

*1 香川県教育委員会・財団法人香川県歴史文化財調査センター・日本道路公団高松建設局「西国横断自動車道建設に伴う歴史文化財発掘調査概報 平成元年度」1990

財団法人香川県歴史文化財調査センター『財団法人香川県歴史文化財調査センター年報 平成元年度』1990

*2 財団法人香川県歴史文化財調査センター『財団法人香川県歴史文化財調査センター年報 平成10年度』1999

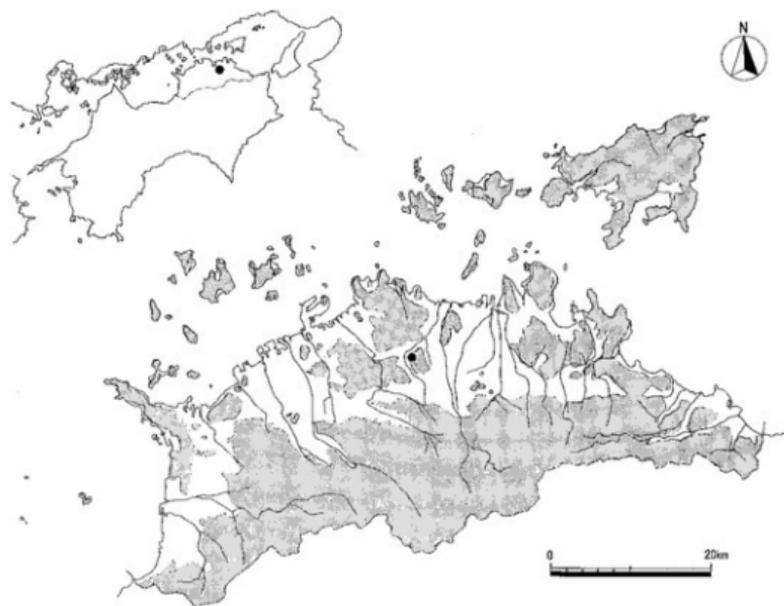
香川県教育委員会 文化行政課		
	平成元年度	平成10年度
総括	課 長 太田 彰一 課 長 補 佐 高木 尚 副 主 幹 野網朝二郎	課 長 小原 克己 課 長 補 佐 北原 和利 副 主 幹 渡部 明夫 副 主 幹 兼 係 長 西村 隆史
総務	係 長 宮内 憲生 主 任 主 事 横田 秀幸 主 事 水本久美子	係 長 中村 禎伸 主 査 三宅 陽子 主 査 松村 崇司
埋蔵文化財	係 長 大山 真充 主 任 技 師 岩橋 孝 技 師 國木 健司	係 長 西村 尋文 主 任 技 師 塩崎 誠司
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	所 長 十川 泉 次 長 安藤 道雄	所 長 菅原 良弘 次 長 小野 善範
総務	係 長 加藤 正司 主 事 三宅 浩司	副 主 幹 兼 係 長 田中 秀文 主 査 新 一郎
調査	参 事 見勢 護 文化財専門員 真鍋 昌宏 主 任 技 師 楢松 邦浩 技 師 森下 英治 技 師 佐藤 竜馬 調査技術員 山本 健 調査技術員 谷澤 幸司	主任文化財専門員 廣瀬 常雄 文化財専門員 北山健一郎 文化財専門員 山下 平重

第3表 調査の体制

第2章 調査地と周辺の地形

当遺跡は、国分寺町と高松市の境界に近く、大きく見れば（第2・3図）、堂山から六ツ目山に続く山塊と伽藍山に囲まれた谷部分に位置する。細かく見れば（第4図）、調査地北東部分は六ツ目山の支尾根の末端にあたり、それより南西は六ツ目山及びそれに続く堂山山塊の支谷の末端にあたる。調査地内は南東から北西へ傾斜しており、調査前は階段状の水田や畑地であった。標高は約41～51mである。

当遺跡の歴史的環境は既報告^{*1}に詳しいので、ここでは割愛する。



第2図 遺跡位置図(1)

*1 内センター編集の『国国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十八巻 国分寺橋井遺跡』1996、『国国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十五巻 中間西井坪遺跡Ⅰ』1996及び『国国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十八巻 国分寺六ツ目古墳』1997



第4図 遺跡位置図(3) (1/5,000)

第3章 調査の成果

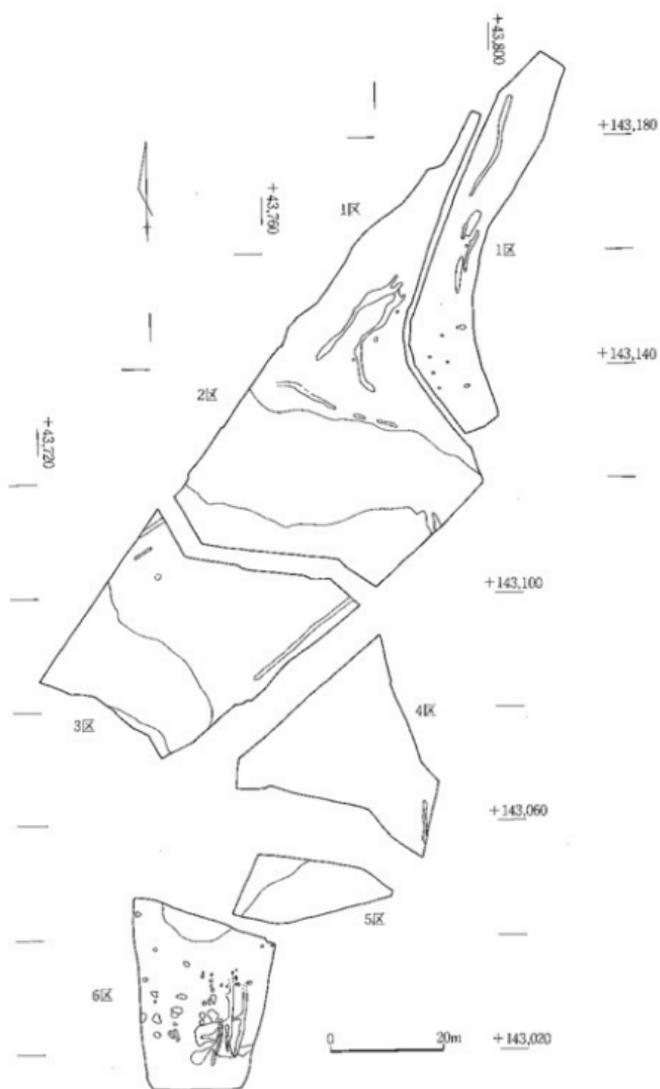
第1節 調査の方法

調査工程及び現在の地割に従い、調査区を第5図のように設定した。遺構平面の測量は主にヘリコプターによる航空測量で行い、一部の平面図及び断面図の作成を手書きで行った。

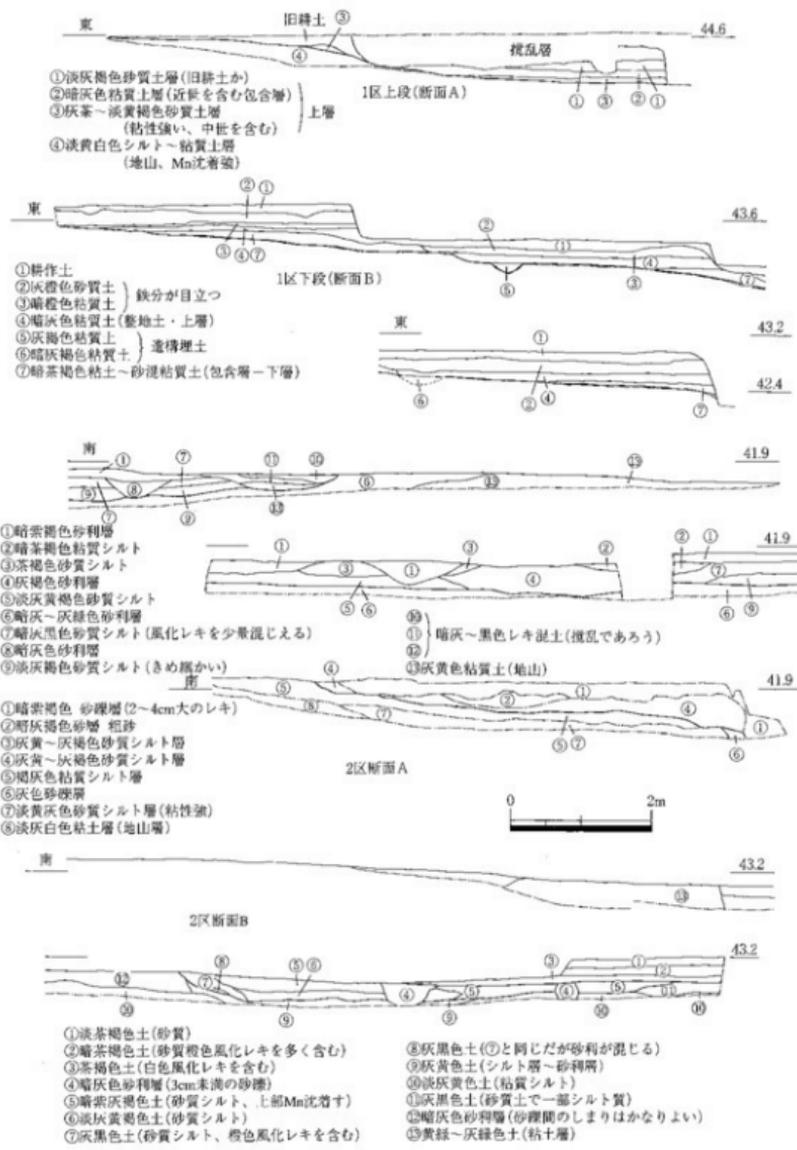
第2節 土層序

調査区内は、六ツ目山裾に当たり、2・3・5・6区に川跡がみられる複雑な地形となっている。ここでは、各調査区で作成した断面図を掲載して、調査地全体の土層を示すことにする。なお、3～5区については、後の遺構の報告時に掲載する断面図で代用する。土層断面図作成位置は、付図に示している。

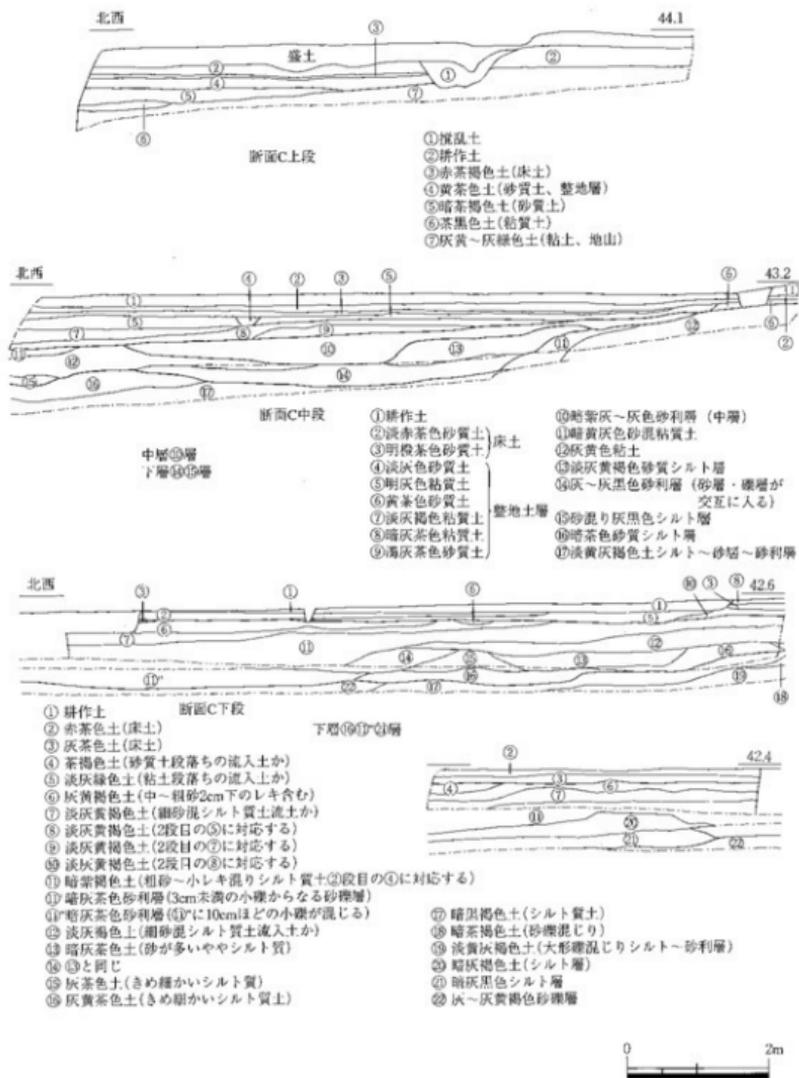
1区(第6図)は、尾根の張り出しの末端部にあたる。東から西への斜面となっている。階段状に削平を受けているが、部分的に遺物包含層が残存している。包含層は2層に分層でき、上層は中近世の土器を出土し、下層はサヌカイト剥片のみを出土する。2区(第6・7図)は川跡である。3区は、東半(第28図)が尾根の張り出し部で西半(第55図)は川跡である。4区(第31図)は3区の尾根の張り出し部の延長部分と考えられる。5区(第65図)は北西部に川跡がある。川跡の落ち込みは表土直下から見られることからかなり時期が新しいものと考えられる。なお表土直下で検出される土坑状の落ち込みである10層から木製の杓が出土している。実測図は後の包含層出土の遺物のところで、掲載する。14・15層からはサヌカイト剥片が出土している。6区(第58図)には北部に川跡があり、5区の川跡の延長であると考えられる。南側は斜面になっており、傾斜変換点以下の平坦面に建物跡が検出されている。



第5図 調査区概図 (1/1,000)



第6図 1・2区断面図 (1/80)

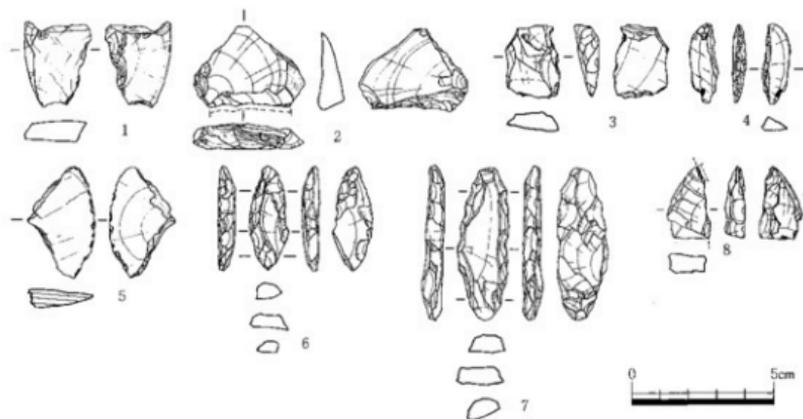


第7図 2区断面図 (1/80)

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代

遺構は検出されていない。わずかに旧石器時代のもと考えられる石器（第8図）が出土しているのみである。1はファーストフレイクを使用したナイフ形石器の刃部が折れたものであろう。背面打面部にみられる調整剥離はやや不確実ではあるが、ブランティングとしておく。緻密なタイプのサヌカイト製である。2も打面部の調整剥離がブランティングかどうかやや不確実ではあるが、ナイフ形石器としておく。緻密なタイプのサヌカイト製である。3は3辺が折れているが、ブランティング状の剥離があることから、下部を刃部とするナイフ形石器と考えられる。緻密なタイプのサヌカイト製である。4は小型ナイフ形石器である。緻密なタイプのサヌカイトを使用している。5もナイフ形石器と考えられる。風化が進んでいることと二次加工が急斜度であることから判断した。打面部は半分が礫面でのままで、半分にはブランティングが施されている。背面の剥離方向は不明である。緻密なタイプの石材を使用している。6・7は角錐状石器である。いずれも3面加工である。6は緻密なサヌカイトで、7は白色に風化したサヌカイトである。8も破片にすぎないが、3面加工の角錐状石器と考えられる。図の上側にはつぶれがみられる。緻密なサヌカイトを利用している。



第8図 旧石器実測図 (1/2)

2 縄文時代

遺構としてはサヌカイト集積遺構がある。また、包含層から石器及び剥片が出土している。縄文土器は出土していないため、詳細な時期は不明であるが、石鏃の形態、石匙の多さ及び剥片の風化の程度から、縄文時代のもので考えておく。なお、以下に掲載する石器の石材及び重量については観察表を参照されたい。また、後世の遺構出土の石器についてもここでまとめて報告しておくので、出土位置については観察表を参照されたい。

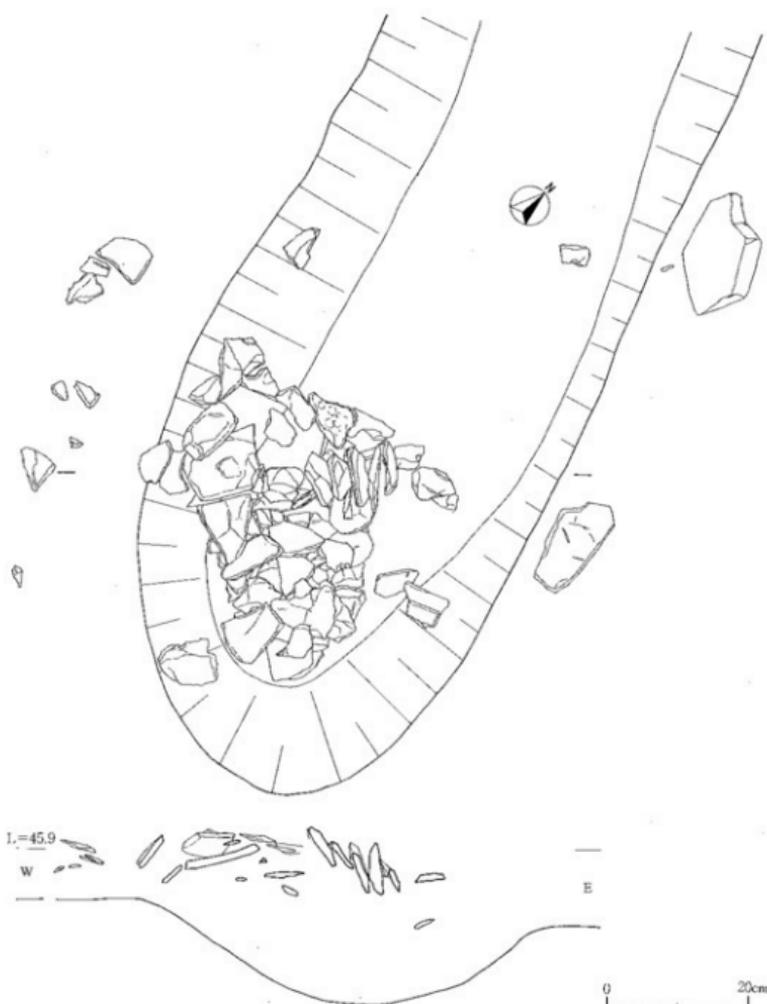
サヌカイト集積遺構（第9～12図）

4区において、サヌカイトの板状剥片が多数集中した状況で検出された。このうち製品は石匙1点のみである。集積下で検出した土坑状の落ち込みは、調査時に埋土が把握しがたく遺構かどうかはやや疑問が残る状況であった。剥片の出土標高値から考えると、確実にこの落ち込みに伴うとは考えられないことから、集積下の土坑の存在は確証が無いといえる。第12図は東西及び南北方向からみた土坑状落ち込みの断面と剥片の出土位置図である。

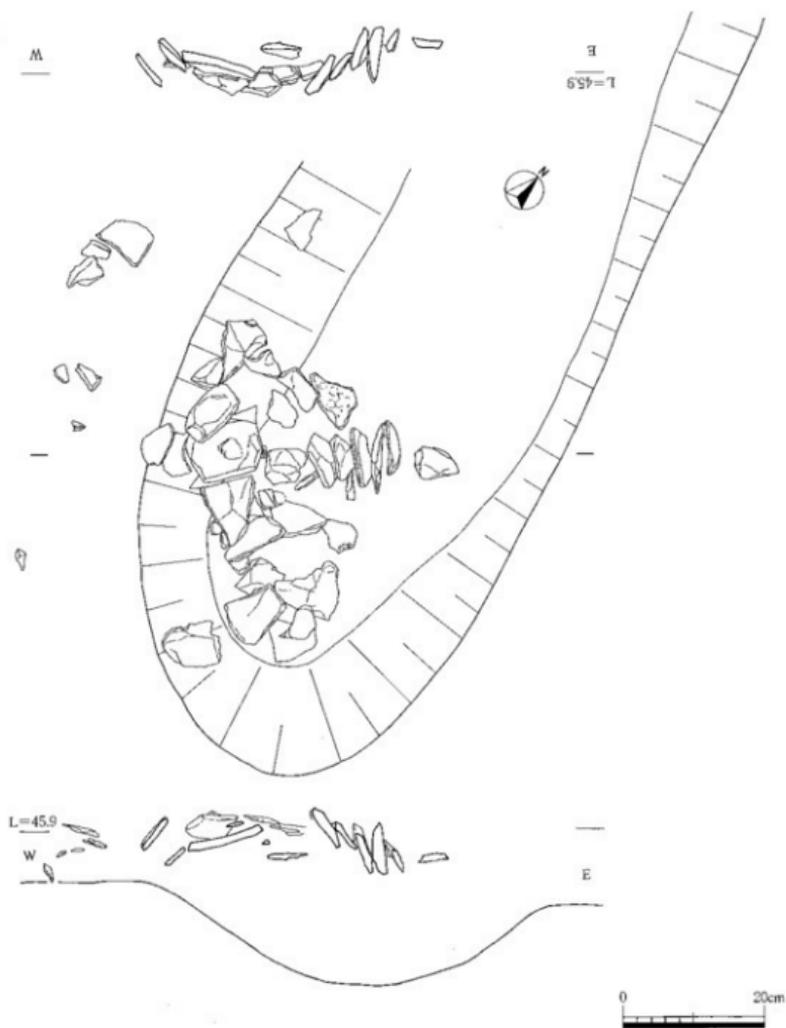
剥片（製品含む）は112点出土したが、そのうち109点が金山産サヌカイトと考えられるやや白色に風化した石理の目立つ石材である。3点はやや黒色を呈し、石理の目立たないサヌカイトである。サヌカイト以外の他石材は出土していない。剥片の総重量は、**4376.66 g**である。このうち金山産と考えられる剥片の総重量は、**4373.96 g**である。他の産地のサヌカイトの総重量は、**2.70 g**である。

接合作業の結果、剥片49点が接合し、18点の接合資料を得ることができた。第13～27図は出土した剥片であり、これらの剥片の中で接合した資料は第21～27図である。このうち、集積遺構以外から出土した剥片と接合した資料については、集石遺構以外から出土した剥片の実測図を同時に掲載している。接合資料の集積遺構外出土剥片の位置は、出土位置不明の1点を除いて、いずれも集積遺構から3m以内の距離である。接合資料のうち、いわゆる折れ面接合については接合した状態で単独の剥片とみなしている。以下には集積遺構出土剥片のうち、13点を除いてすべての実測図を掲載した。不掲載の剥片には、他産地の石材の3点の剥片、小剥片の接合資料1点を含んでいる。

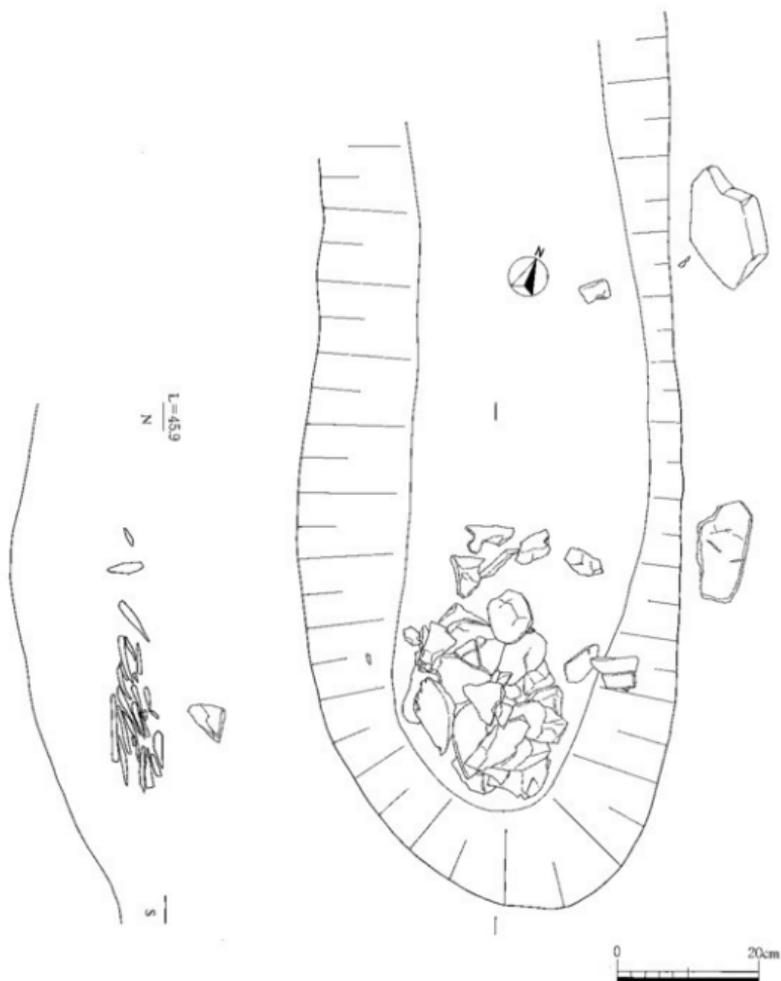
9は、石匙である。この遺構から出土した唯一の製品である。10～17は、背面に大きく



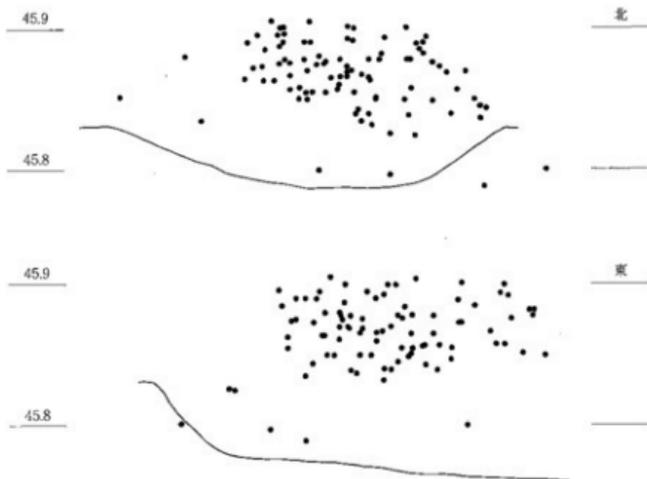
第9図 サマカイト集積遺構平・断面図 (1/8)



第10図 サマカイト集積遺構上位平・断面図 (1/8)



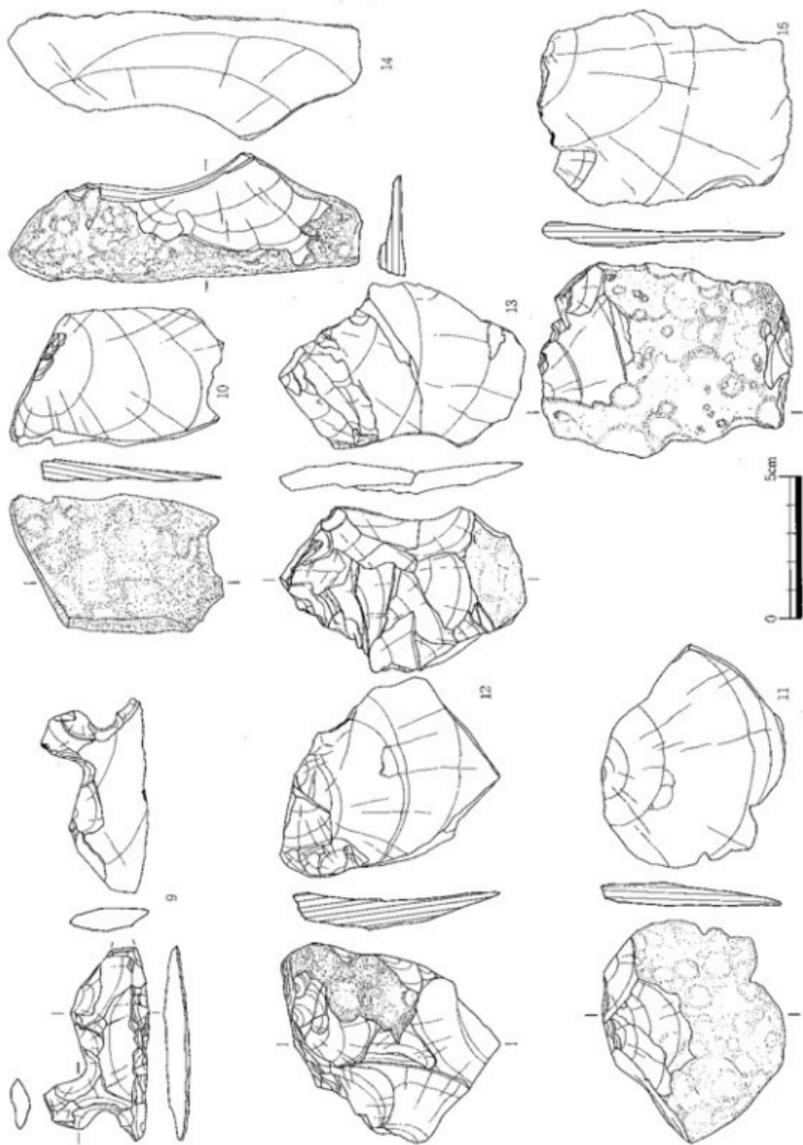
第11図 サヌカイト集積遺構下位平・断面図 (1/8)



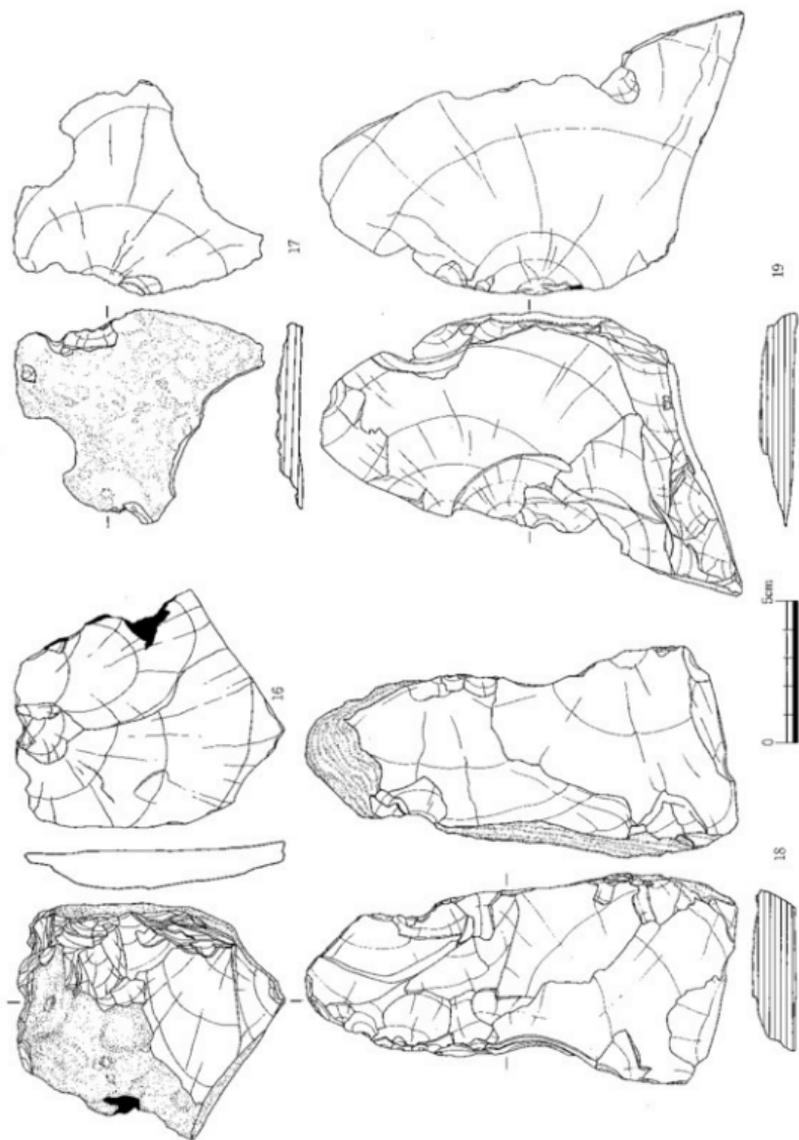
第12図 集積遺構出土剥片垂直分布図（縦1/4・横1/8）

礫面のある剥片である。13は背面剥離面の一部の潜在割れ^{*1}にそって割れたものが接合したものである。16裏面の右側の剥離は潜在割れによるものかもしれない。18～67は、側辺の一部に礫面のある剥片である。18の裏面の下側の大きな剥離面は潜在割れによるものであろう。20は接合資料であるが、裏面には2面の潜在割れがあり、一番下の剥離面が最終剥離面である。背面はやや風化している。22～24の裏面は両極技法により形成されている。25裏面右側の剥離面は潜在割れにより形成されたものである。29裏面右側の剥離面も同様である。37裏面は両極技法により形成されている。38は接合資料である。43も接合資料であり、裏面右側には背面の1剥離面形成時の潜在割れにより形成された面が認められる。48は接合資料で、裏面は両極技法により形成されている。接合面は主要剥離面形成時の垂直割れの面である。49背面には両極技法による剥離面が認められる。裏面の2面の剥離面は裏面形成時に同時に剥離したものと考えられる。52・54裏面は両極技法により形成され

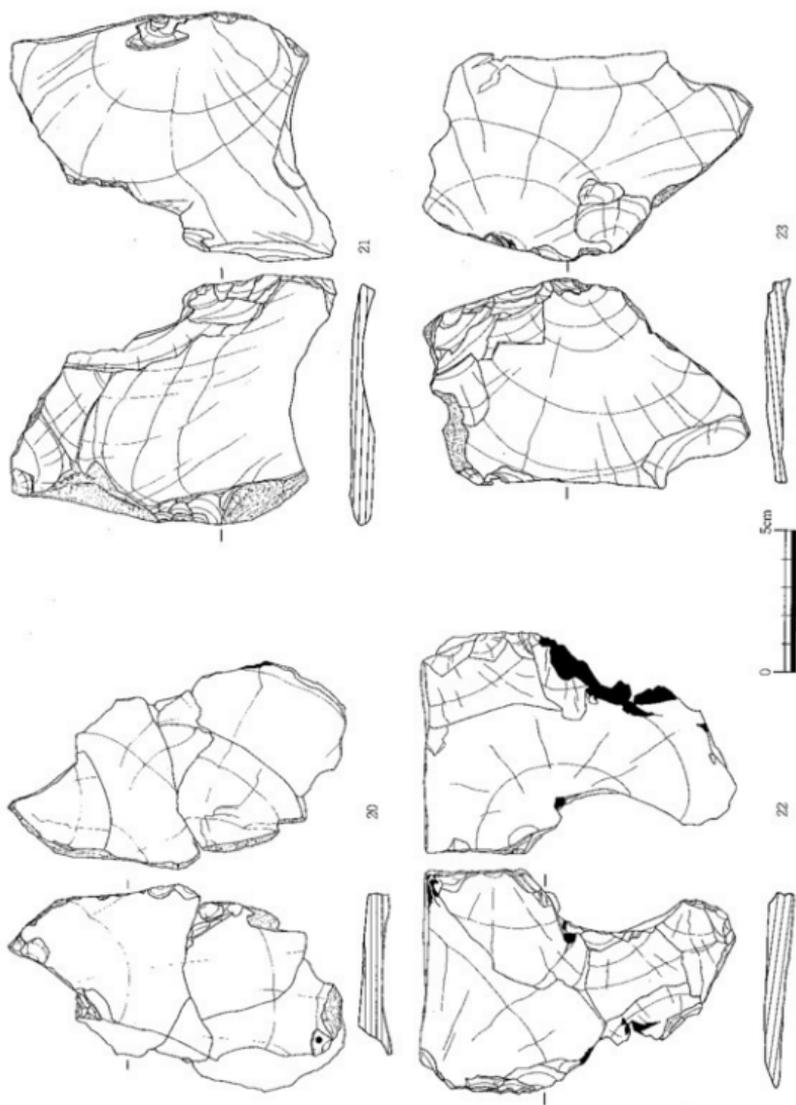
*1 ここでは次の様に定義しておく。潜在割れとは、打撃により生じた剥離面が完全に現出していないものを指す。目に見える場合は、ひび割れとして観察できる。以下も同様な意味でこの用語を使用する。



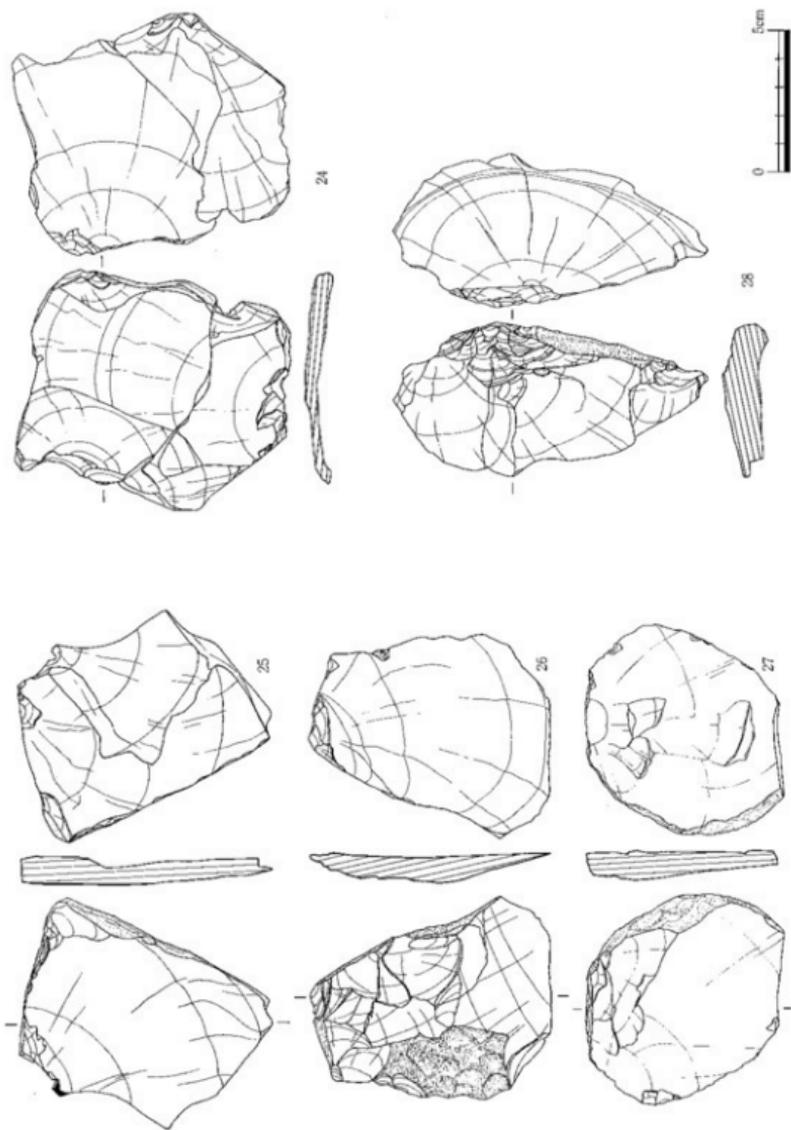
第13圖 集種遺構出土石器類 (1) (1/2)



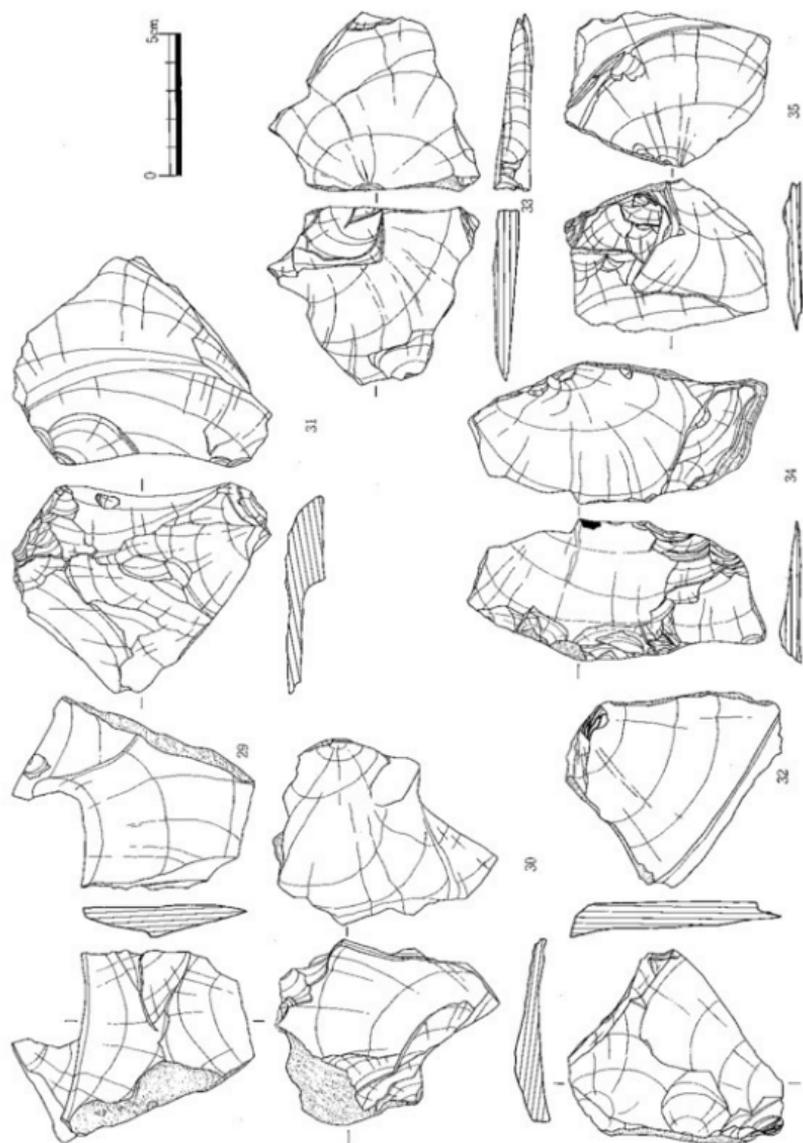
第14圖 集積遺構出土石器類(2)(1/2)



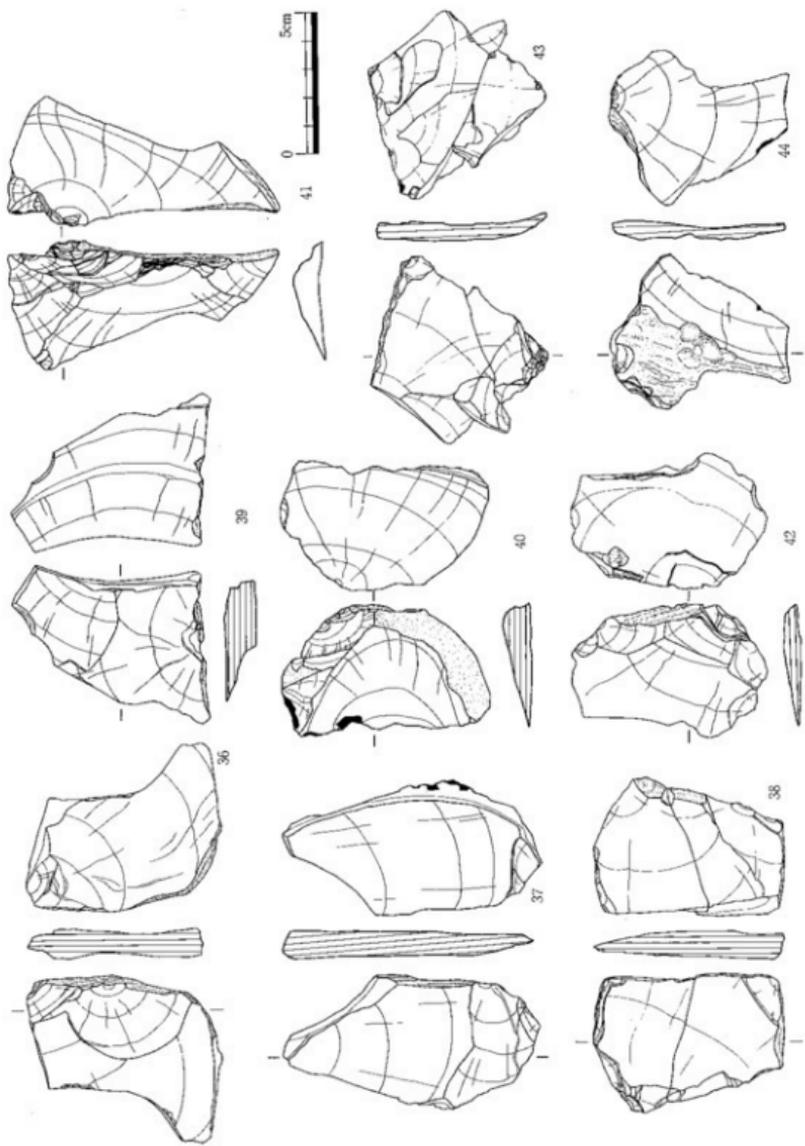
第15図 集積遺構出土石器類 (3) (1/2)



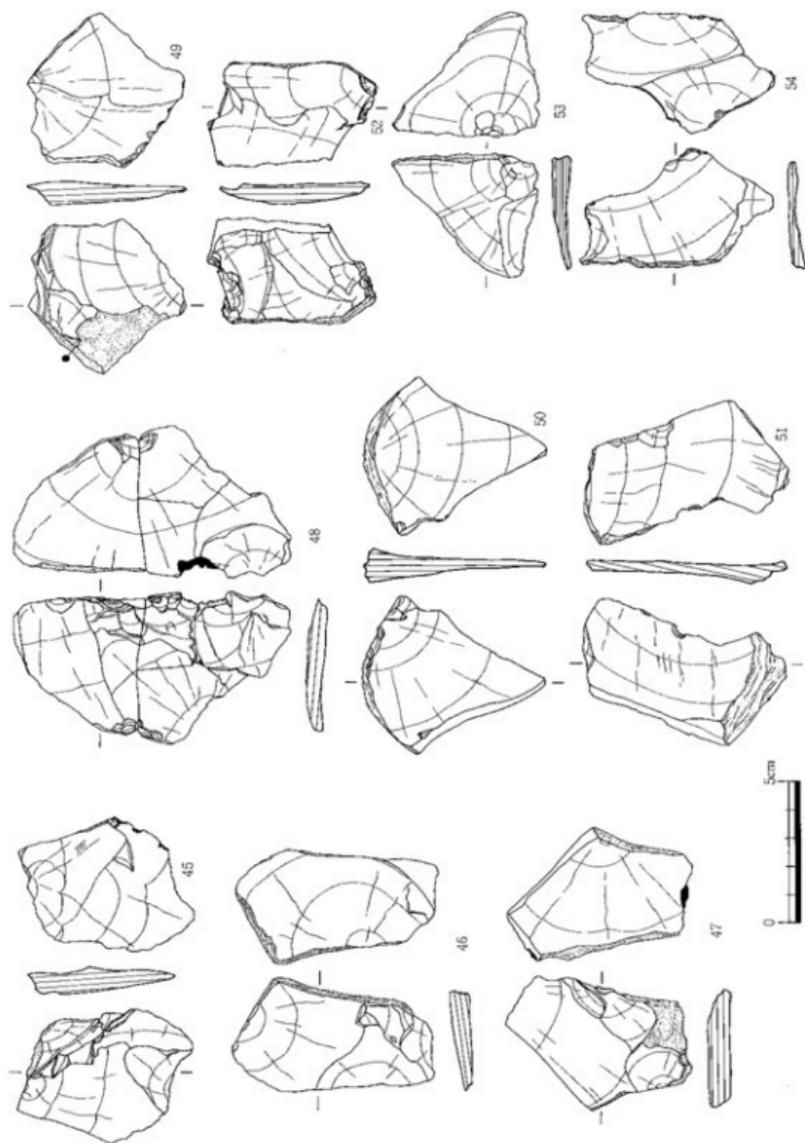
第16図 集積遺構出土石器類(4)(1/2)



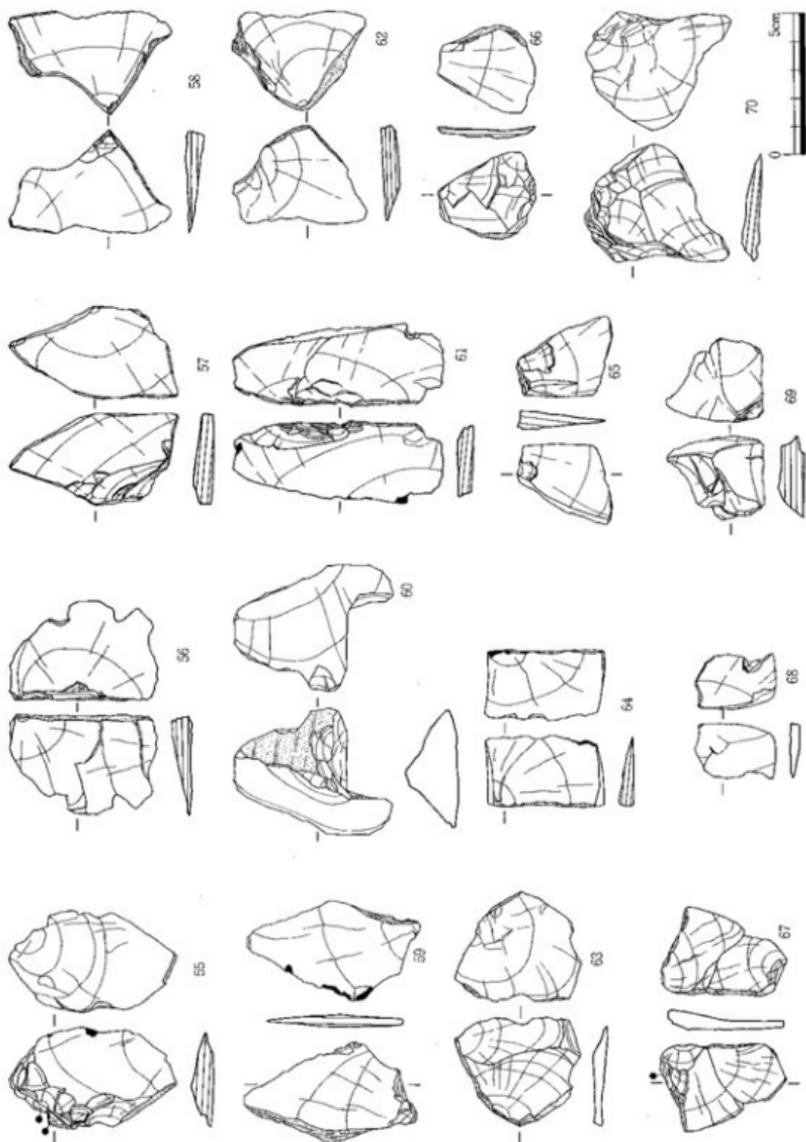
第17圖 集積遺構出土石器類 (5) (1/2)



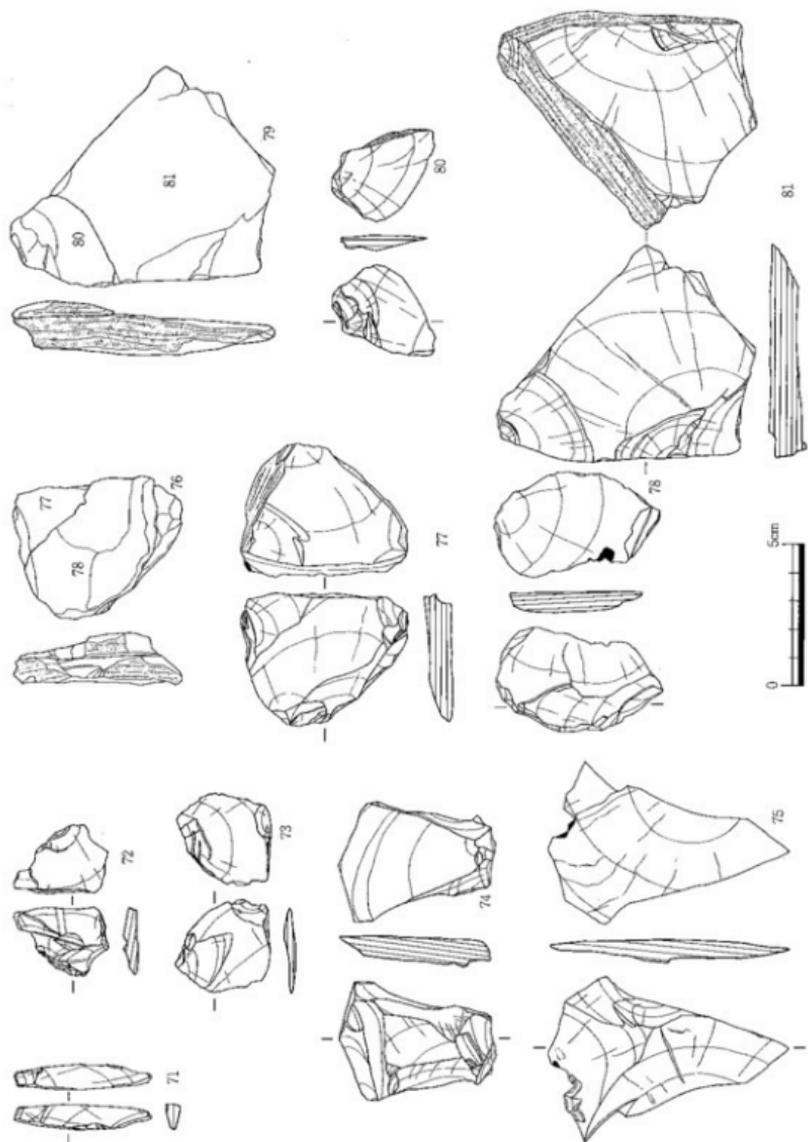
第18圖 集積遺構出土石器類 (6) (1/2)



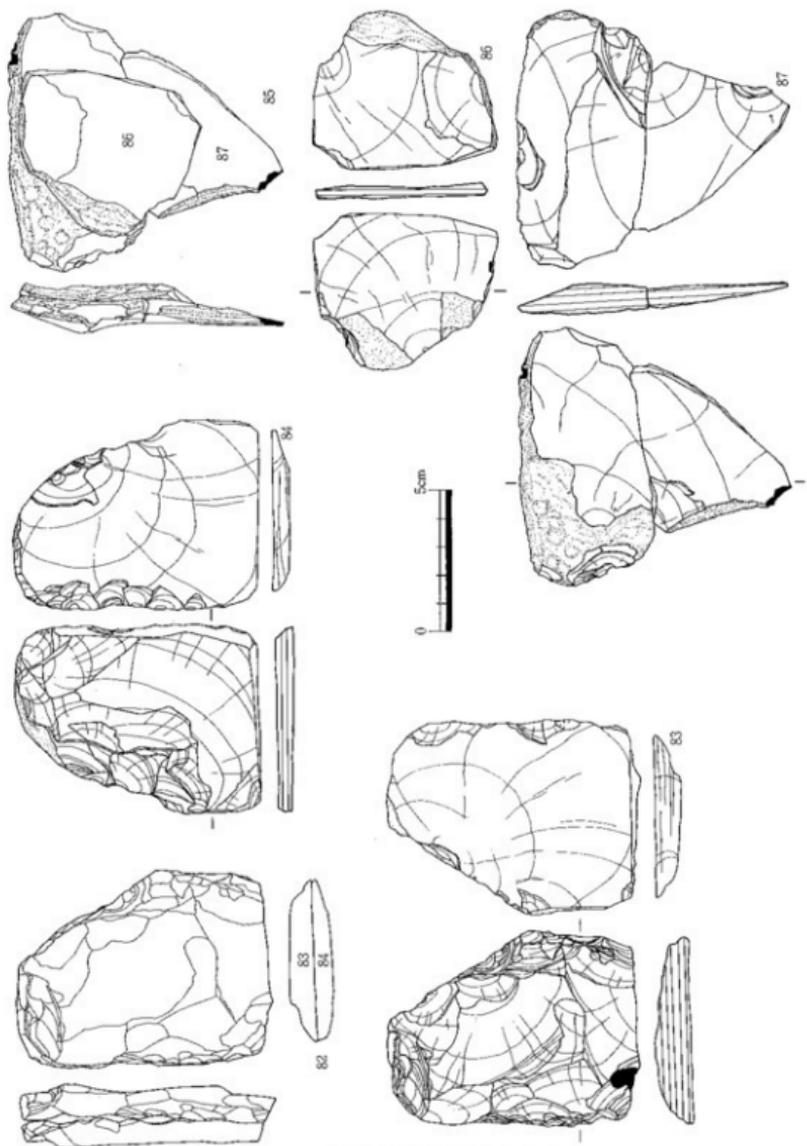
第19図 集積遺構出土石器類 (7) (1/2)



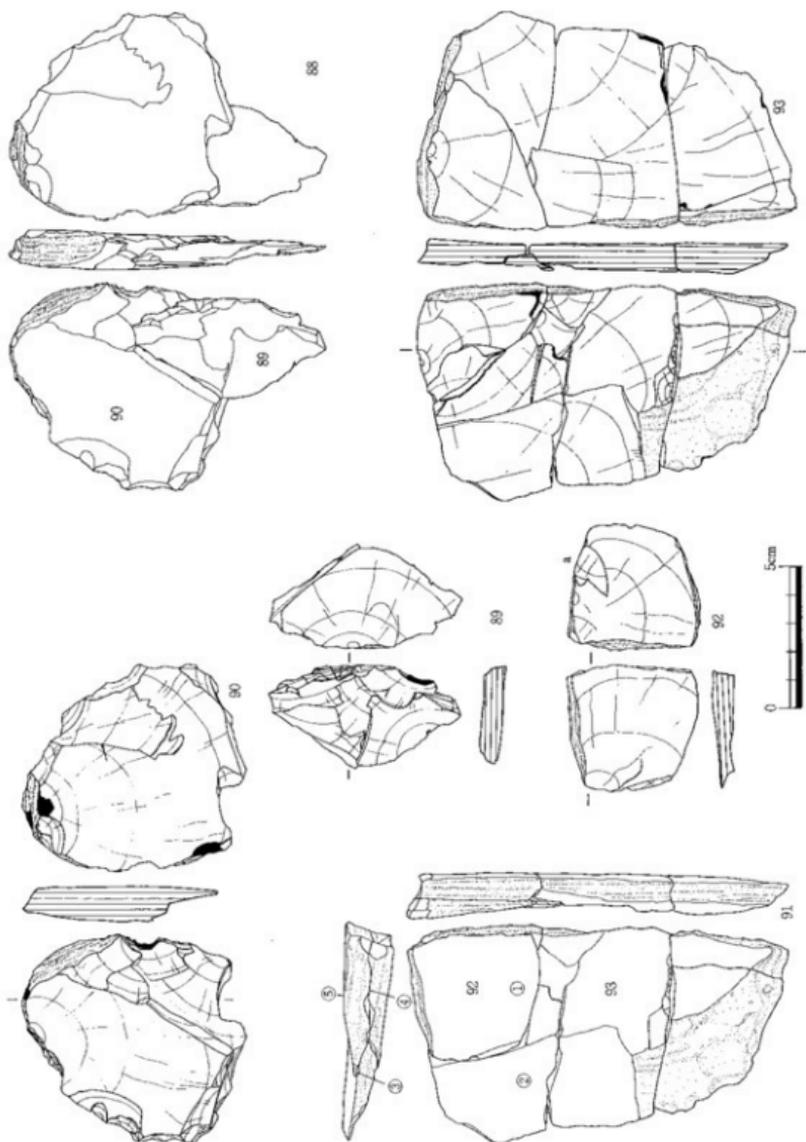
第20圖 集積遺構出土石器類 (8) (1/2)



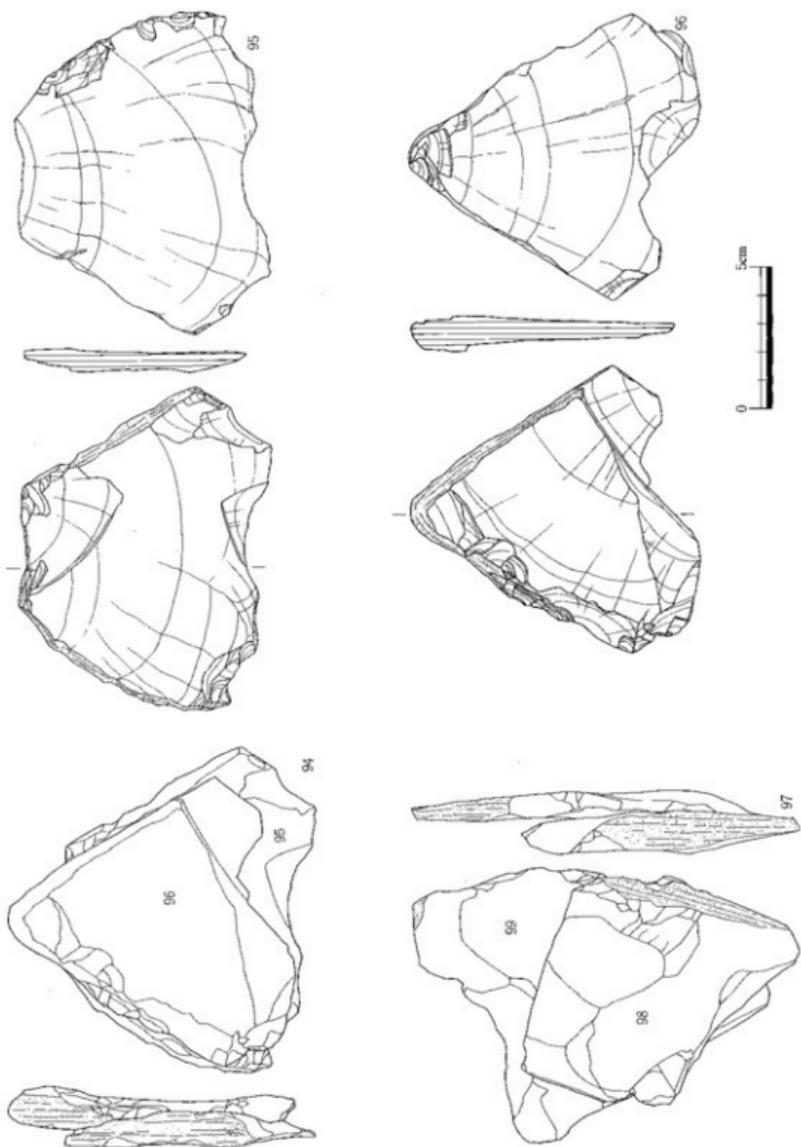
第21圖 集積遺構出土石器類 (9) (1/2)



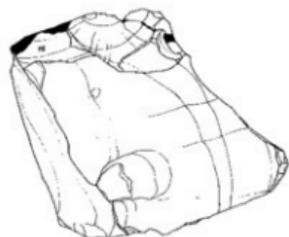
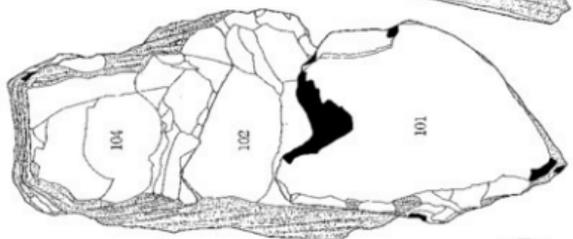
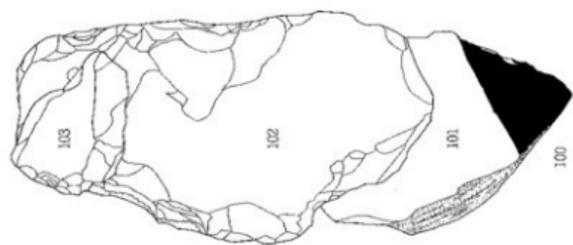
第22図 集積遺構出土石器類 (10) (1/2)



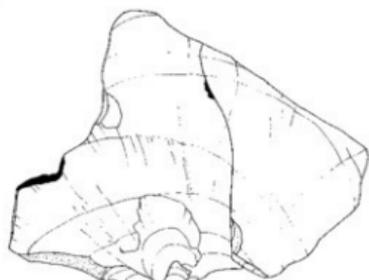
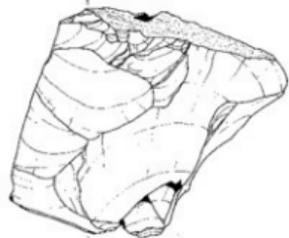
第23圖 集積遺構出土石器類 (11) (1/2)



第24图 集積遺構出土石器類 (12) (1/2)



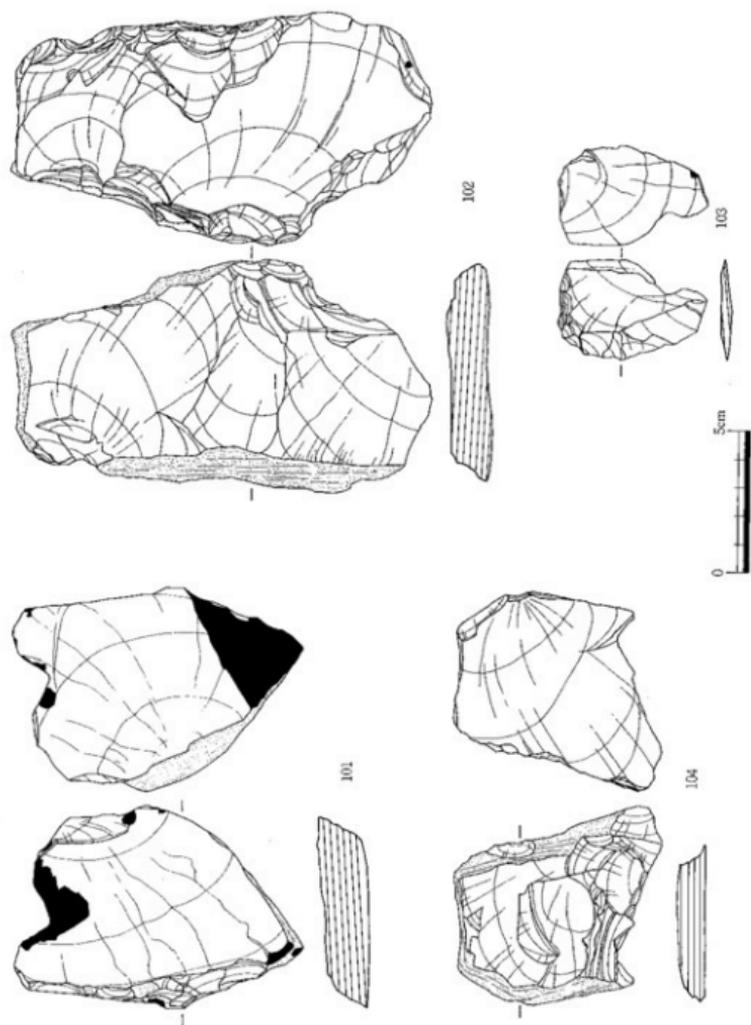
88



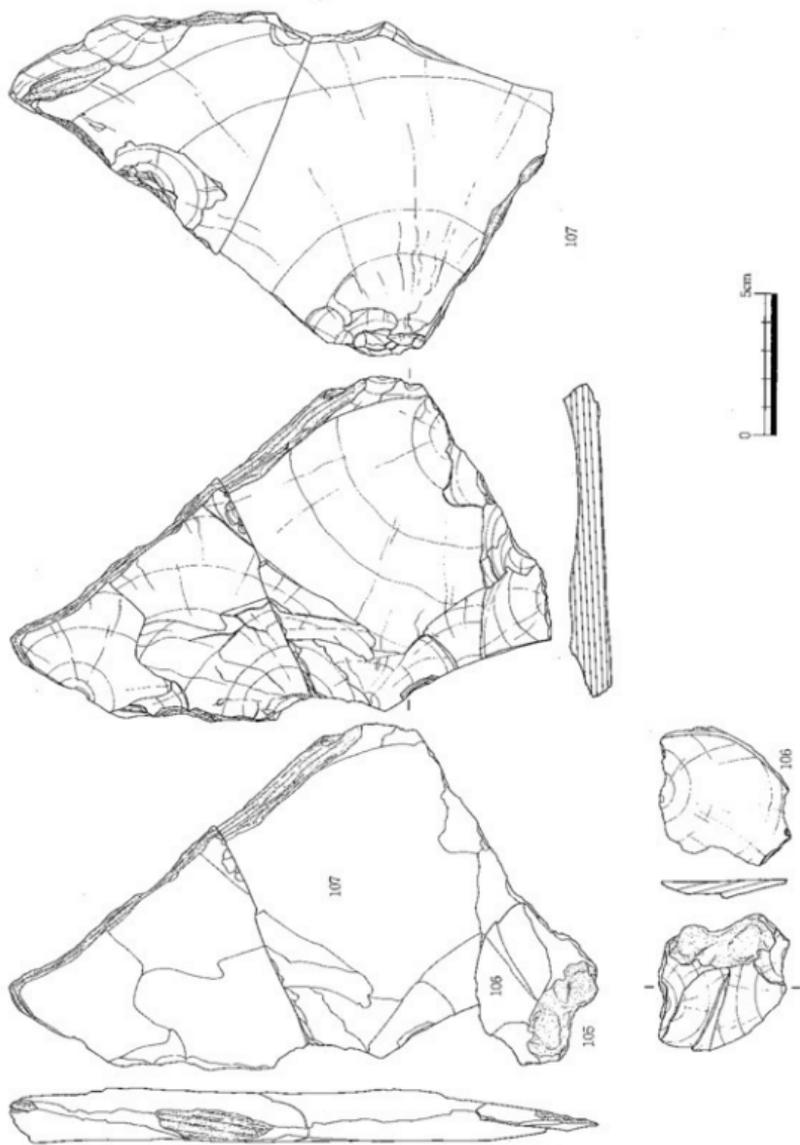
89



第25圖 集積遺構出土石器類 (13) (1/2)



第26図 集積遺構出土石器類 (14) (1/2)



第27図 集積遺構出土石器類 (15) (1/2)

ている。60はやや風化進んだ剥片である。左図右下の面は右側からの打撃による一番新しい剥離面である。67は接合資料で、風化が進んでいる。裏面は両極技法により形成されている。68～75は礫面が認められない剥片である。

第21～27図は接合資料である。接合資料76は、77と78の主要剥離面の前後関係は不明である。77裏面の上側には潜在割れにより剥離面が見られる。主要剥離面の打点は右側である。接合資料82は、下部の分割面形成後、83と84を両極剥離技法で剥離したものである。83背面左側の小剥離面には裏面より新しいものがある。84背面左側の剥離面は裏面より古いものである。接合資料85は、87、86の順に剥離されている。87は剥離後裏面左側中央部分から分割打撃が行われている。86は両極技法で裏面が形成されている。接合資料88は89、90の順に剥離されている。90裏面右側の大きな剥離面は潜在割れによるものであろう。接合資料91は、92に93裏面右上からの打撃時の潜在割れによる剥離面（a面）が認められることから、図のような剥離の順序が考えられる。④と⑤の前後関係は確実ではない。接合資料94の2つの剥片の剥離順序は不明である。接合資料97は98、99の順に剥離している。98断面図左側の折れ状の面は裏面より古いこと及び99のこの部分はこの折れ状の面とは連続しないことから、99と接合していた時には、この部分が階段状剥離をなしていたと考えられ、98裏面a面は、この階段状剥離時の形成された潜在割れであると考えられる。接合資料100は、102の背面と裏面の観察から101、102の順の剥離されたことがわかる。また102、103の剥離順序も明らかである。ただ、104の剥離順は不明である。接合資料105は、106、107の順に剥離している。107裏面右上には両極技法による剥離面が形成されている。

包含層出土の石器

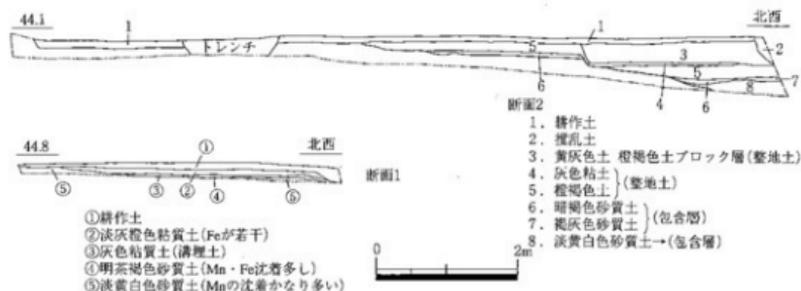
3区

出土位置を記録して取り上げた剥片等の平面分布、この分布範囲内で作成した土層断面図（第28図）の位置及び等高線（等高線は航空測量図面に依るもので、図面に無い5cm単位の等高線は便宜的に10cm単位の等高線の中間とした）を図示したのが、第29図である。断面図1（第28図）によれば、サヌカイト剥片の含む層は第4層である。従って溝3区SD01とそれより北西側にやや下った位置にある後世に形成された段の上端との間が包含層が残存している範囲と考えられる。包含層出土遺物は少なくとも包含層形成以後の攪乱等による移動はないものと考えられ、包含層の範囲が剥片等分布図の有効範囲（剥片等が本来の位置を留めている範囲）を含むものと考えられる。ただし、包含層の広がりについ

ては平面図では記録していないので、一部の断面で観察される包含層が水平に広がっているものと仮定する必要がある。また、断面図2（第28図）によれば、6～8層が包含層でそれより上層は後世の耕作土、整地土及び攪乱土である。すなわち、包含層が残存している範囲は、基盤層の標高43.5～43.65mの間と、43.2m以下で、この部分が剥片等分布の有効範囲を含むと考えられる。次に出土位置が標高から考えて包含層内にあるかどうか判断するため、出土位置の基盤層の標高と出土位置記録の標高値を比較する。比較は以下の方法で行った。

- 1 包含層の厚さは約5～10cmである。
- 2 出土位置の基盤層の標高は便宜的に5cm等高線間の中間値とした。
- 3 出土位置の標高値から基盤層の標高値を引き、その値が12.5cmまでのものを包含層内から出土したと判断する。

以上の方法で包含層出土と判断できるものの分布状況は第30図である。ただ、包含層は基本的に斜面堆積であるので、遺物が移動している可能性はある。



第28図 3区断面図(1/80)



第29图 3区出土陶片等全点分布图



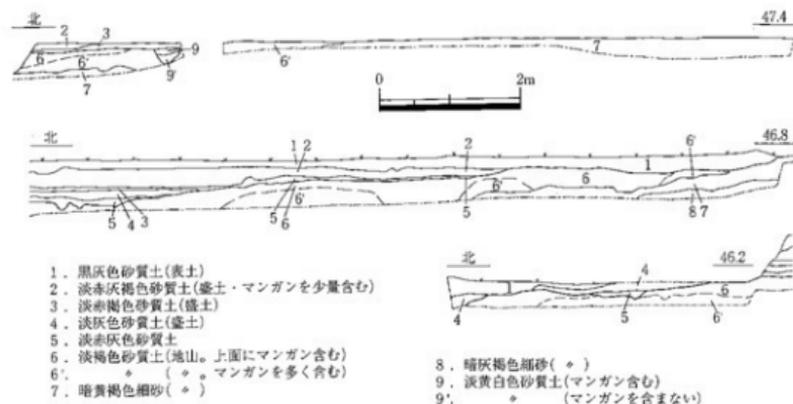
第30图 3区出土骨片等有效分布图

4区

出土位置を記録して取り上げた剥片等の平面分布、この分布範囲内で作成した土層断面図(第31図)の位置及び等高線(3区と同様)を図示したのが、第32図である。この図では、出土位置を示す点が調査区外に位置するものがあるが、これは平板測量による誤差によるものと考えられる。誤差の修正は困難なため、ここではそのまま掲載する。断面図(第31図)によれば、2~4層は近世以降の陶磁器が出土する整地層で、サヌカイト剥片のみを含む層は第5層と考えられる。3区と同様に考えれば包含層が残存している範囲は、基盤層の標高46.05~46.25mの間と、45.9m以下で、この部分が剥片等分布の有効範囲を含むと考えられる。3区と同様な方法で、包含層出土と判断できるものの分布状況は第33図である。ただ、包含層は基本的に斜面堆積であるので、遺物が移動している可能性はある。

出土石器

ここでは集積遺構以外から出土した石器をまとめて掲載する。出土位置及び重量等は観察表を参照されたい。遺構名欄のMSⅣAあるいはMSⅢA以降の数字が取り上げ時の番号である。なお、前記した有効範囲にある包含層出土の石器については備考欄に「有効」と表記している。



第31図 4区断面図(1/80)

108～112は平基式の石鏃である。113～147は凹基式の石鏃である。116片面は風化のため剥離方向が不明である。148・149は尖基式の石鏃である。150は凸基有茎式の石鏃であるが、あまり風化していないため、弥生時代のものである可能性がある。151と152は基部が欠損している石鏃である。153は石鏃としたが、片面加工のため、未製品あるいはスクレイパーの可能性もある。

154～175は石鏃の未製品と考えられるものである。159は右側の面に多く二次加工が見られる。163は楔形石器の削片と考えられるものの片側に二次加工がみられるものである。173は二次加工があまりされていないが剥片の大きさから考えて石鏃の未製品とした。

176は楔形石器の削片を利用したもので、石錐としたが、石鏃未製品の可能性もある。

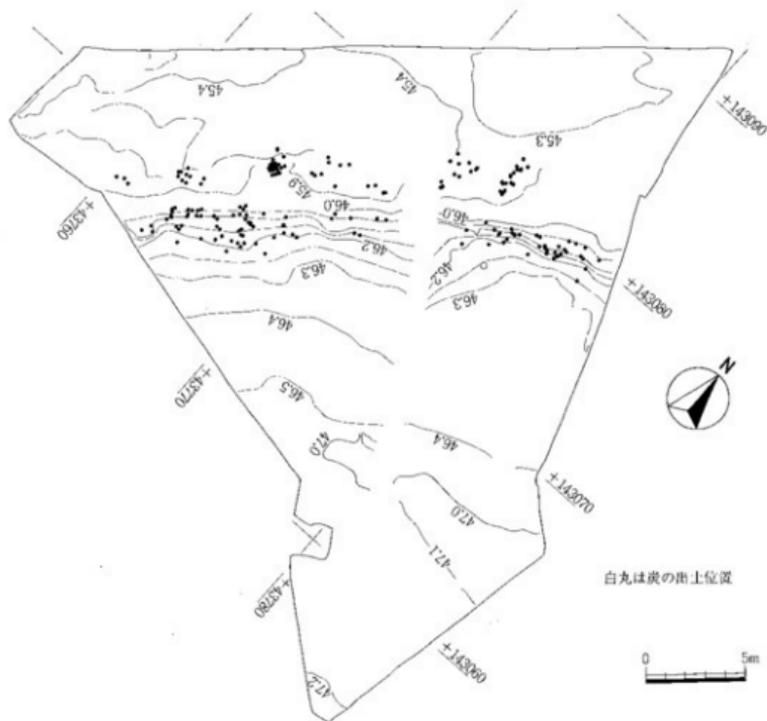
177・178は縦型の石匙である。179～184は横型の石匙である。185はつまみ部分が小さい。



第32図 4区出土剥片等全点分布図

186はつまみ部分が欠損している。187～189は石匙の未製品と考えられる。187は欠損しているため明らかではないが、石匙の未製品の可能性もあろう。

190～228はスクレイパーである。194の刃部はやや摩滅済みである。209は側縁と下側に刃部があり、側縁の刃部は摩滅している。210は分割面がある。211は楔形石器削片を利用したものである。213は石匙の可能性はある。215は上部及び片側縁部に敲打痕がみられ、左図下半の分割面の端部（図下側）を軽く敲打調整をして刃部にしているものと考えられる。216は左図の左側に二次加工がある。217は全体にやや摩滅している。218は楔形石器削片状のものであるが、図上側の端部の調整は軽い敲打による調整であることから、刃部調整と見なし、スクレイパーと考える。219も全周に軽い敲打による調整が見られる。222は石核を転用したものと考えられる。



第33図 4区出土剥片等有効分布図

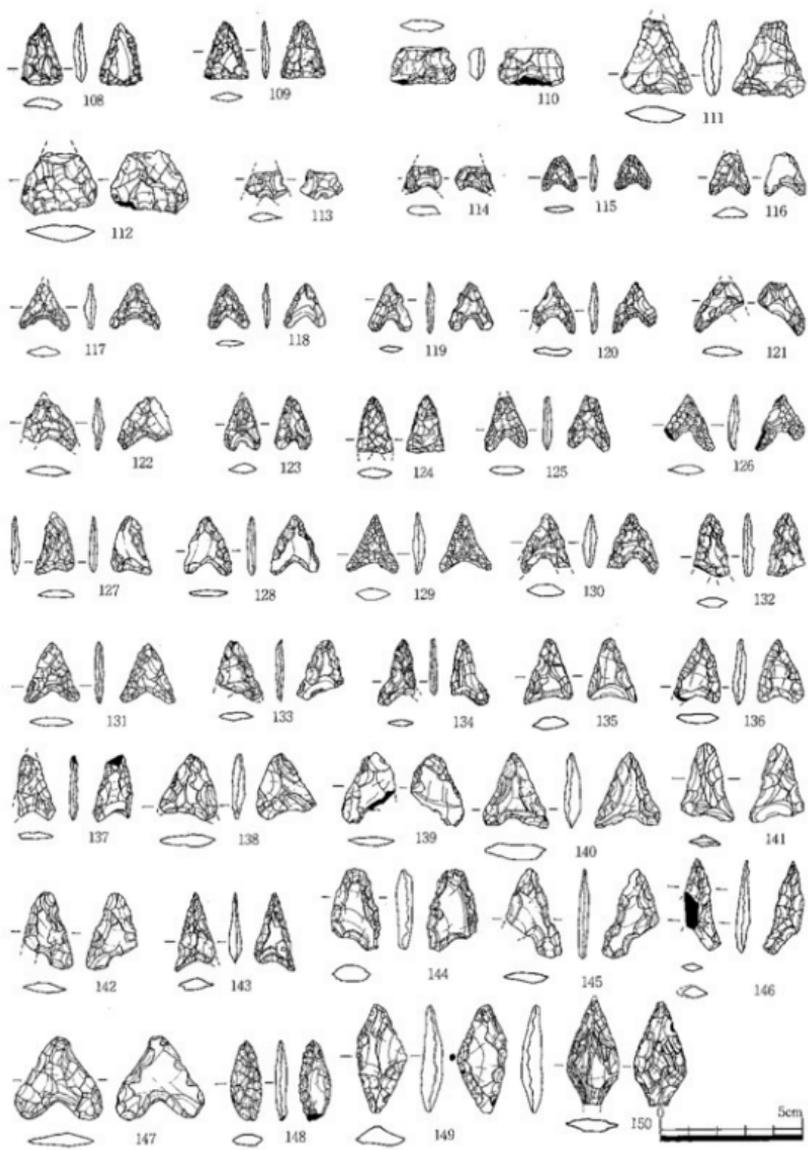
229～262は楔形石器あるいはその削片である。

263～283は二次加工のある石器である。264・268は石鏃未製品の可能性もある。271には主要剥離面打点部に大きく急斜度の二次加工がある。272は円礫に近い礫面をもつ。273は右図下側の小剥離部分がやや摩滅している。274は縦番剥離をおこした主要剥離面端部に急斜度の二次加工を行っている。277は上部折れ面を打点とした二次加工を行っている。278は左図の左側の剥離面は石核の剥片剥離と考えられるが、やや不整形である。281は左図下側に二次加工があり、右図右側の剥離面は石核の剥片剥離と考えることもできる。282は右図左下に二次加工がみられ、これは石核の剥片剥離とも考えられるが、やや不整形である。283は右図右側に二次加工があるが、あまり整ったものではない。

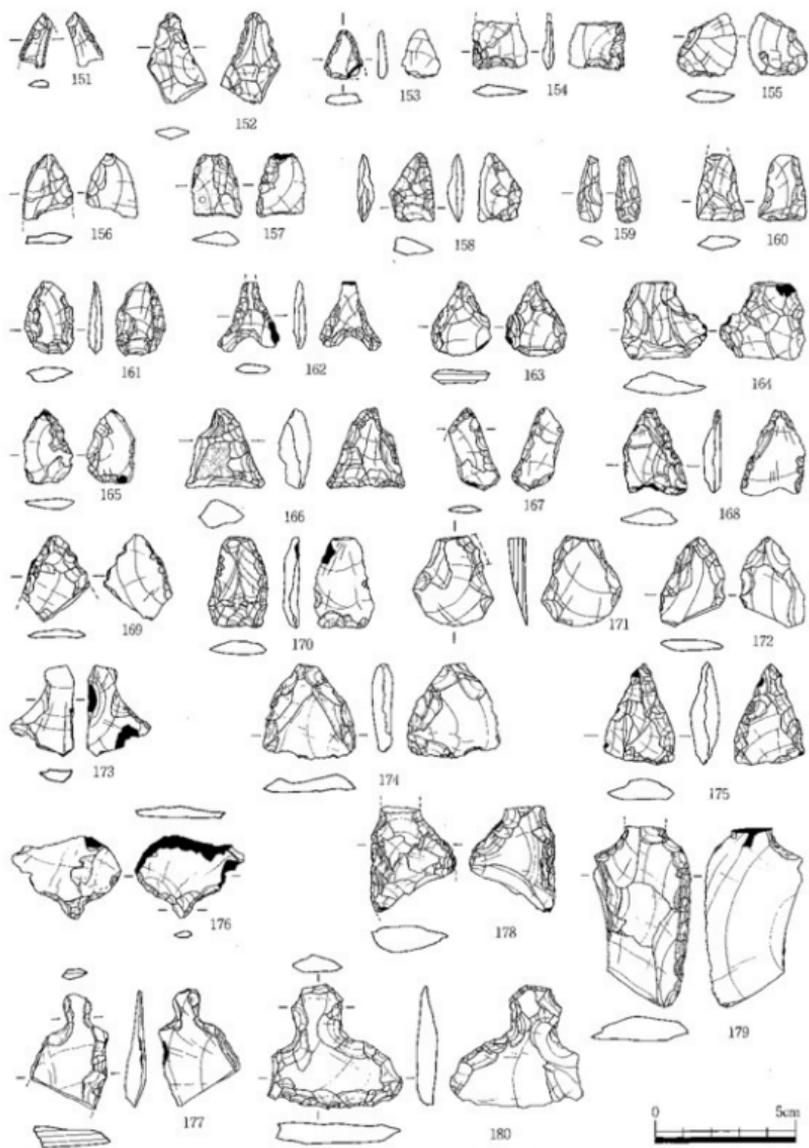
284～289は小剥離痕のある石器である。286右図左の剥離面は潜在割れにより形成されたものと考えられる。288は石核分割面に小剥離痕がみられるものである。290は摩滅痕のある石器である。291～294は横長及び縦長の剥片である。295は敲打痕のある石器である。296は大きな板状の剥片である。

297～326は石核である。297は剥片剥離後、分割されている。300は右図の主要剥離面形成後、上部の分割面を形成し、この分割面を打点として剥片剥離を行っている。301は左図左右が作業面と考えられ、剥片剥離後の二次加工が右図右側にみられる。303は周辺に著しい敲打痕がある。305は左図側を最初に作業面としており、その後右図下側に折れ面が形成されている。この後右図側を作業面としている。307は分割面（中図）を打点として剥片剥離が行われている。310は作業面が右平面図側から左平面図側へ移動している。312は①～④の順に剥離が行われたと考えられるが、②と③の順序は確実ではない。317は両側縁を打撃して剥片剥離を行っているものと考えられる。左図左側は何度も打撃しているが、有効な剥片は剥離できていない。321は中央左図と右図の左下に作業面がある。322は周囲がやや潰れ気味である。風化が進んでいる。324は大きな板状剥片から大きな剥片を剥離後、分割されたものである。325は両面が作業面と考えられ、左図から右図へ作業面を変えている。326は整った交互剥離による剥片剥離が行われている。

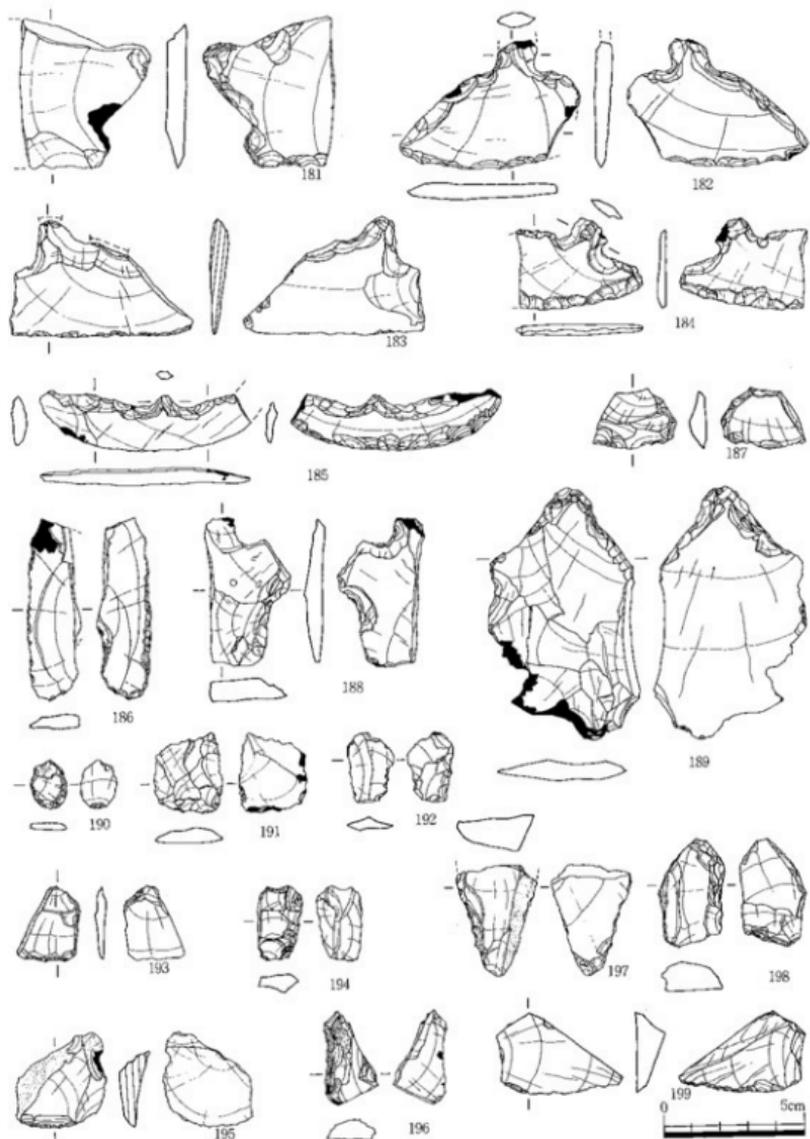
327は小型円盤状の石器である。328・329は凹み石である。329は右図左側にも凹みがあるが、自然面との区別は明らかではない。



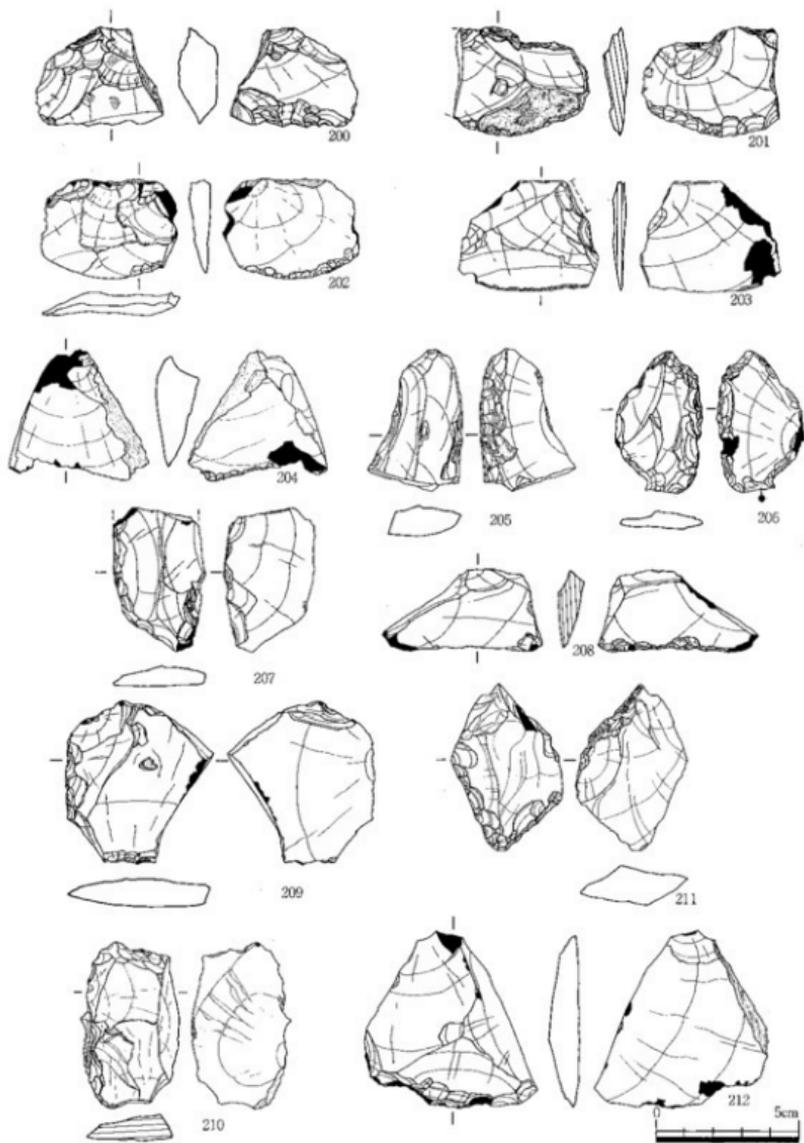
第34图 包金屑出土石器 (1) (1/2)



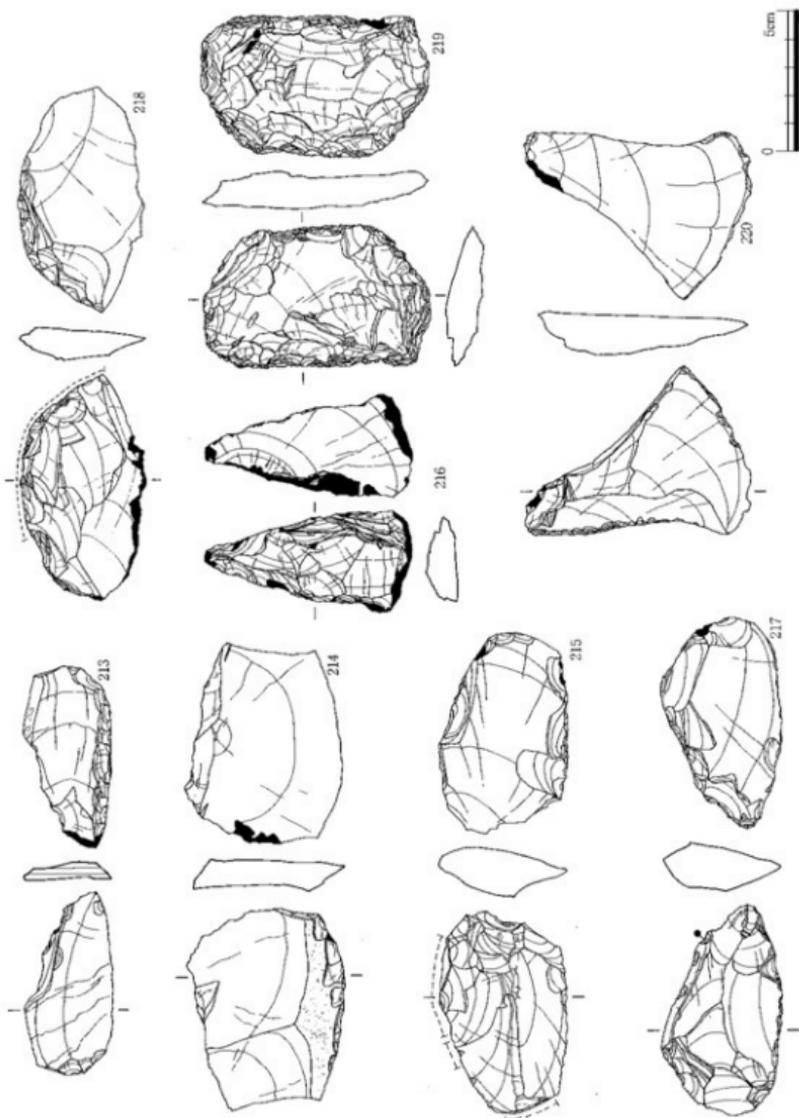
第35圖 包含層出土石器(2)(1/2)



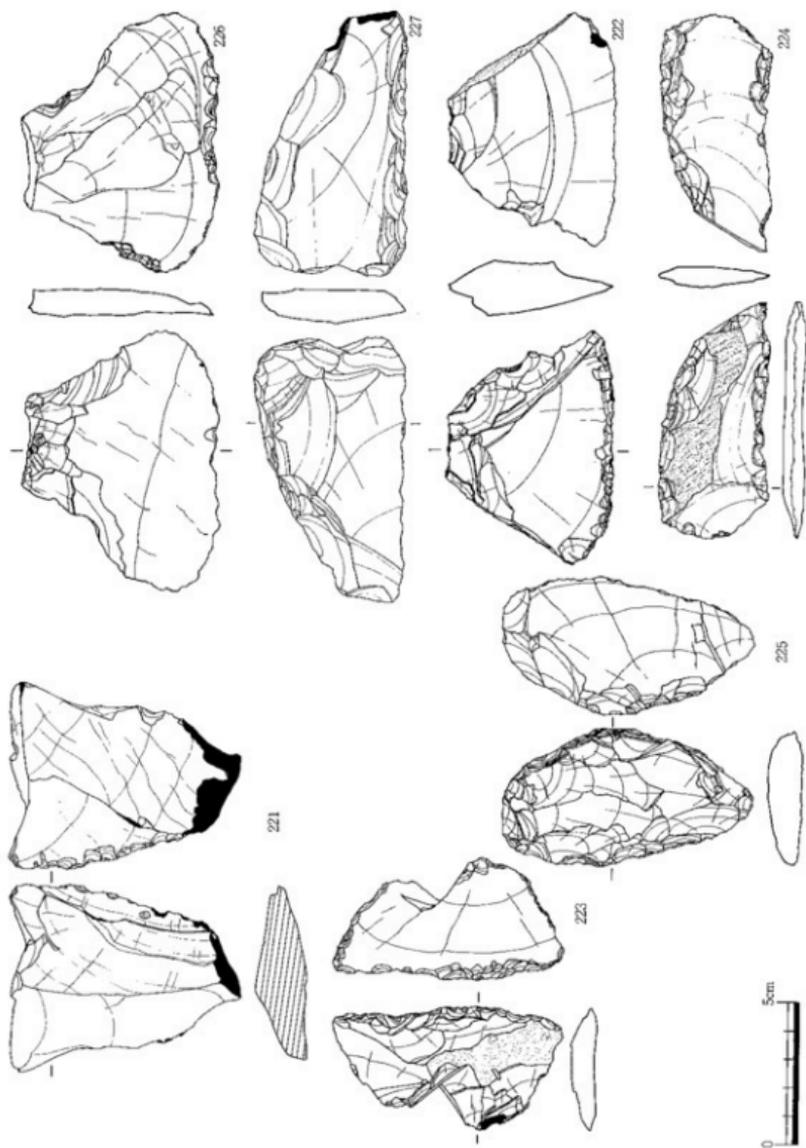
第36图 包含层出土石器 (3) (1/2)



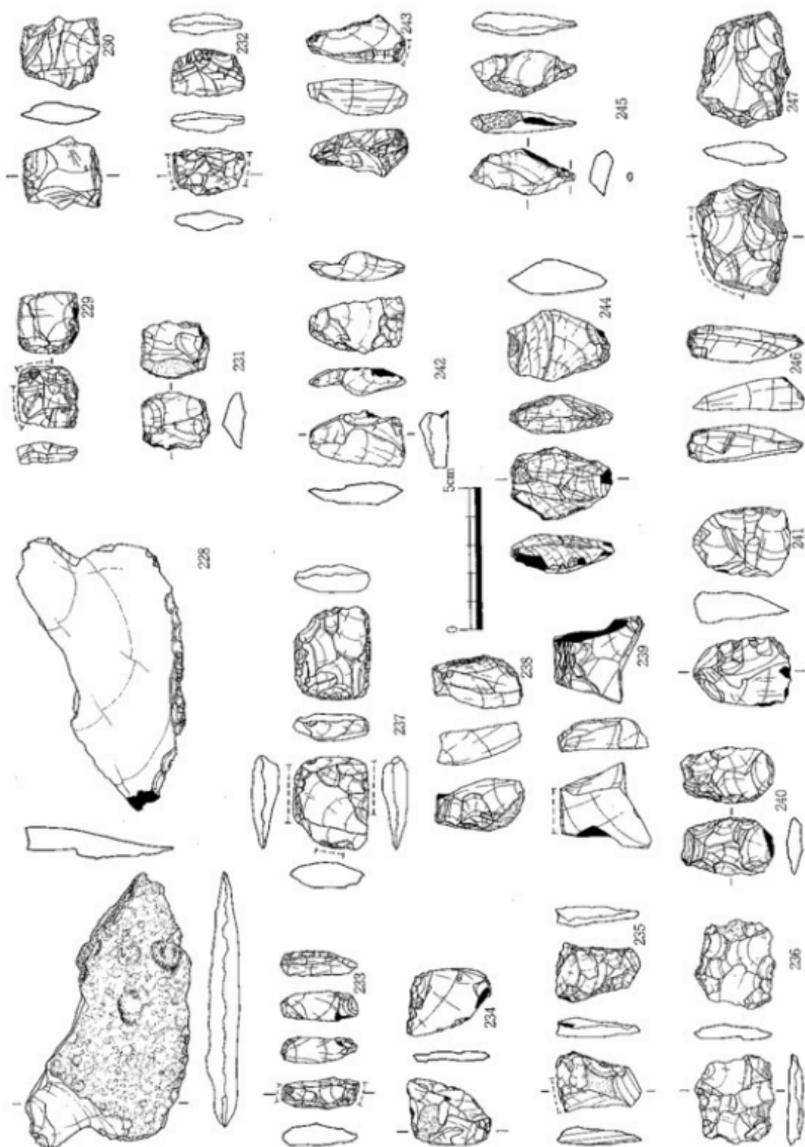
第37圖 包含層出土石器(4)(1/2)



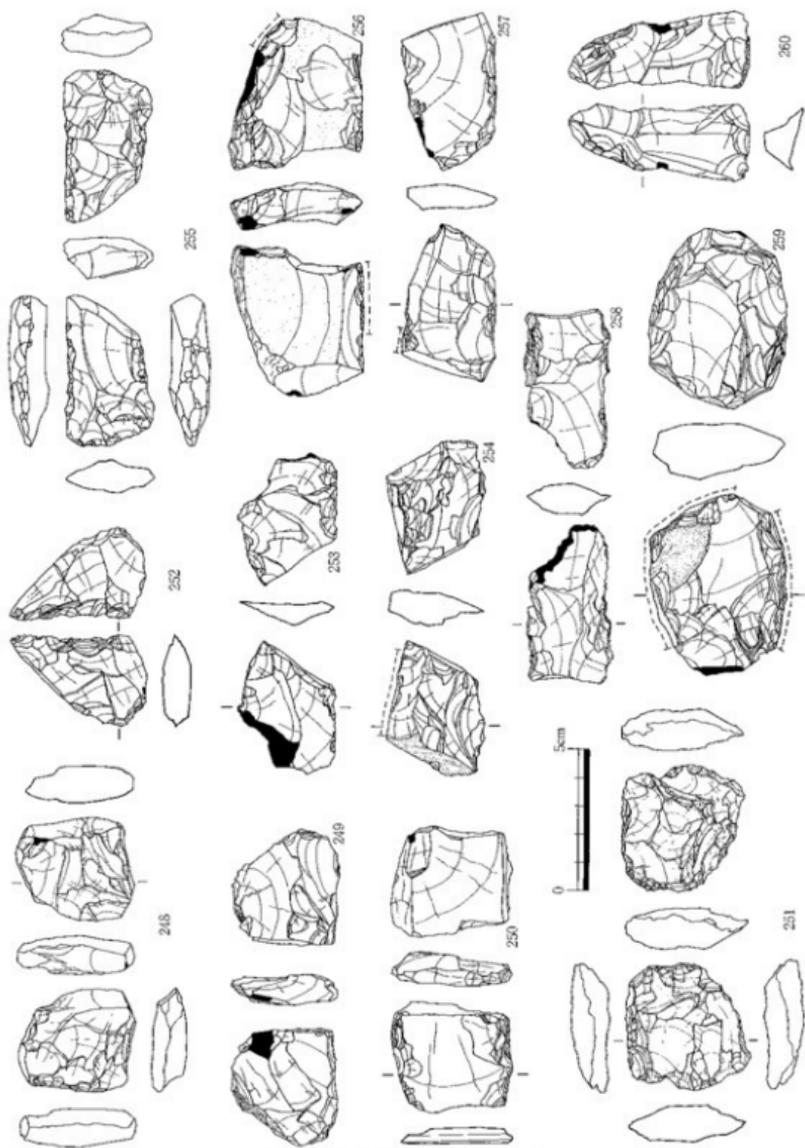
第38圖 包含層出土石器 (5) (1/2)



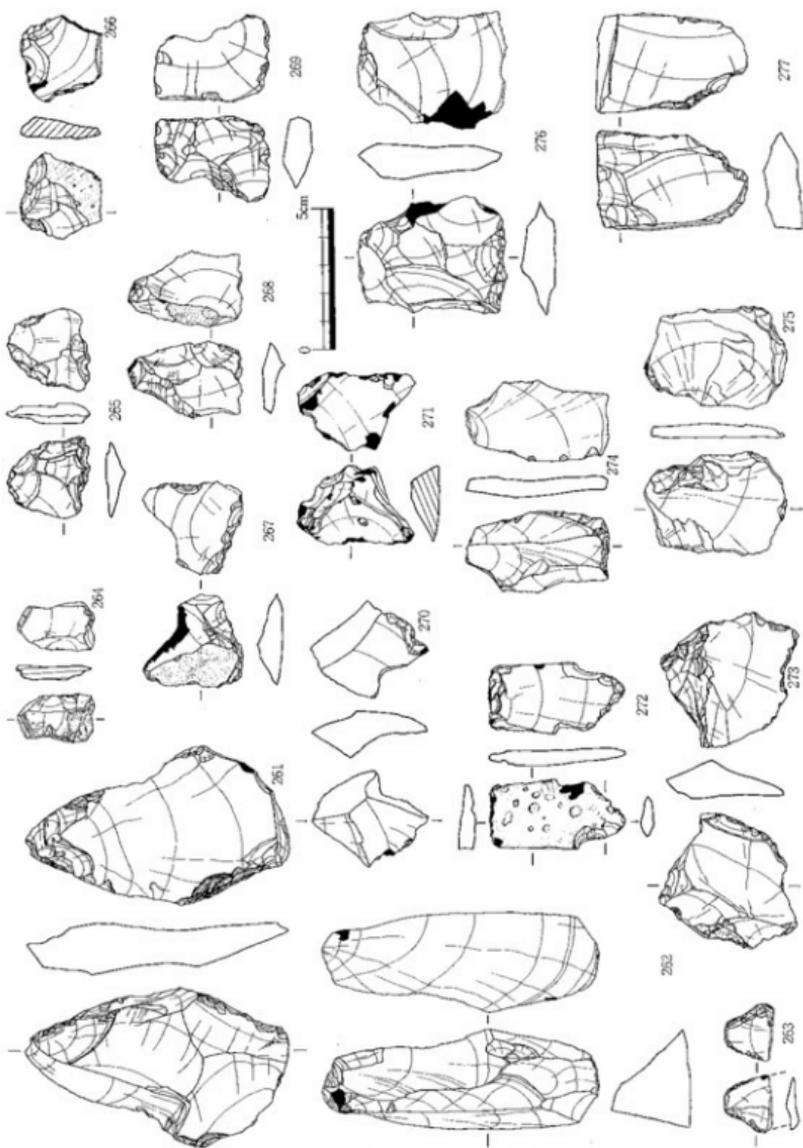
第39圖 包含層出土石器 (6) (1/2)



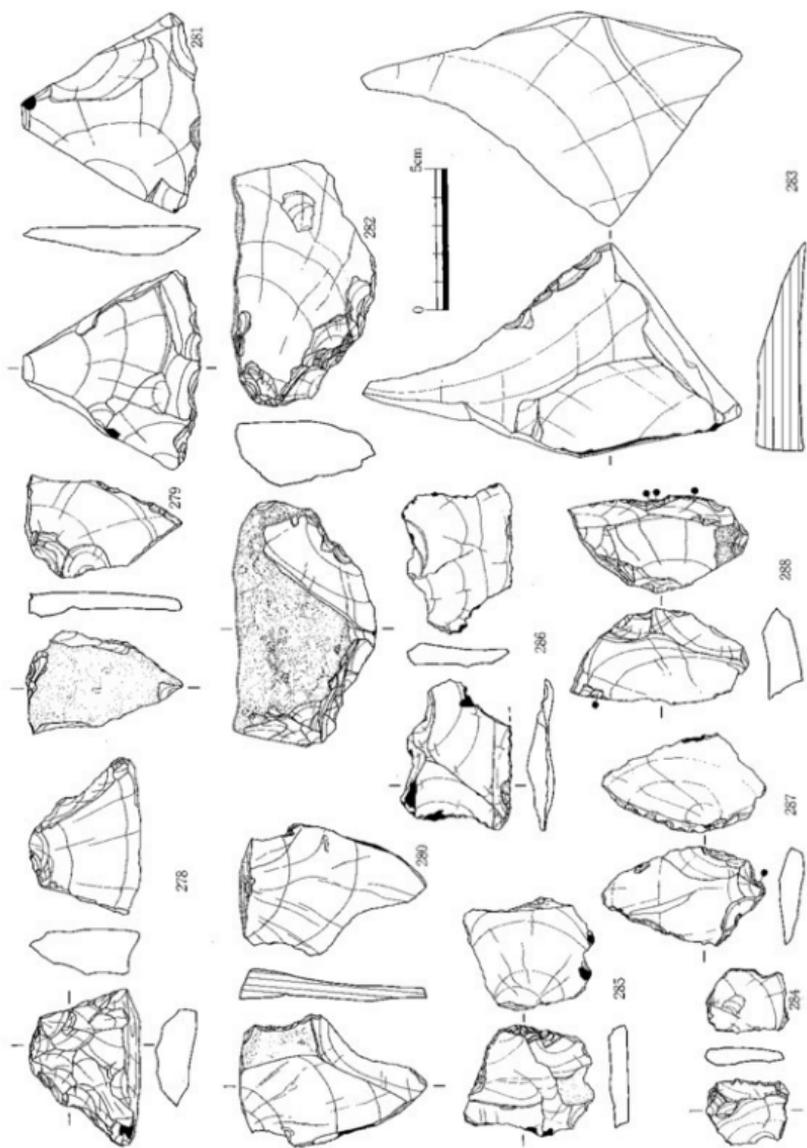
第40图 包含层出土石器 (7) (1/2)



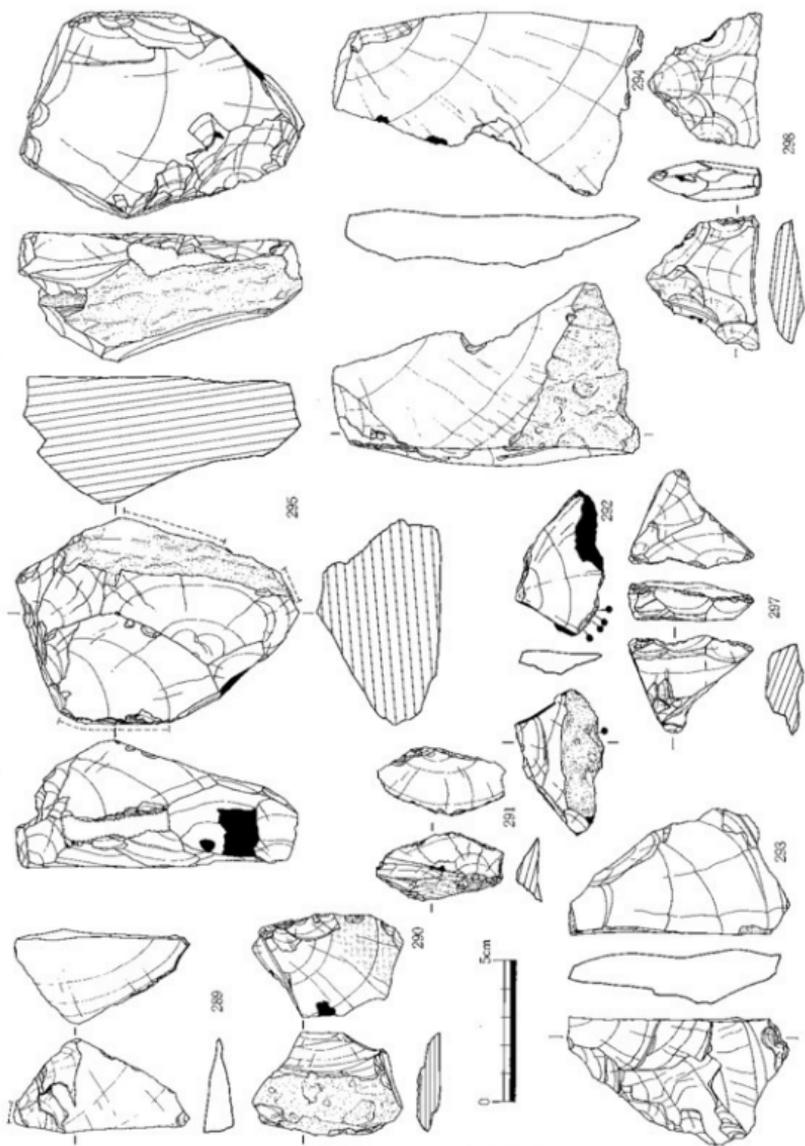
第41圖 包含層出土石器 (8) (1/2)



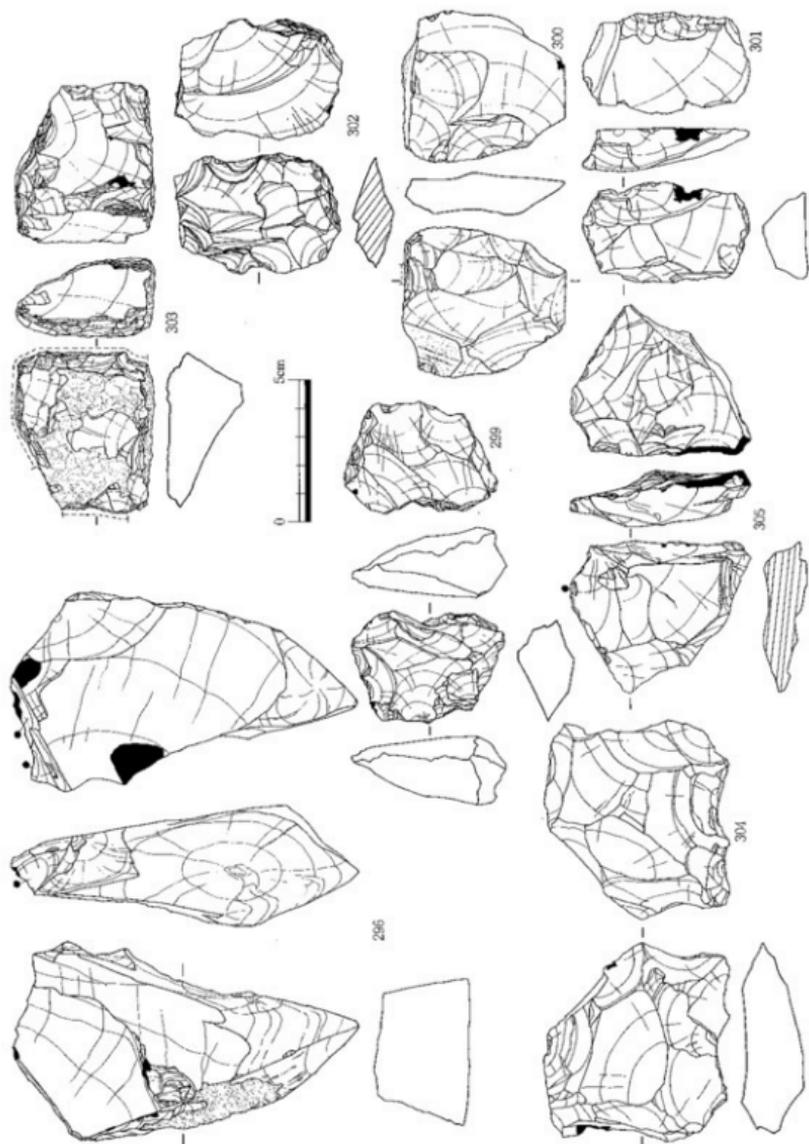
第42圖 包含層出土石器 (9) (1/2)



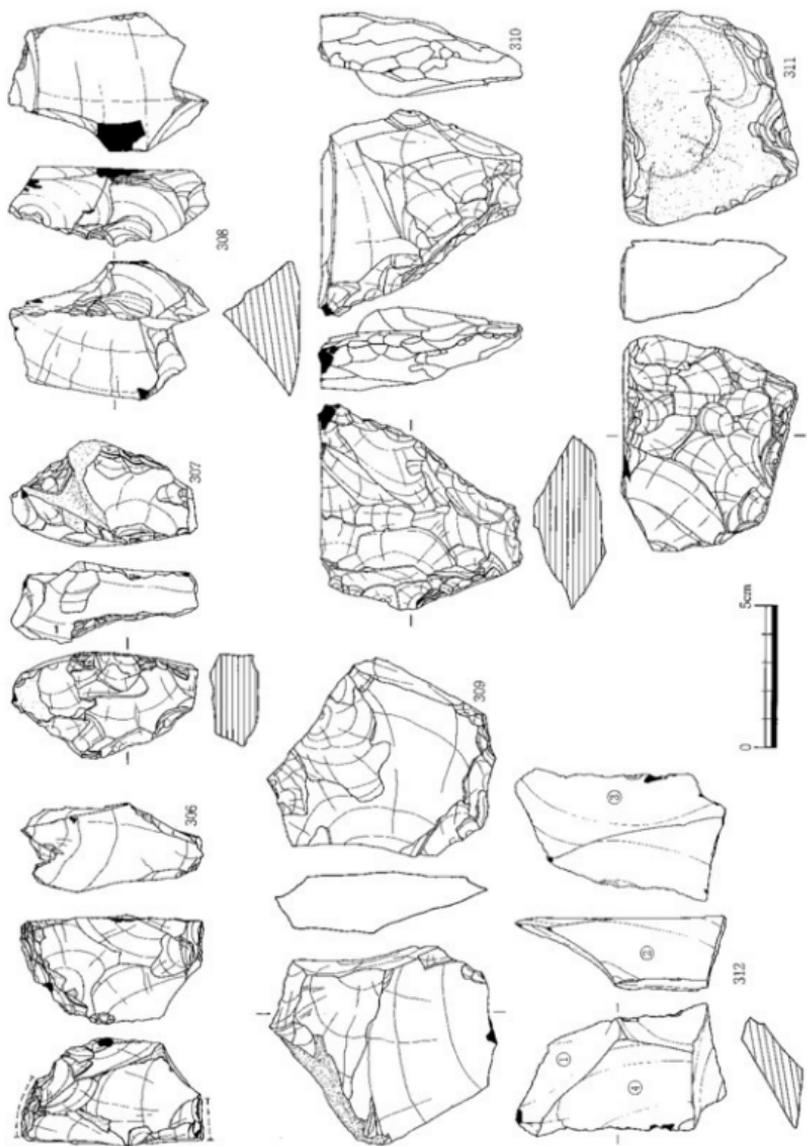
第43图 包含层出土石器 (10) (1/2)



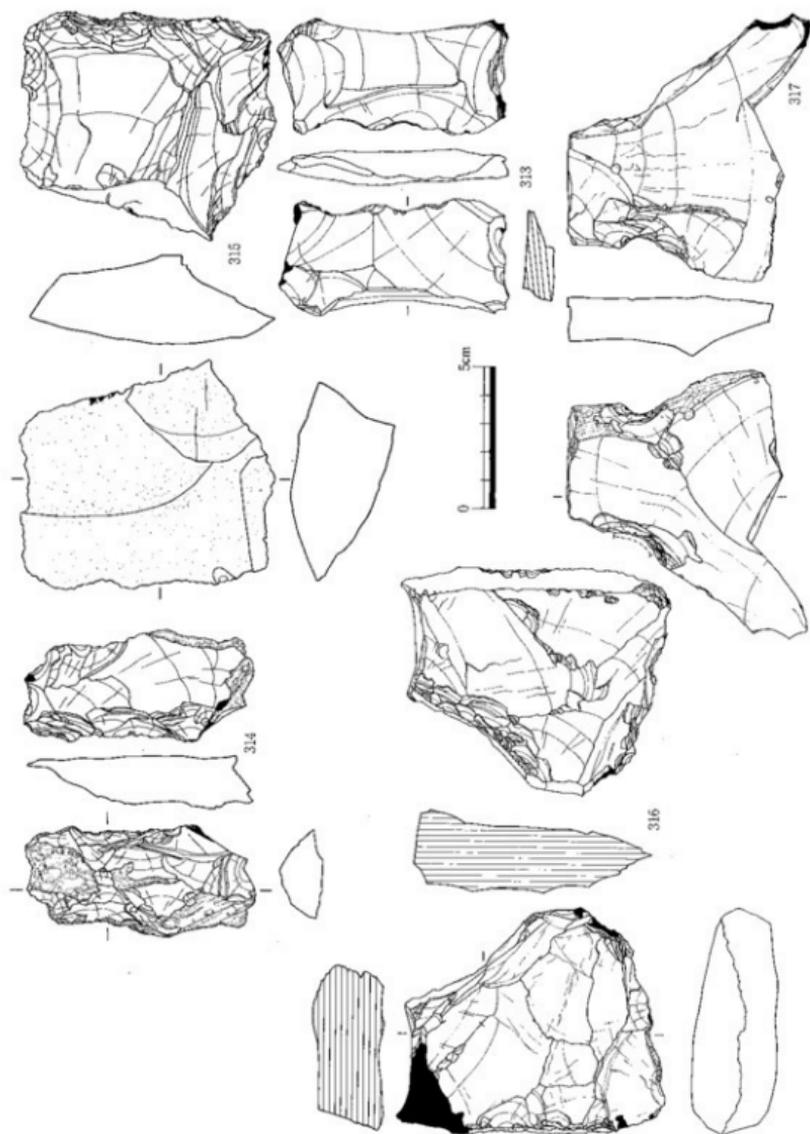
第44图 包含层出土石器 (11) (1/2)



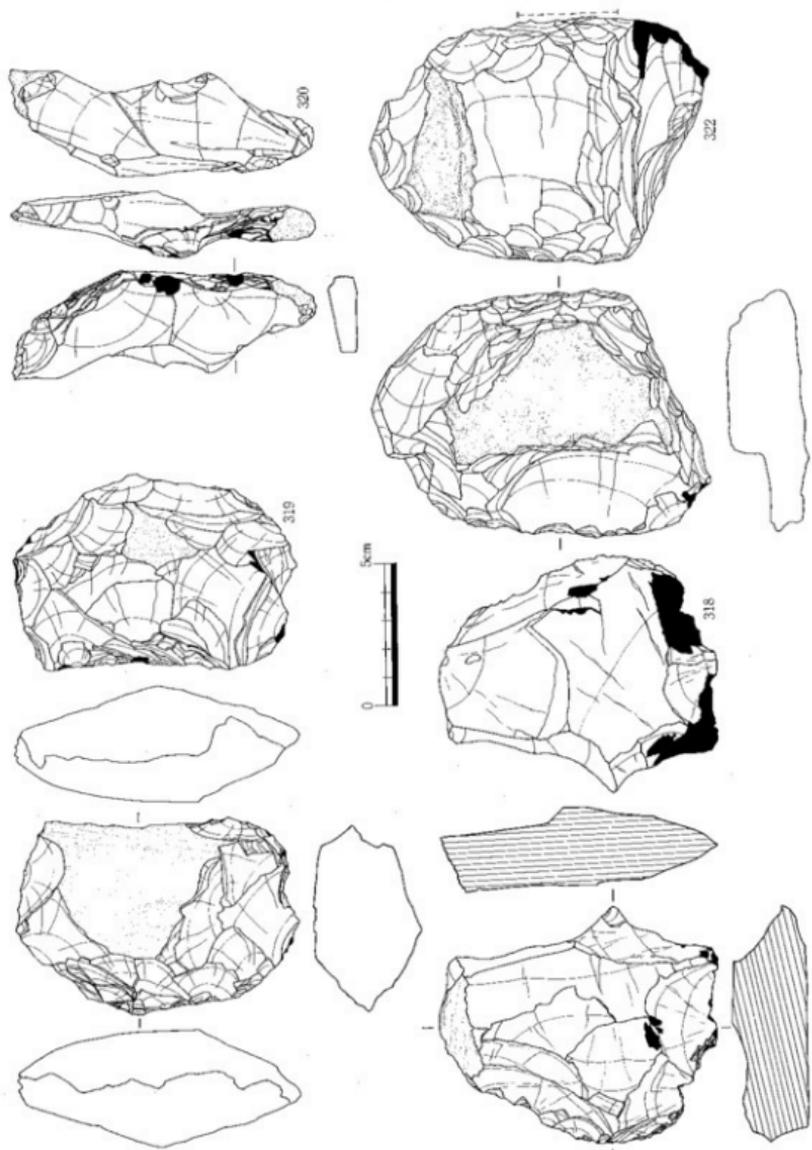
第45圖 包含層出土石器 (12) (1/2)



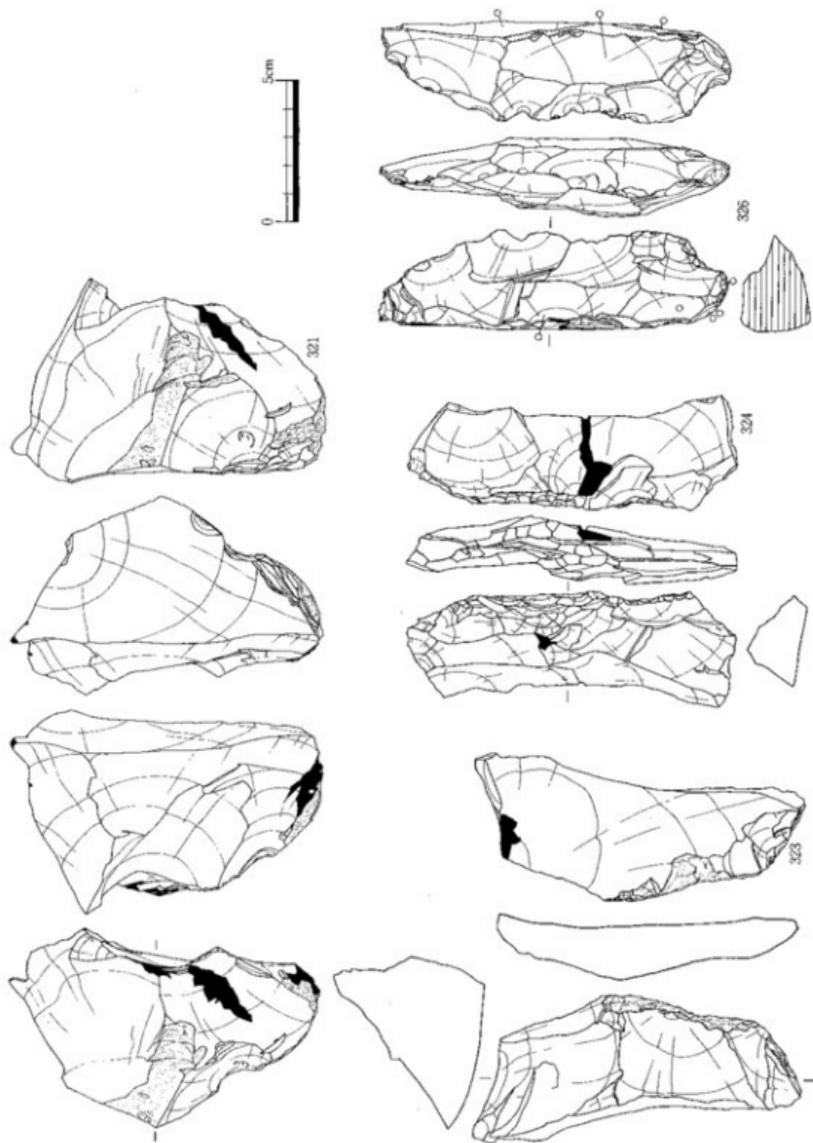
第46图 包含層出土石器 (13) (1/2)



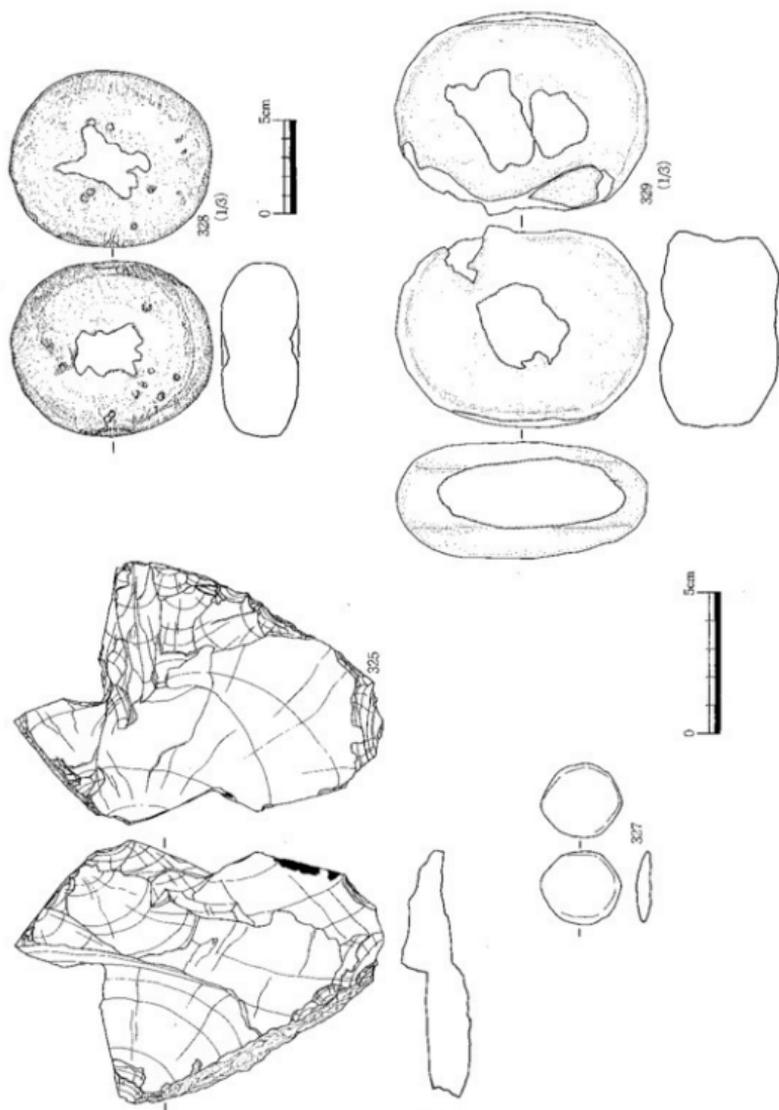
第47圖 包含層出土石器 (14) (1/2)



第48图 包含层出土石器 (15) (1/2)



第49圖 包含層出土石器 (16) (1/2)



第50図 包含層出土石器 (17) (1/2・1/3)

3 弥生時代終末期

川跡

2区SR01 (第6・7図, 第51・52図)

川跡埋土は、大きく3層に分かれ、下層は弥生時代終末期の遺物を包含する。包含層には5つの土器集中部が見られる。中層は奈良時代頃の遺物を包含する。上層はほぼ水平な堆積であり、奈良時代より新しい時期が考えられる。

330~357は弥生時代終末期の土器集中から出土した土器である。一部弥生時代中期の土器を含む。この土器群を中心に胎土分析を実施しており、後にその結果を掲載している。358~363は奈良時代頃の包含層から出土したと考えられる土器で、358は弥生土器で、他は須恵器である。364~367は出土層位不明の遺物で、364は弥生土器で、他は土師器である。

4 古代

溝跡

1・2区SD01 (第53図)

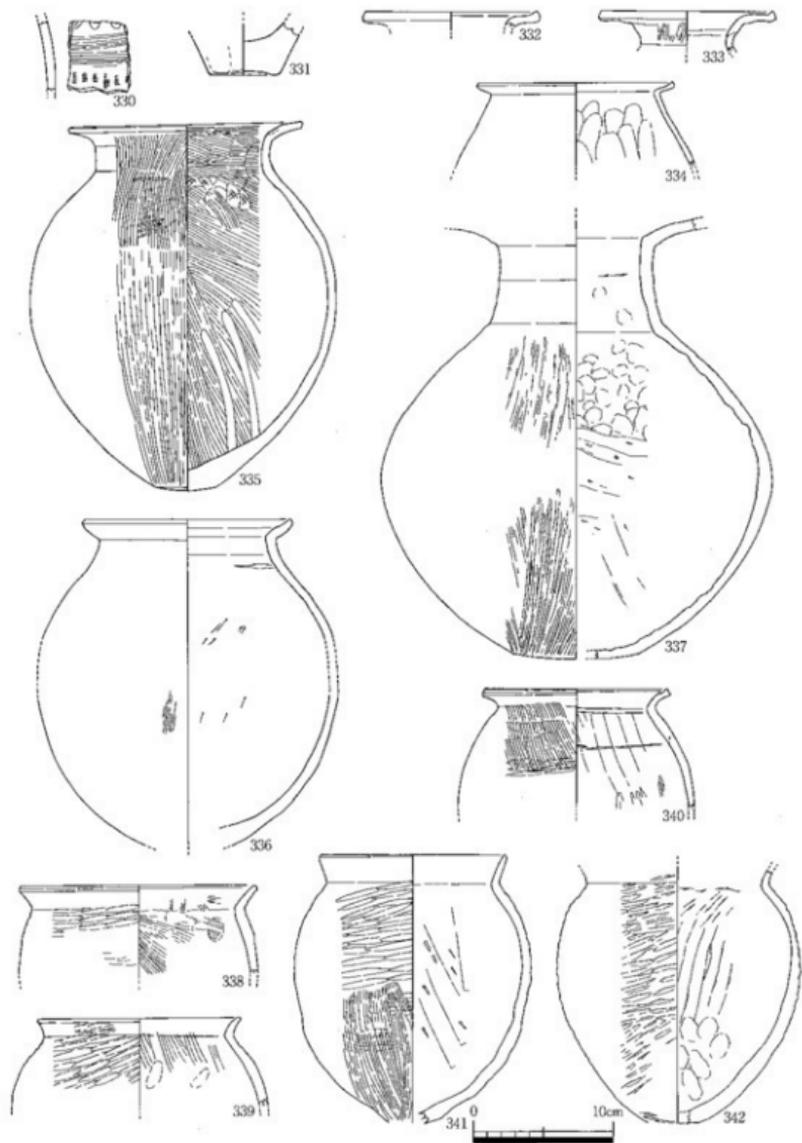
2区SR01の北側肩に沿う位置で検出されたものである。埋土からは、土師器の杯368他1片の土師器片が出土しているにすぎない。

5 中世

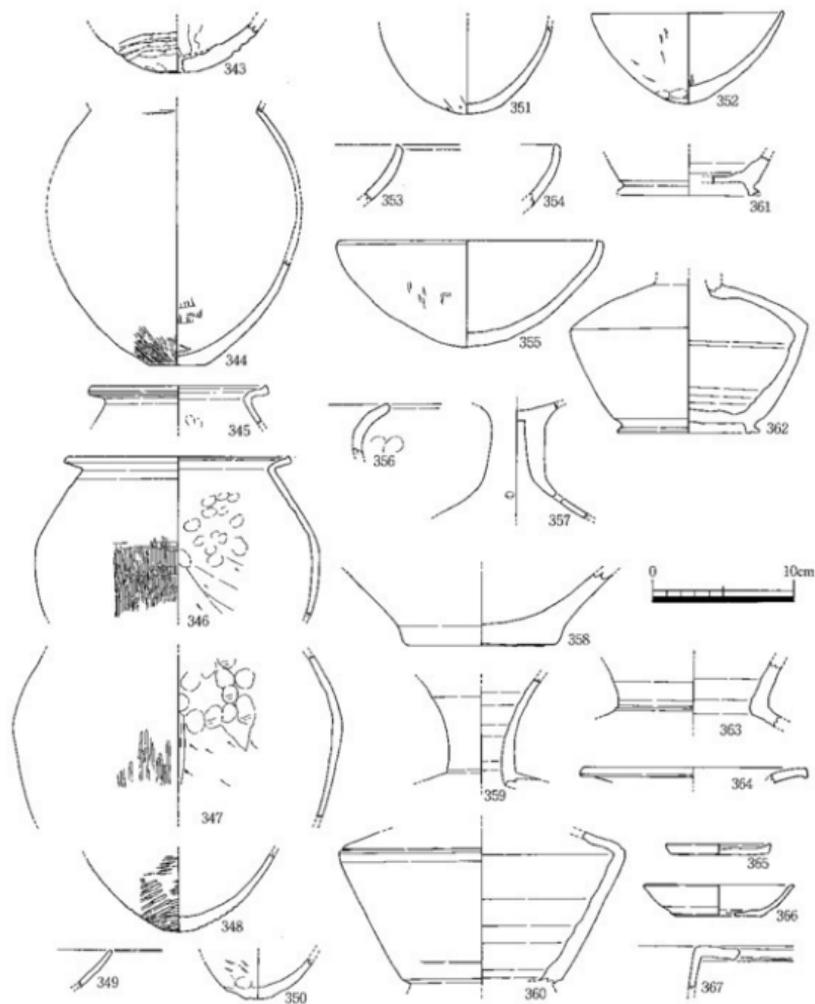
土坑

3区SK01・02 (第53図)

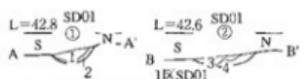
3区SR02の東肩で検出したものである。3区SR02との関係は第55図断面図から判断でき、SR02埋土中層下面で検出できた。SK01は、埋土は灰色シルトで、埋土上面近くに土器が集中して検出され、ほぼ完形の上釜が2個体(370・371)出土している。SK02は深さ15cm程度である。



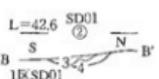
第51图 2区SR01出土土器(1)(1/4)



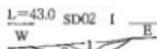
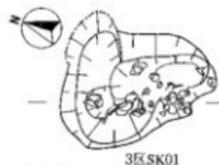
第52图 2区SR01出土土器(2)(1/4)



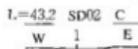
1. 暗灰色砂質土
2. 淡灰黑色砂質土(砂分多し)
3. 淡黄褐色砂質土
4. 淡灰色砂質土(砂分多し)



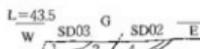
1. 暗灰色粘質土(棕色の風化土が混じる)
2. 暗灰色砂(5mm以下の小礫が混じる)
3. 暗灰色粘質土(締め細かい)



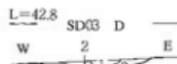
1. 暗茶色砂質土
2. 黄茶色砂質土



1. 淡茶褐色砂質土
2. 淡黄褐色砂質土
3. 黄褐色砂質土(しまり悪い)



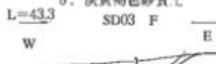
1. 暗茶褐色砂質土
2. 灰褐色粘質土
3. 淡茶灰色粘質土
4. 淡黄灰色粘質土(Mn多く含む)
5. 灰茶褐色粘質土
6. 淡黄褐色砂質土



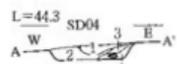
1. 茶褐色砂質土
2. 褐色砂質土
3. 淡茶褐色砂質土



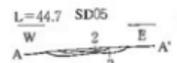
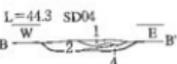
1. 茶灰色砂質土
2. 暗茶灰色砂質土
3. 黄褐色砂質土



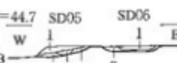
1. 茶灰色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 褐色砂質土



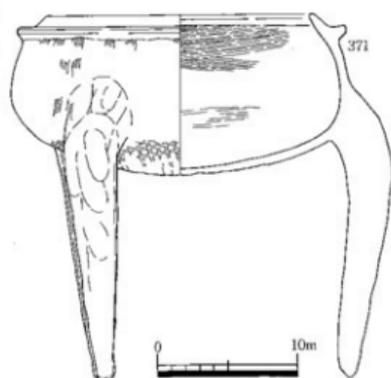
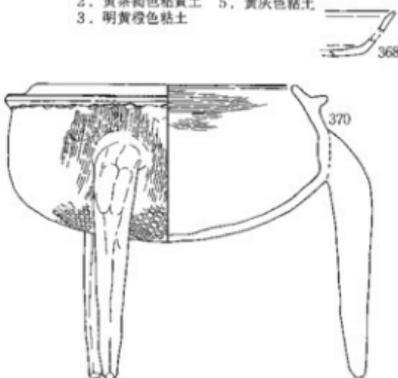
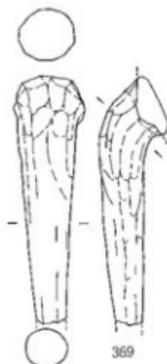
1. 黄褐色砂混粘質土(Mn混含)
2. 灰色粘土
3. 淡灰褐色粘土
4. 黄灰褐色砂混粘土



1. 暗灰褐色粘土
2. 黄茶褐色粘質土
3. 明黄褐色粘土



4. 灰色粘土
5. 黄灰色粘土



第53図 1・2区SD01, 3区SK01, 1区SD02~06平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

溝跡

1区SD02~06 (第53図)

いずれも等高線にはほぼ沿うような方向の溝である。1区では包含層の堆積が見られ、SD01~SD03は中近世土器を出土する上層包含層の下面で検出された。下層包含層は土器の出土は無い。遺物はSD02で土師器小片、SD03で中世の土釜の脚部(369他)が出土しているのみである。

不明遺構

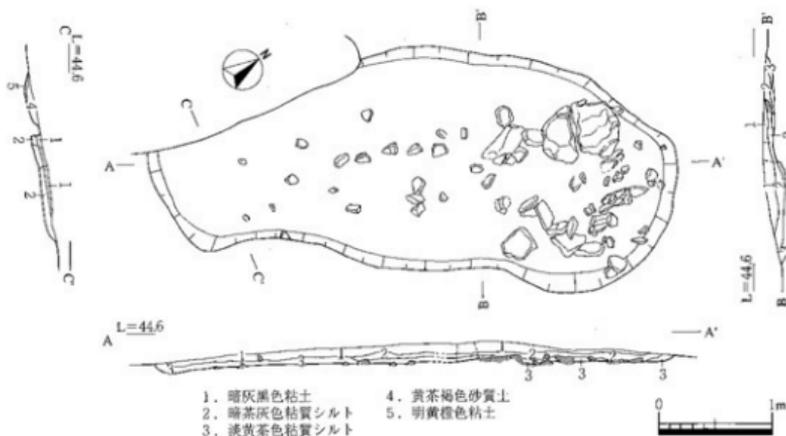
1区SX01 (第54図)

浅い遺構である。埋土からは中世以降の土器が出土している。底面には基盤層の岩石を検出した。

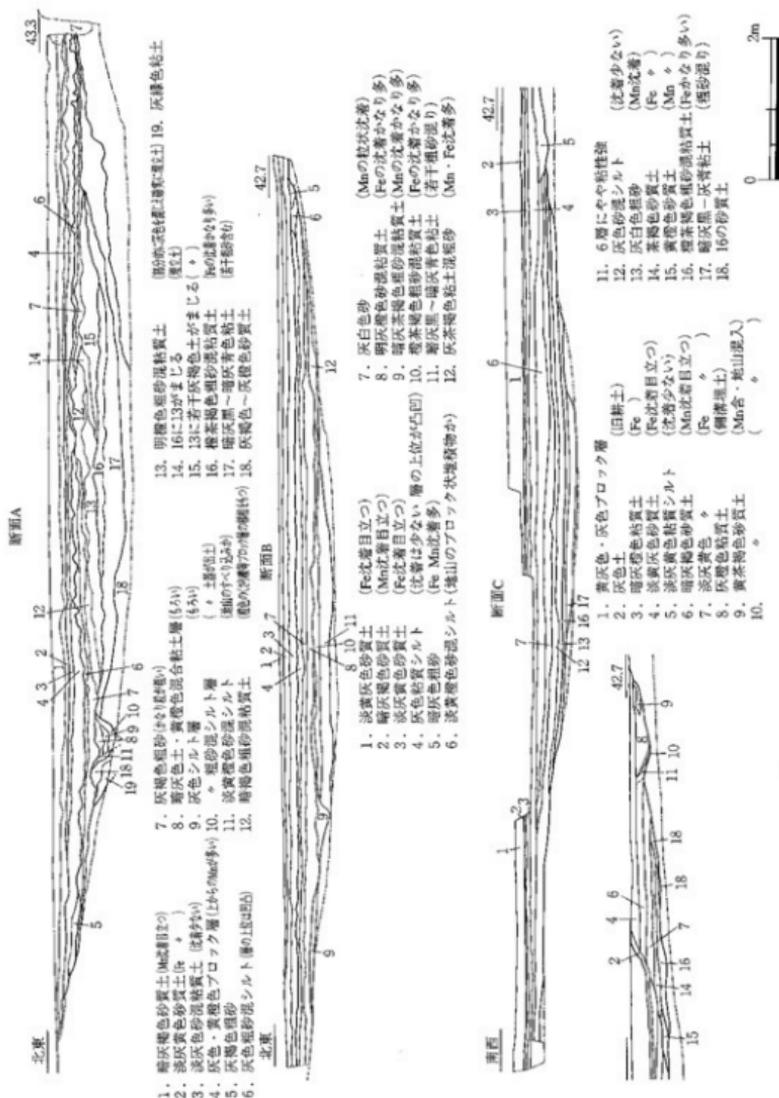
川跡

3区SR02 (第55・56図)

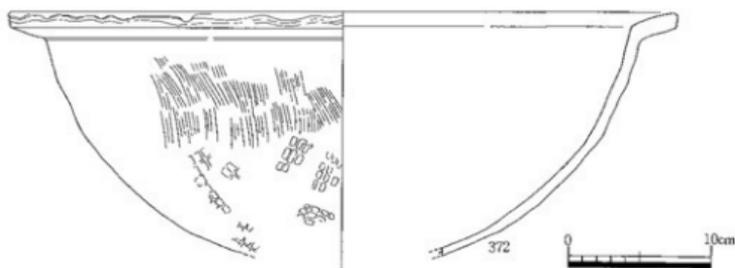
南東から北西方向へ流れていたと考えられる川跡である。この上流部分の延長は5区及び6区の落ち込みと考えられるが、両者とも時期的に新しく、確実な延長部分かどうかは不明である。断面図は3カ所で作成した。上流から(南東から)断面A、B、Cとする。



第54図 1区SX01平・断面図 (1/50)



第55図 3区SR02断面図 (1/80)



第56図 3区SR02出土土器(1/4)

埋土は大きく3層に分かれ、下層は川として機能していた時期の堆積で、サヌカイト剥片しか出土していない。中層は中世の土釜を出土する土坑3区SK01・02とはほぼ並行する時期と考えられる。断面B・Cではほぼ水平堆積である。上層は陶磁器が出土することから、近世以降の時期と考えられる。

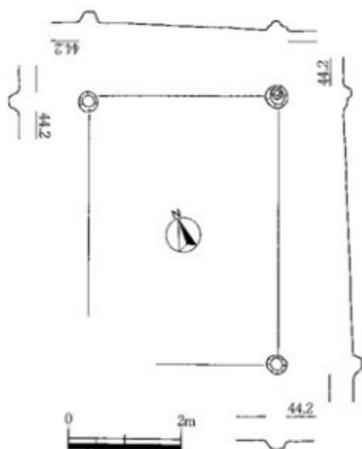
断面A(第55図)では、6・7及び12~15層が中層である。8~11層は土坑SK01・02の埋土である。16・17層が下層である。断面Bでは、4~8層が中層で、以下が下層である。この断面Bの南西端付近で土鍋372が出土している。断面Cでは、12・13層が中層であり、土師器土釜の脚部が出土している。

6 近世以降

建物跡

1区SB01(第57図)

柱穴は3つしか検出していないが、その位置関係から建物跡と考える。埋土は締まりの悪い灰色系の土層であることから、時期的に古いものではないと考えられる。



第57図 1区SB01平・断面図(1/100)

6区建物跡（第58・59図）

6区で建物跡及びその関連施設と考えられる土坑などが検出されている。6区調査区断面図（第58図）において、3～14層及び16～19層は整地層で、近世以降の陶磁器等が出土した。15層は土坑6区SK05である。20, 21, 21'層はサヌカイト剥片の包含層である。出土陶磁器には、近代のものも含まれている。

柱穴は調査区北半で検出されているが、建物構成は不明である。また、南側の傾斜面では井戸が検出されている。

土坑には土師質の甕を埋置したものがある（SK02・03・15・17）。

6区遺構出土の土器（第60図）

6区SD02

陶器甕373及び焙烙374が出土している。

6区SD03

陶器灰釉皿375及び焙烙376が出土している。

6区SD04

染付碗377・378（型紙摺）及び石硯379が出土している。

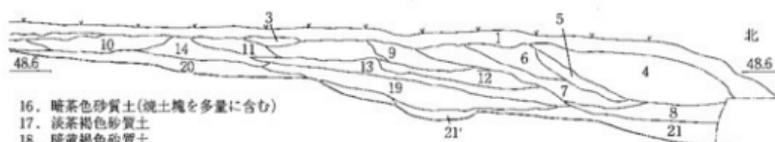
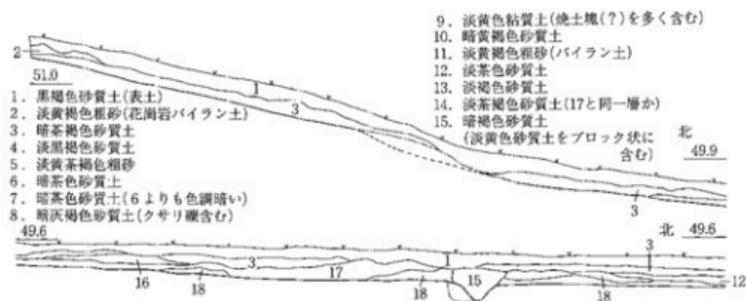
整地層出土の土器（第61～64図）

380は、弥生土器である。381～392は唐津焼刷毛目碗及び皿である。393～404は陶胎染付碗及び香炉である。405～409は京焼風陶器である。410・411は瀬戸美濃焼灰釉褐掛分け碗である。412～418は灰釉のかかった陶器である。419は鉄絵の鉢である。420は鉄釉の陶器である。421～456は染付である。454～456は型紙摺のものである。457は赤絵皿である。458は青磁染付皿である。459・460は青磁である。461～467は土師質及び瓦質の焙烙及び釜である。

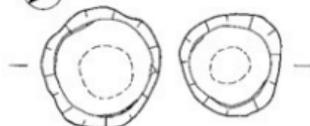
溝跡

3区SD01（第65図）

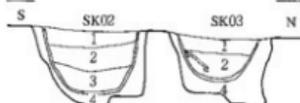
等高線に沿う形で検出した。埋土から当時期と考える。遺物はサヌカイト剥片が出土しているのみである。



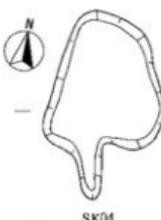
16. 暗茶色砂質土(焼土塊を多量に含む)
 17. 淡茶褐色砂質土
 18. 暗黄褐色砂質土
 19. 暗黒色砂質土
 20. 淡褐色粗砂(サマカイト片市土層)
 21. 淡灰褐色粗砂(マンガンを含み、かたくしまる)
 21'. 灰褐色粗砂(マンガンを含む、21よりも暗い色調)



L=49.3



1. 淡褐色粗砂
 2. 淡黒色粗砂(瓦を含む)
 3. 淡黄褐色粗砂
 4. 淡茶褐色砂質土
 (炭化物を含む)



L=49.1

1. 暗茶褐色砂質土
 (黄褐色粘土を含む)
- W E

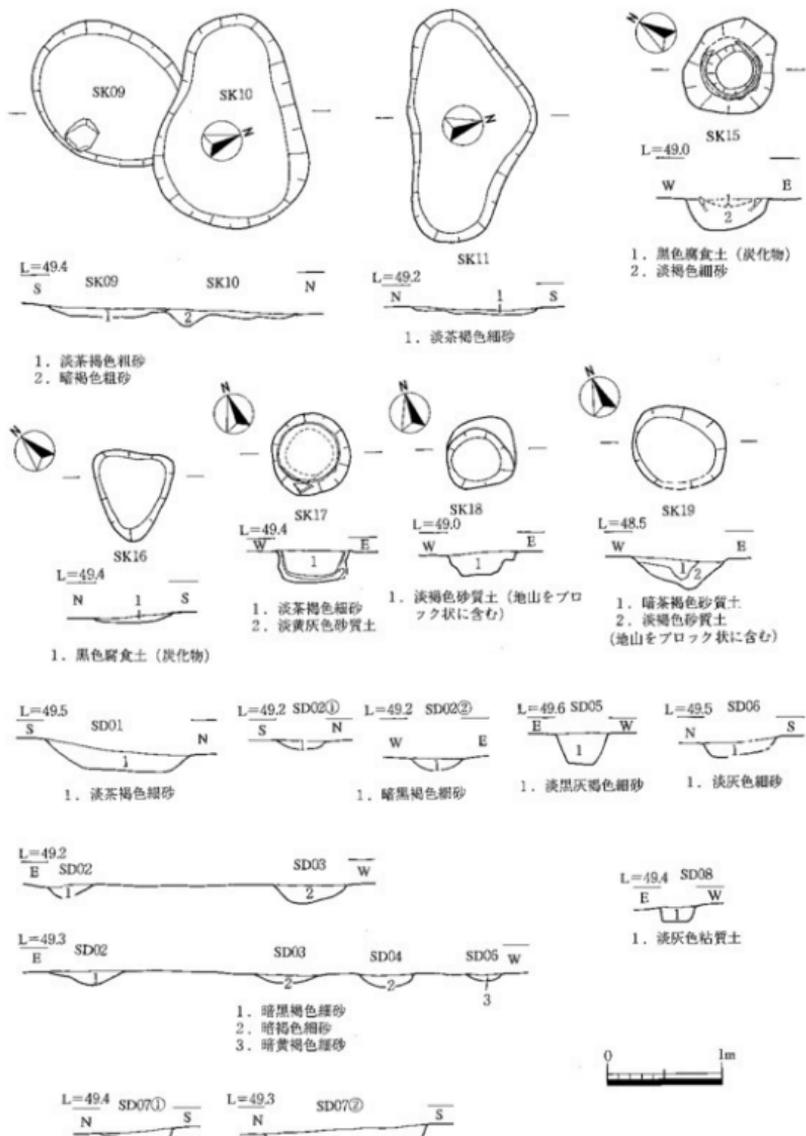
L=49.3



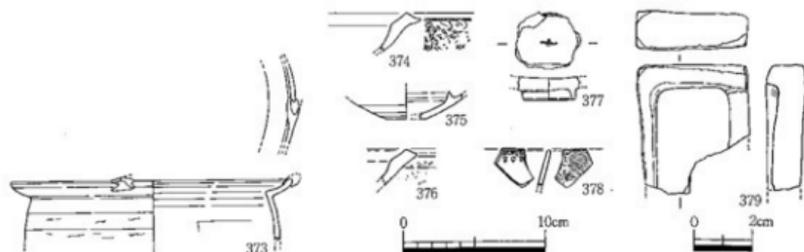
1. 暗茶褐色砂質土(黄褐色粘土含む)
 2. 暗黒褐色粗砂



第58図 6区断面図(1/80)及び6区SK01~04平・断面図(1/50)



第59図 6区SK09~11・15~19及びSD01~08平・断面図(1/50)



第60図 6区遺構出土の土器(1/4)・石器(1/2)

川跡

5区北西部落ち込み(第65図)

耕作土直下で検出される落ち込みがあるが、これは3区SR02の続きの可能性もある。落ち込み肩部には、5本の杭が打ち込まれた状態で検出されている。

7 時期不明の遺溝

1区SP05(第65図)

平面形が瓢形のピットである。底よりは若干浮いた状態で、炭や焼土が検出されている。遺物は出土していない。

3区SK03

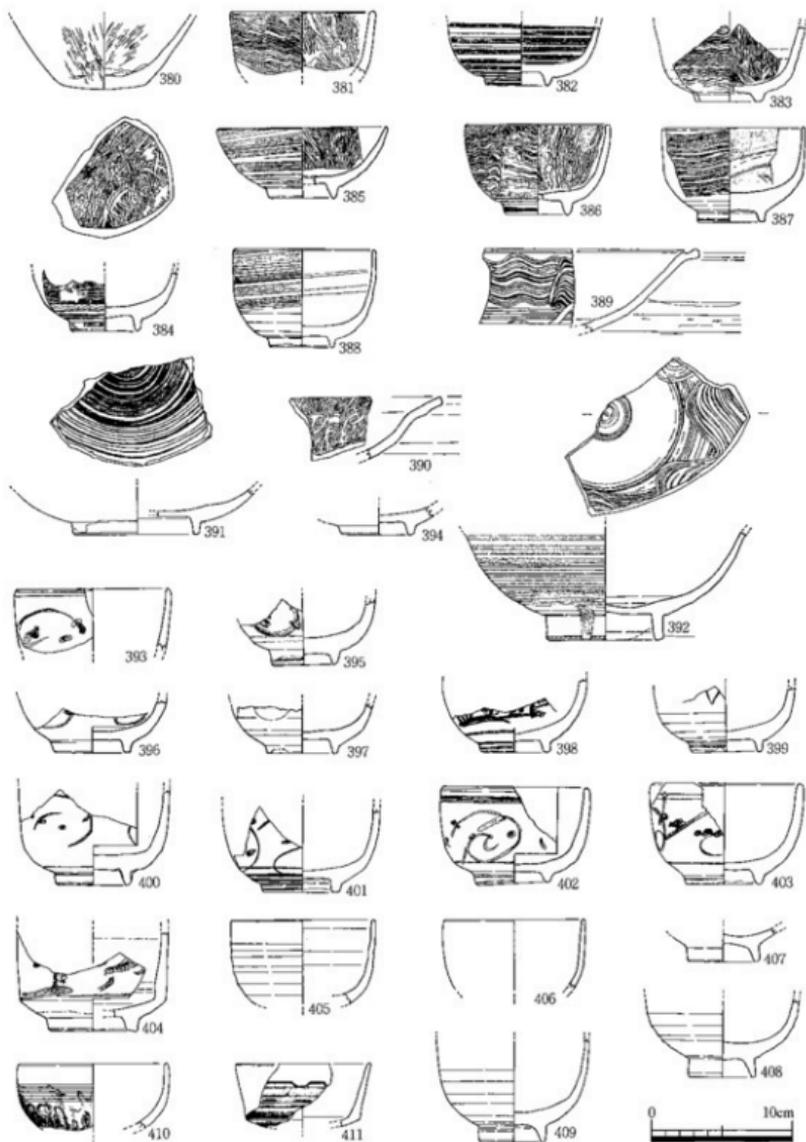
埋土は、淡灰色礫混じりの砂質土で、遺物は出土していない。深さは約20cmである。

4区SD01(第65図)

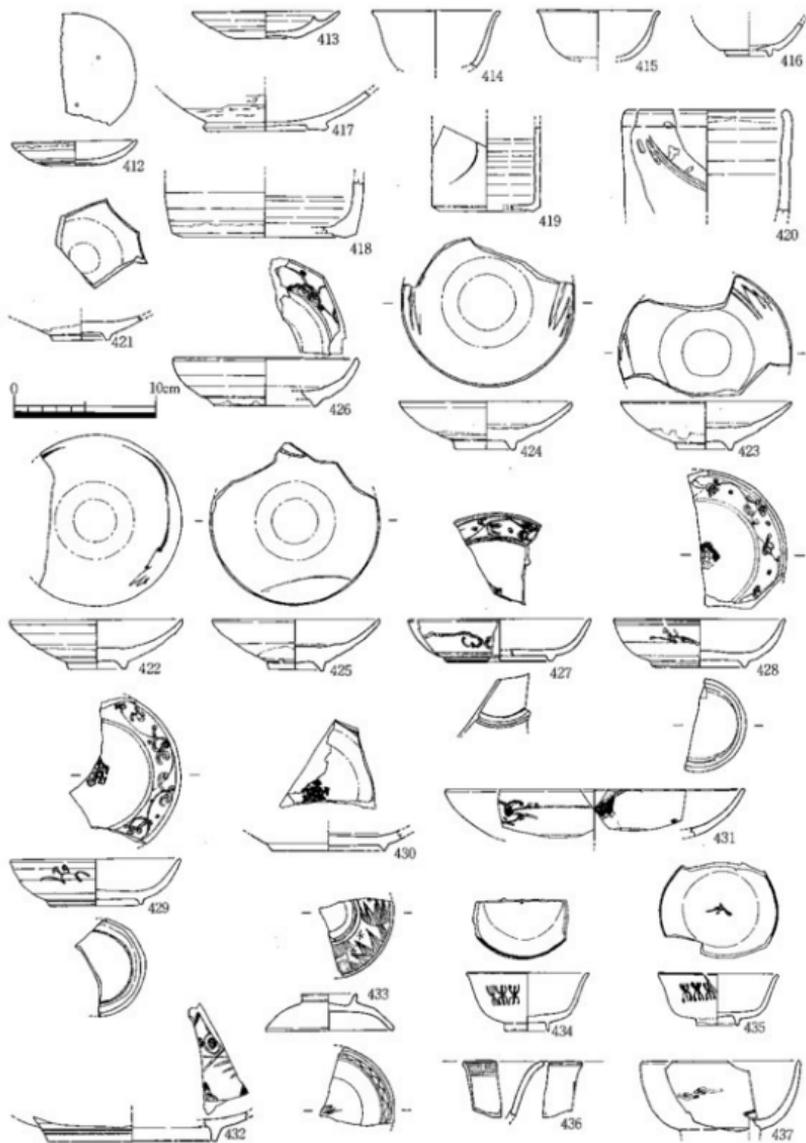
等高線に直交する溝である。遺物は出土していない。

8 包含層出土の遺物

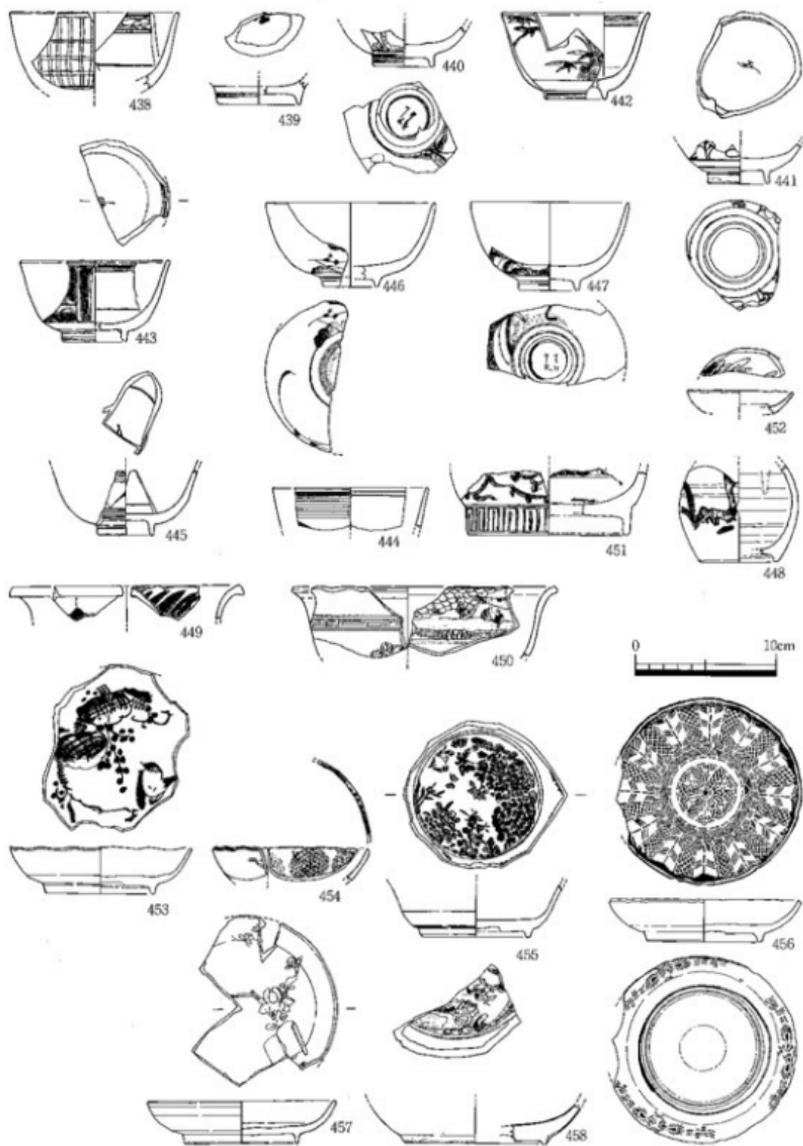
468～471は3区包含層から出土した弥生時代中期の土器である。472は1区包含層から出土した弥生土器である。473は1区包含層から出土した須恵器杯である。474は5区の土坑状の落ち込みから出土した鍬である。先端は尖っているが腐食によるものと考えられる。



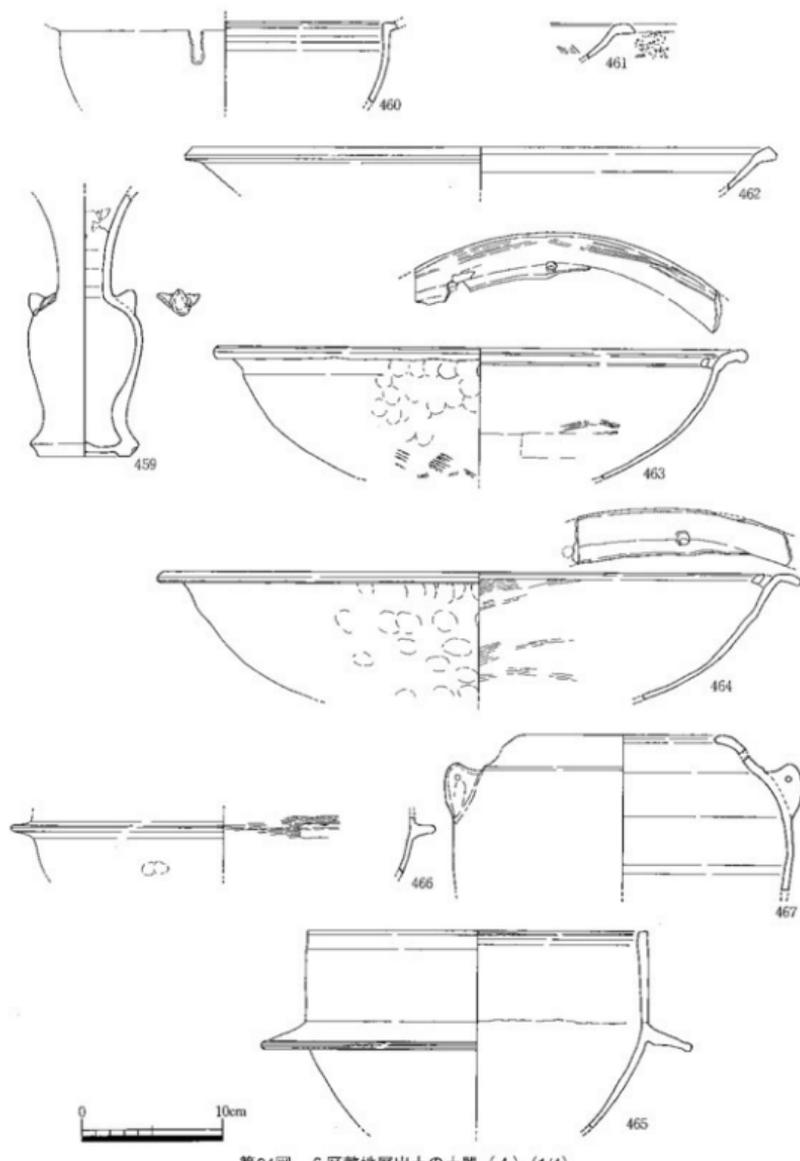
第61図 6区整地層出土の土器(1)(1/4)



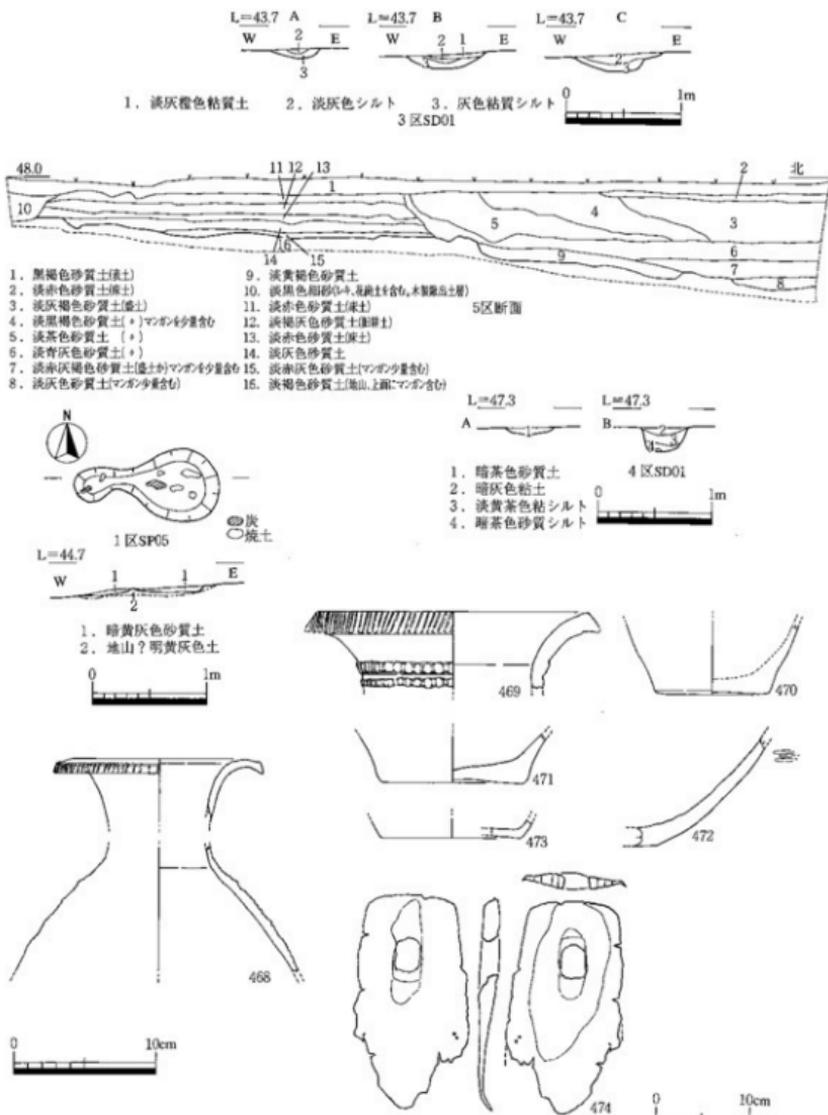
第62図 6区整地層出土の土器(2)(1/4)



第63图 6区整地层出土の土器(3)(1/4)



第64図 6区整地層出土の土器(4)(1/4)



第65図 3区SD01、4区SD01、5区断面図(1/50,1/100)、1区SP05平・断面図(1/50)及び包含層出土土器(1/4)・木器(1/6)

第4章 自然科学分析の成果

第1節 国分寺六ツ目遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

自然科学的な手法を用いて、石器石材の産地を客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法により研究を行っている。当初は手近に入手できるサヌカイトを中心に、分析方法と定量的な産地の判定法との確立を目標として研究したが、サヌカイトで一応の成果を得た後に、同じ方法を黒曜石にも拡張し、本格的に産地推定を行なっている^{1,2,3)}。サヌカイト、黒曜石などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと、遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

香川県綾歌郡国分寺町福家に位置する国分寺六ツ目遺跡から出土したサヌカイト製遺物30個について産地分析の結果が得られたので報告する。

サヌカイト原石の分析

サヌカイト両原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nbの12元素をそれぞれ分析した。

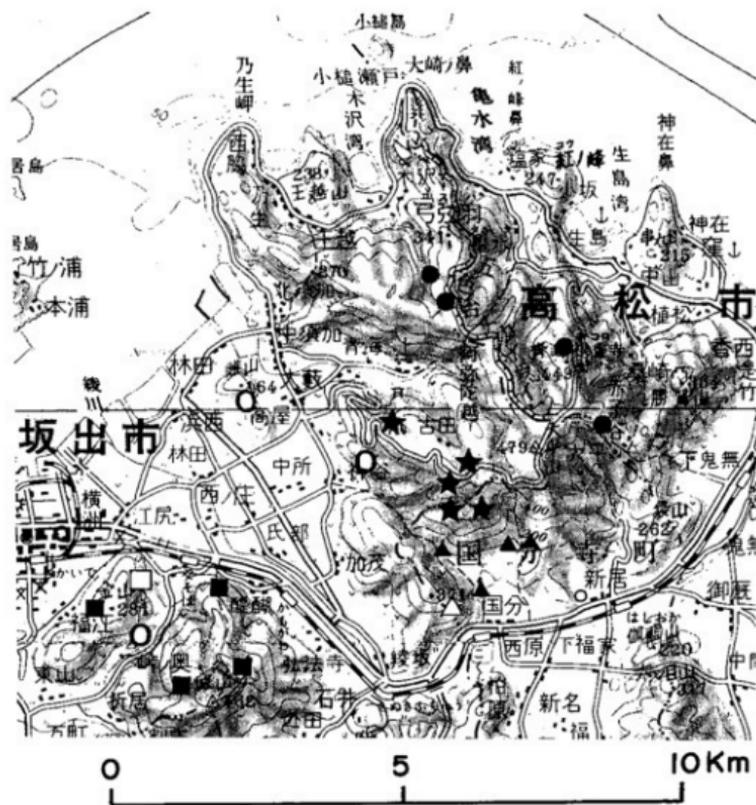
塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイトでは、K/Ca, Ti/Ca, Mn/Sr, Fe/Sr, Rb/Sr, Y/Sr,

Zr/Sr, Nb/Srをそれぞれ用いる。

サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所の調査を終えている。第66図にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、金山・五色台地域（第67図）では、その中の多く地点からは良質なサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材料で善通寺市の大麻山南からも産出している。これらの原石を良質な原石を産出する産地および原産地不明の遺物を元素組成で分類すると69個の原石群に分類でき、その結果を第4・5表に示した。香川県内の石器原材料の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は金山奥池・五色台地区産は五色台群の単群に、大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類され区別が可能であることを明らかにした。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のものを分類すると、全体の約2/3が第6表に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からは、岩屋第一群に一致する原石がそれぞれ92%および88%と群を作らない数個の原石とがみられ、金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。第7表に示す和泉・岸和田原産地からも全体の約1%であるが金山東群に一致する原石が採取される。第8表に示す和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、第6・7表のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、第7表のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。



第66図 サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地



- 法印谷群 ★ 白峰群 ▲ 国分寺群
- △ 蓮光寺群 ■ 金山西群 □ 金山東群
- 五色台群 (ガラス質安山岩)

第67図 金山・五色台地域のサヌカイト、ガラス質安山岩の原産地

原 産 石 群 名	分析 個数	K/Ca	Ti/Ca	Mg/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道 イトムカ 山	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.005	5.884±0.223	0.106±0.011	0.126±0.013	0.885±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007
	80	0.351±0.011	0.286±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.905±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005
	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.120±0.014	9.205±1.153	0.060±0.004	0.085±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032
長野県 八景山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.069±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.810±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014
	40	0.092±0.005	0.265±0.009	0.196±0.009	12.409±0.332	0.020±0.006	0.111±0.008	0.480±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.062±0.001
神奈川県 下 島	93	1.576±0.065	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.060±0.025
	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.005	4.620±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.670±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005
大分県 和 泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.059±0.004	4.060±0.148	0.295±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.154±0.009
	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.185±0.007
兵庫県 岩 屋 山	24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.003	3.438±0.103	0.340±0.015	0.045±0.012	1.039±0.030	0.025±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008
	22	0.300±0.017	0.194±0.005	0.096±0.007	3.350±0.281	0.130±0.012	0.061±0.003	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008
香川県 五 色 山	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005
	18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.574±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.020	0.016±0.001	0.150±0.004
	51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007
	25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004
	24	0.488±0.012	0.222±0.004	0.073±0.005	4.617±0.126	0.316±0.017	0.057±0.011	1.186±0.033	0.029±0.015	0.017±0.001	0.155±0.009
岡山県 城 山	19	0.406±0.009	0.216±0.005	0.062±0.005	4.809±0.125	0.292±0.017	0.054±0.011	1.059±0.025	0.020±0.011	0.015±0.001	0.133±0.006
	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.280±0.014	0.056±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003
愛媛県 双 子 山	54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.281±0.012	0.061±0.014	1.005±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004
	63	0.860±0.048	0.120±0.006	0.023±0.005	2.294±0.114	0.484±0.026	0.005±0.011	1.765±0.044	0.943±0.011	0.039±0.003	0.659±0.008
島根県 野ノ山	39	0.705±0.059	0.146±0.008	0.040±0.008	2.837±0.189	0.473±0.050	0.023±0.015	0.941±0.052	0.028±0.021	0.020±0.002	0.251±0.024
	34	1.006±0.032	0.119±0.005	0.037±0.007	2.396±0.099	0.699±0.027	0.014±0.005	0.768±0.027	0.031±0.023	0.027±0.002	0.359±0.012
	23	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.915±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
広島県 冠 山 山	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.467±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.141±0.008
	29	0.321±0.019	0.365±0.013	0.019±0.001	0.000±0.000	0.000±0.000	0.000±0.000	0.399±0.043	0.023±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
	25	1.110±0.061	0.477±0.022	0.037±0.006	2.236±0.080	0.246±0.011	0.023±0.009	0.324±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021

表 4 附 1 岐阜・山カイトの産産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

第4表-2 各サマサイトの輝石群の元素比の平均値と標準偏差値

原 産 地 名	分析 標 本 号	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	元 素 比 Fe/Sr	Rb/Sr	比 Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
福岡県 八尾 第一 第二 第三 第四	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.128±0.063	0.455±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.944±0.022	0.950±0.003	0.800±0.012	
	51	1.992±0.069	0.609±0.030	0.041±0.005	2.534±0.079	0.534±0.039	0.111±0.020	0.949±0.003	0.949±0.003	0.949±0.003	0.819±0.014	
	50	3.144±0.066	0.728±0.036	0.072±0.009	2.919±0.099	0.828±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.677±0.020	0.874±0.028	0.874±0.040	
	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.094±0.005	3.023±0.103	0.507±0.033	0.122±0.017	1.887±0.068	0.950±0.015	0.950±0.004	0.699±0.018	
	53	0.831±0.047	0.498±0.013	0.059±0.007	4.718±0.225	0.510±0.037	0.065±0.019	0.950±0.019	0.222±0.018	0.916±0.003	0.801±0.011	
佐賀県 第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七	23	0.834±0.055	0.398±0.016	0.068±0.010	5.343±0.317	0.596±0.047	0.068±0.028	0.869±0.036	0.242±0.023	0.916±0.003	0.805±0.014	
	8	1.097±0.232	0.349±0.028	0.068±0.014	4.498±0.903	0.701±0.084	0.081±0.025	0.829±0.032	0.265±0.029	0.916±0.003	0.805±0.014	
	42	1.287±0.021	0.349±0.013	0.068±0.010	3.978±0.245	0.534±0.039	0.078±0.022	0.869±0.032	0.265±0.029	0.916±0.003	0.805±0.014	
	52	0.805±0.048	0.318±0.011	0.070±0.008	5.629±0.329	0.480±0.029	0.058±0.017	0.644±0.032	0.192±0.018	0.916±0.003	0.805±0.014	
	17	0.823±0.019	0.331±0.005	0.098±0.010	7.489±0.291	0.307±0.024	0.081±0.015	0.569±0.023	0.106±0.010	0.916±0.003	0.805±0.014	
	47	0.717±0.035	0.419±0.012	0.081±0.006	5.315±0.241	0.388±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.916±0.003	0.805±0.014	
	40	0.970±0.032	0.339±0.009	0.068±0.007	3.685±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.020	0.916±0.003	0.805±0.014	
	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.078±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.916±0.003	0.805±0.014	
	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.072±0.007	4.668±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.916±0.003	0.805±0.014	
	42	0.538±0.011	0.461±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.073±0.015	0.675±0.029	0.022±0.002	0.916±0.003	0.805±0.014	
	37	0.744±0.014	0.469±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.916±0.003	0.805±0.014	
	長崎県 第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十	28	1.111±0.118	0.149±0.009	0.053±0.009	1.650±0.236	0.276±0.043	0.041±0.027	0.488±0.038	0.053±0.022	0.916±0.003	0.805±0.014
		19	0.772±0.062	0.345±0.026	0.068±0.008	4.561±0.232	0.873±0.132	0.229±0.028	0.727±0.053	0.296±0.039	0.916±0.003	0.805±0.014
		30	0.845±0.028	0.368±0.013	0.088±0.019	7.759±0.411	1.114±0.104	0.346±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.916±0.003	0.805±0.014
		13	0.994±0.048	0.328±0.013	0.088±0.019	7.759±0.411	1.114±0.104	0.346±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.916±0.003	0.805±0.014
		59	0.498±0.048	0.392±0.011	0.097±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.020	0.814±0.048	0.035±0.012	0.916±0.003	0.805±0.014
		9	0.498±0.048	0.392±0.011	0.097±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.020	0.814±0.048	0.035±0.012	0.916±0.003	0.805±0.014
15		0.630±0.012	0.329±0.006	0.090±0.011	7.531±0.315	1.211±0.040	0.365±0.027	0.874±0.043	0.431±0.001	0.916±0.003	0.805±0.014	
25		0.512±0.014	0.317±0.008	0.084±0.011	7.187±0.312	0.941±0.037	0.301±0.027	0.874±0.043	0.431±0.001	0.916±0.003	0.805±0.014	
68		0.382±0.026	0.252±0.023	0.092±0.006	4.198±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.916±0.003	0.805±0.014	
14		0.599±0.115	0.373±0.045	0.073±0.014	5.187±0.749	0.320±0.058	0.077±0.016	0.650±0.084	0.086±0.027	0.916±0.003	0.805±0.014	
42	0.642±0.071	0.310±0.010	0.070±0.010	5.529±0.354	0.499±0.051	0.081±0.015	0.659±0.069	0.200±0.028	0.916±0.003	0.805±0.014		
熊本県 第一 第二 第三 第四	15	2.098±0.268	0.646±0.052	0.064±0.011	2.088±0.320	0.481±0.068	0.128±0.028	1.647±0.197	0.903±0.019	0.916±0.003	0.805±0.014	
	14	0.933±0.198	0.514±0.070	0.261±0.038	3.087±0.441	0.229±0.066	0.048±0.013	1.943±0.182	0.038±0.013	0.916±0.003	0.805±0.014	
	14	0.678±0.057	0.458±0.030	0.062±0.005	3.457±0.264	0.194±0.018	0.077±0.009	0.729±0.054	0.029±0.010	0.916±0.003	0.805±0.014	
	42	1.327±0.021	0.266±0.006	0.038±0.006	2.817±0.076	0.756±0.015	0.180±0.024	0.760±0.033	0.078±0.003	0.916±0.003	0.805±0.014	

平均値と標準偏差値 a) Ando, A., Karasawa, H., Okazaki, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granulite and Jg-1 basalt. Geochimical Journal Vol. 8, 175-192.

第5表 原石産地不明の組成の似た遺物群で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析 個数	比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
北海道	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.060	
石川県	39	0.479±0.016	0.395±0.012	0.097±0.053	5.229±0.168	0.160±0.010	0.110±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.026±0.017	0.228±0.075	
大塚群	向出N. 6群	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.956±0.039	0.194±0.019	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002	
	向出N. 49群	0.310±0.003	0.203±0.003	0.062±0.004	3.794±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.142±0.002	
	中社N. 62群	0.333±0.003	0.225±0.003	0.065±0.004	4.363±0.060	0.212±0.014	0.066±0.011	0.618±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	
	中社N. 65群	0.328±0.003	0.219±0.003	0.064±0.004	4.336±0.055	0.204±0.019	0.063±0.010	0.623±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	
	中社N. 66群	0.328±0.003	0.219±0.003	0.064±0.004	4.336±0.055	0.204±0.019	0.063±0.010	0.623±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	
	中社N. 68群	0.328±0.003	0.219±0.003	0.064±0.004	4.336±0.055	0.204±0.019	0.063±0.010	0.623±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	
香川県	六ツ目遺物群	0.132±0.002	0.117±0.002	0.046±0.004	3.077±0.050	0.365±0.068	0.112±0.017	0.044±0.010	0.026±0.009	0.011±0.001	0.105±0.002	
	六ツ目遺物群	0.307±0.004	0.258±0.005	0.097±0.005	4.726±0.066	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.138±0.004	

注：向出遺跡、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡の遺物群は1個を30回測定した結果。

第6表 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20個	30%	他原産地および他原石群に出現
第二群	22	33	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第三群	6	9	白峰群に一致
◇	5	8	法印谷群に一致
◇	4	6	国分寺群に一致
◇	3	5	蓮光寺群に一致
◇	2	3	金山東群に一致
◇	4	6	和泉群に一致
◇	2	3	不明(どこの原石群にも属さない)

第7表 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	12個	17%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	13	◇、◇、◇
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
◇	4	6	二上山群に一致
◇	1	1	法印谷群に一致
◇	1	1	金山東群に一致
◇	3	4	不明(どこの原石群にも属さない)

第8表 和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10個	48%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	◇、◇、◇
岩屋第二群	10	48	不明(どこの原石群にも属さない)

分析 番号	元 素 比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
60026	0.463	0.224	0.082	4.790	0.325	0.076	1.169	0.000	0.025	0.199
60027	0.461	0.233	0.079	4.712	0.305	0.066	1.172	0.032	0.023	0.201
60028	0.375	0.253	0.079	4.408	0.274	0.071	1.117	0.034	0.024	0.170
60029	0.465	0.260	0.050	3.451	0.312	0.038	1.048	0.023	0.022	0.205
60030	0.391	0.238	0.070	4.439	0.280	0.059	1.163	0.022	0.023	0.169
60031	0.430	0.257	0.055	3.481	0.287	0.045	0.983	0.037	0.019	0.192
60032	0.447	0.260	0.049	3.437	0.314	0.015	0.897	0.053	0.025	0.186
60033	0.441	0.261	0.042	3.548	0.321	0.052	0.906	0.024	0.024	0.197
60034	0.518	0.255	0.062	3.363	0.334	0.060	1.064	0.035	0.024	0.222
60035	0.376	0.236	0.074	4.823	0.262	0.066	1.115	0.040	0.022	0.168
60036	0.375	0.245	0.090	4.809	0.305	0.074	1.170	0.045	0.018	0.157
60037	0.537	0.262	0.058	3.320	0.322	0.024	1.033	0.000	0.024	0.230
60038	0.550	0.258	0.052	3.408	0.351	0.048	1.118	0.066	0.000	0.213
60039	0.373	0.237	0.071	4.515	0.261	0.037	1.124	0.038	0.021	0.163
60040	0.445	0.225	0.093	4.947	0.316	0.070	1.127	0.035	0.022	0.196
60041	0.455	0.255	0.059	3.820	0.329	0.068	1.029	0.032	0.021	0.201
60042	0.539	0.266	0.059	3.418	0.352	0.068	1.050	0.061	0.027	0.232
60043	0.539	0.261	0.060	3.405	0.344	0.055	1.082	0.022	0.027	0.236
60044	0.461	0.222	0.074	4.574	0.312	0.086	1.178	0.017	0.024	0.193
60045	0.454	0.261	0.055	3.722	0.301	0.028	0.972	0.030	0.022	0.191
60046	0.447	0.268	0.067	3.780	0.296	0.058	0.932	0.040	0.021	0.187
60047	0.370	0.246	0.073	4.493	0.289	0.053	1.166	0.014	0.020	0.154
60048	0.379	0.235	0.072	4.806	0.271	0.081	1.128	0.060	0.020	0.173
60049	0.374	0.238	0.070	4.881	0.269	0.064	1.123	0.024	0.020	0.167
60050	0.384	0.242	0.068	4.640	0.278	0.077	1.103	0.034	0.022	0.166
60051	0.369	0.242	0.066	4.259	0.301	0.059	1.045	0.026	0.020	0.162
60052	0.371	0.239	0.071	4.402	0.322	0.046	1.147	0.027	0.017	0.155
60053	0.308	0.252	0.072	5.011	0.216	0.062	0.813	0.040	0.019	0.141
60054	0.372	0.244	0.074	4.518	0.311	0.035	1.112	0.000	0.018	0.156
60055	0.424	0.258	0.054	3.651	0.283	0.065	0.941	0.039	0.020	0.169
JG-1	1.340	0.300	0.054	2.637	0.750	0.187	0.716	0.053	0.041	0.463

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

第9表 国分寺六ツ目遺跡出土のサヌカイト製造物の元素比分析結果

分析遺物	遺物番号	原石産地(確率)	判定	遺物品名
55980	NO. 1	金山東(38%)	金山	剥片
55980	NO. 2	金山東(8%)	金山	剥片
55980	NO. 3	法印谷(2%)	法印谷	剥片
55980	NO. 4	国分寺(14%), 岩屋第2群(17%), 蓮光寺(27%)	国分寺	剥片
55980	NO. 5	法印谷(92%)	法印谷	剥片
55980	NO. 6	国分寺(5%)	国分寺	剥片
55980	NO. 7	国分寺(12%), 蓮光寺(8%)	国分寺	剥片
55980	NO. 8	国分寺(5%), 蓮光寺(7%)	国分寺	剥片
55980	NO. 9	白峰(24%), 岩屋第2群(31%)	白峰	剥片
55980	NO.10	法印谷(17%), 双子山(3%)	国分寺	剥片
55980	NO.11	法印谷(0.3%)	法印谷	剥片
55981	NO.12	岩屋第2群(40%), 白峰(15%)	白峰	剥片
55982	NO.13	白峰(45%), 岩屋第2群(39%)	白峰	剥片
55983	NO.14	法印谷(20%)	法印谷	剥片
55984	NO.15	金山東(2%)	金山	剥片
55985	NO.16	国分寺(8%), 岩屋第2群(3%)	国分寺	剥片
55986	NO.17	白峰(20%), 岩屋第2群(27%)	白峰	剥片
55987	NO.18	白峰(84%), 岩屋第2群(90%)	白峰	剥片
55988	NO.19	金山東(30%)	金山	剥片
55989	NO.20	国分寺(61%), 蓮光寺(44%)	国分寺	剥片
55990	NO.21	蓮光寺(17%), 国分寺(2%)	国分寺	剥片
55991	NO.22	法印谷(13%)	法印谷	剥片
55992	NO.23	法印谷(9%)	法印谷	剥片
55993	NO.24	双子山(8%), 法印谷(17%)	法印谷	剥片
55994	NO.25	法印谷(25%)	法印谷	剥片
55995	NO.26	法印谷(2%)	法印谷	剥片
55996	NO.27	法印谷(9%)	法印谷	剥片
55997	NO.28	六ツ目遺跡群		剥片
55998	NO.29	法印谷(2%)	法印谷	剥片
55999	NO.30	蓮光寺(21%), 国分寺(3%)	国分寺	剥片

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われますが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第10表 国分寺六ツ目遺跡出土の縄文時代のサマイト製遺物の原産地推定結果（香川県綾歌郡国分寺町福家）

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサスカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。今回分析した遺物の結果を第9表に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためK/Caの一変数だけを考えると、分析番号60026番の遺物はK/Caの値が0.463で、金山東群の[平均値] ± [標準偏差]は、 0.488 ± 0.012 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 2.0σ 離れている。ところで金山東原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 2.0\sigma$ のずれより大きいものが5ヶある。すなわち、この遺物が、金山東群の原石から作られていたと仮定しても、 2.0σ 以上離れる確率は5%であると言える。だから、金山東群の平均値から 2.0σ しか離れていないときには、この遺物が金山東群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を二上山群に比較すると、二上山群の平均値からの隔たりは、約 17σ である。これを確率の言葉で表現すると、二上山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 17σ 以上離れている確率は、百兆の千倍分の一であると言える。このように、百兆の千倍個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、二上山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は金山東群に5%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから金山東産原石が使用されいると同定され、さらに二上山群に対しては一兆分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから二上山産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(金山東産地)と一致したからと言って、例え金山東群と二上山群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物でさらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中で分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(金山東群)に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の70個すべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて金山

東産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといった唯一の変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する^{4,5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サヌカイト製では45個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上「記入」を省略しているのみで、実際に計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる、すなわち、金山東産原石と判定された遺物について、奈良県二上山原石とか佐賀県多久産、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を第7表に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のパラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。原石産地(確率)の欄にマハラノビスの距離 D^2 の値で記した遺物については、判定の信頼限界としている0.1%の確率に達しなかった遺物でこの D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値である。この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えては、間違いないと判断されたものである。国分寺六ツ目遺跡から出土したサヌカイト製遺物30個には遺跡から近い産地の国分寺・蓮光寺産の原石が9個(30%)で白峰産原石が5個(17%)、法印谷・赤子谷産原石は11個(34%)、金山産は4個(13%)であることが明らかになった。また、産地が特定できなかった分析番号55997番の遺物は30回分析し、分析誤差範囲内で一致する産地を探した。新地、大崎山、石清尾山、飯野山、屋島の各地の原石と比較したが一致しなかった。未調査になっている遺跡付近に位置する御鹿池周辺で採取できる石材の可能性も推測されるが、決定

は今後調査を待たなければならない。近畿地方の遺跡の産地分析の結果の中に、金山産地の原石以外に法印谷とか国分寺群などに同定される結果をときどきみるが、これは原石産地付近の遺跡で使用される原石が伝播していると推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

- 1) 薬科哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅱ)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 薬科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 薬科哲男・東村武信 (1983), 石器原料の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学。学生社

第2節 放射性炭素年代測定報告*1

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

国分寺六ツ目遺跡は、国分寺平野の中央部を北流する本津川右岸の沖積低地に位置する。今回の発掘調査により、縄文時代から中・近世の遺構・遺物が検出されている。このうち、第4区からは、炭化物を伴うサヌカイト集積遺構が確認され、縄文時代の石器製作跡と考えられている。

今回の分析調査では、このサヌカイト集積遺構から出土した炭化材の年代測定を行い、遺構の年代に関する資料を得る。また、同じ炭化材について樹種同定を行い、古植生などに関する資料を得る。

*1 この報告では、炭化材がサヌカイト集積遺構から出土したとしているが、実際は集積近くの同一層位から出土したものである。これは、筆者のパリノ・サーヴェイ株式会社への説明不足である。ここでは、報告題名を除いて、報告原文のまま掲載していることとお断りしておく。

1・試料

試料は、サヌカイト集積遺構から出土した炭化材1点である。

2・方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室が行った。

(2) 樹種同定 (図版78)

木口 (横断面)・柀目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3・結果

年代測定結果および樹種同定結果を、第11表に示す。炭化材の年代は、 2890 ± 50 y. B. P であった。また、樹種はコナラ属アカガシ亜属に同定された。解剖学的特徴などを、以下に記す。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は、中庸~厚く、横断面では楕円形、単特で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものとの複合放射組織とがある。

第11表 年代測定結果および樹種同定結果

出土遺構	資料の質	樹種	年代	Code No
サヌカイト集積遺構	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	2890 ± 50 940 B.C.	Gak-20093

- 1) 年代は、1950年を基点とした年数
- 2) 放射性炭素の半減期は、LIBBYの5570年を使用した
- 3) 年代値は、同位体効果の補正を行った値

4・考察

炭化材の年代値は、2890±50y.B.P.であった。炭化材が出土したサヌカイト集積遺構は、縄文時代の石器製作跡と考えられているが、時期については不明である。今回得られた年代値は、四国、中国、近畿地方で行われた縄文時代の遺構に伴う貝、木、土壌などの年代測定のうち、縄文時代後期の年代値に一致している（キーン・武藤、1982）。このことから、サヌカイト集積遺構は縄文時代後期に属する可能性がある。

一方、炭化材の樹種はアカガシ亜属であった。縄文時代の古植生については、善通寺市永井遺跡や坂出市下川津遺跡などで調査例がある（古市、1990；能城・鈴木、1990；パリオ・サーヴェイ株式会社、1990）。これらの調査では、アカガシ亜属などの暖温帯常緑広葉樹林の構成種が多く認められており、今回の結果とも調和的である。このことから、当時本遺跡周辺でもアカガシ亜属などの常緑広葉樹を主とした植生が見られたと考えられる。

引用文献

- 古市光信（1990）善通寺市永井遺跡（縄文時代）産出の植物遺体（種子）について、「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊 永井遺跡」, p. 814-822, 香川県教育委員会・徳香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団。
- キーンC.T.・武藤康弘（1982）縄文時代の年代, 加藤晋平・小林達雄・藤本 強編「縄文文化の研究1 縄文人とその環境」, p.246-275, 葦山閣。
- 能城修一・鈴木三男（1990）善通寺市永井遺跡の木材化石群集, 「四国横断自動車道に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊 永井遺跡」, p.823-864, 香川県教育委員会・徳香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団。
- パリオ・サーヴェイ株式会社（1990）下川津遺跡における花粉・珪藻分析委託報告, 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡 一第2分冊一」, p.479-518 香川県教育委員会・徳香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団。

第3節 国分寺六ツ目遺跡出土土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

1. 分析の目的

この分析では、蛍光X線分析法により国分寺六ツ目遺跡出土の弥生時代後期末の土器胎土を分析し、以下のことについて検討した。

(1)国分寺六ツ目遺跡の川跡岸部から出土した弥生時代後期末の土器が肉眼観察による胎土分類で10種類⁽¹⁾に分類されているが、この分類が蛍光X線分析法による胎土分析でどのように分類されるか。

(2)この遺跡出土土器と香川県内の各遺跡（高松市上天神遺跡⁽²⁾、国分寺六ツ目古墳⁽³⁾）出土土器との比較検討。

2. 分析の方法、結果

分析は波長分散型蛍光X線分析装置（リガク電気製）を使用し、分析試料、測定方法、条件などは現在までにおこなっている方法で実施した。

分析試料は第12表の1類土器10点、2類土器5点、3類・4類・5類・6類土器が各2点、7類土器3点、8類土器1点、9類土器2点、10類土器1点の合計30点である。

分析の結果、K、Ca、Sr、Rbの4元素を用いてXY散布図を作成し、分析値の分布状況から比較検討した。

(1)肉眼観察で10類に分類された土器が蛍光X線分析法でどのように分類されるかでは、第68図K-Ca散布図から大きく4つのグループに分かれた。それは分類1（1, 3, 4, 5, 8, 9, 10）、分類2（12, 14, 15）、分類4（18, 19）、分類5（20, 21）、分類8（27）のAグループと分類1（2, 6, 7）、分類2（11, 13）、分類3（16, 17）分類9（28, 29）のBグループと分類6（22, 23）、分類10（30）のCグループと分類7（24, 25, 26）のDグループである。また、第69図Sr-Rb散布図も同様な結果となった。これによると分類1の1・3・4・5・8・9・10と2・6・7、分類2の12・14・15と11・13の2つにそれぞれ分かれるようである。

(2)周辺遺跡出土土器との比較では、第68図、第69図の各散布図より分類7のDグループが上天神遺跡の下川津B類土器の分布領域と重なり、Aグループには国分寺六ツ目古墳出土のC、D、Eの各グループの分布領域が重なる。Bグループには国分寺六ツ目古墳出土

のBグループの土器分布領域がほぼ重なる。また、Cグループにはどの遺跡出土土器も重ならなかった。

3. まとめ

以上の分析結果をまとめると

(1)肉眼観察で10類に分類された土器は、蛍光X線分析法では4つに分類できた。

- Aグループ……分類1 (1, 3, 4, 5, 8, 9, 10) 分類2 (12, 14, 15) 分類4 (18, 19) 分類5 (20, 21) 分類8 (27)
- Bグループ……分類1 (2, 6, 7) 分類2 (11, 13) 分類3 (16, 17) 分類9 (28, 29)
- Cグループ……分類6 (22, 23) 分類10 (30)
- Dグループ……分類7 (24, 25, 26)

このようにグループ分けしたものを肉眼観察の砂粒分類（鉱物による分類）で検討すると、Aグループ、Bグループには長石・石英・赤色粒子を多く含む土器。Cグループには長石・石英・雲母の鉱物を多く含む土器。Dグループは長石・石英・雲母・角閃石の鉱物を多く含む土器であることが推測される。また、AグループとBグループの2つに分かれた原因であるが明確な砂粒の差異がみられない。ただ、Aグループは分類4、分類5、分類8のように長石・石英の粗粒を含まないきめの細かな粘土で、赤色粒子を多く含む傾向の粘土である。そして、Bグループは分類3のように長石が多く含まれるものがみられる。この結果からA、Bグループの差異は砂粒大きさ、赤色粒子・長石の量などが関係していることが考えられる。

(2)周辺遺跡との比較では、Aグループは国分寺六ツ目古墳のC、D、Eグループ領域に、Bグループは国分寺六ツ目古墳のBグループの分布領域にそれぞれ分布している。また、Dグループは上天神遺跡の「下川津B類土器」の分布領域に分布している。

この胎土分析を実施する機会を与えていただいた山下平重氏をはじめ香川県埋蔵文化財調査センターの職員の方々には、お世話になりました。末筆ではありますが記して感謝いたします。

註

(1)試料提供者により以下の10種類に分類されている。

胎土分類	肉眼による胎土観察
1	長石・石英の粗砂を多く含むもの。
2	1の胎土に赤色粒子を多く含むもの。
3	長石及び赤色粒子を多く含むもの。
4	粗砂をあまり含まないきめの細かいもの。
5	4よりはきめが粗く長石・石英を含むが、1よりは少なく、また赤色粒子も含む。
6	長石・石英・雲母の粗砂を多く含む。赤色粒子も含む。
7	長石・石英・雲母・角閃石の粗砂を含むいわゆる下川津B類土器の胎土。
8	赤色粒子を非常に多く含むもの。長石・石英の粗砂は少ない。
9	下川津B類土器に類似する器形だが、長石・石英の粗砂のみを含むもの。
10	下川津B類土器に類似する器形だが、長石・石英・雲母の粗砂はみられるもの、角閃石はみられないもの。

*胎土分類はすべて肉眼で行っている。

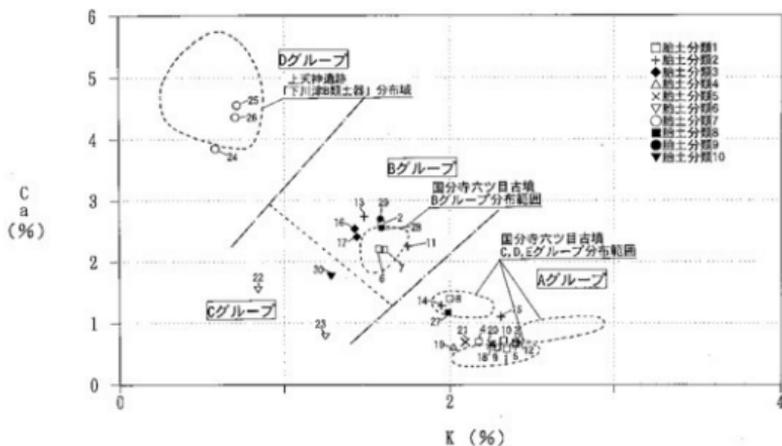
(2)白石 純「上天神遺跡出土土器の胎土分析」『上天神遺跡』高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 香川県教育委員会 1995.12

(3)白石 純「国分寺六ツ目古墳出土土器の胎土分析」『国分寺六ツ目古墳』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第28冊 香川県教育委員会 1997.8

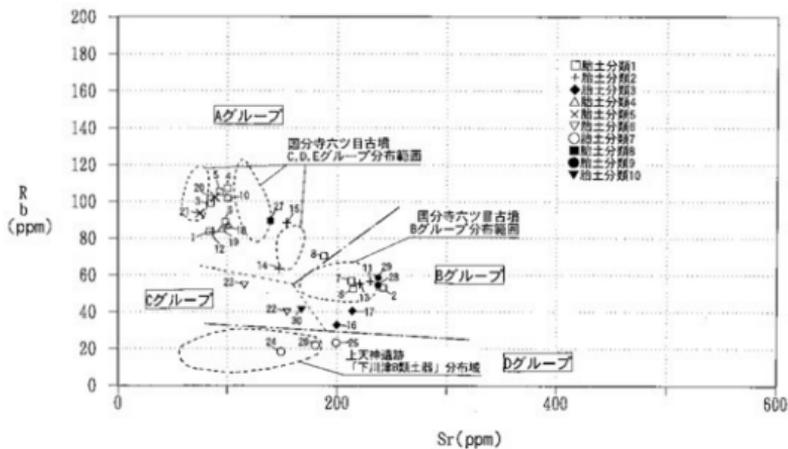
試料番号	器種	胎土分類	K	Ca	Fe	Ti	Sr	Rb	報告書番号
1	甕	1	2.34	0.56	5.69	0.65	84	83	341
2	甕	1	1.59	2.61	9.76	0.96	242	53	336
3	甕	1	2.40	0.68	4.45	0.53	86	99	339
4	甕	1	2.18	0.68	5.53	0.58	101	107	338
5	甕	1	2.39	0.65	4.49	0.52	94	105	342
6	鉢	1	1.57	2.20	9.58	0.88	215	52	354
7	鉢	1	1.60	2.19	9.34	0.86	214	57	355
8	壺	1	2.00	1.39	6.95	0.71	189	70	356
9	鉢	1	2.28	0.59	5.30	0.57	99	89	349
10	甕	1	2.32	0.70	5.59	0.58	101	102	343
11	鉢	2	1.74	2.24	10.04	0.91	231	56	353
12	鉢	2	2.41	0.68	11.66	0.69	88	83	472
13	壺	2	1.48	2.73	10.15	0.93	221	55	333
14	鉢	2	1.95	1.27	11.43	0.82	149	63	348
15	鉢	2	2.30	1.10	6.97	0.73	155	88	351
16	高坏	3	1.43	2.52	11.76	1.13	201	33	357
17	鉢	3	1.44	2.38	11.18	1.04	215	41	
18	甕	4	2.26	0.65	4.72	0.60	102	88	340
19	壺	4	2.03	0.60	6.02	0.63	96	86	335
20	鉢	5	2.25	0.64	5.05	0.62	89	103	350
21	鉢	5	2.10	0.68	5.91	0.59	76	94	352
22	甕	6	0.85	1.53	9.66	1.13	156	40	344
23	壺	6	1.25	0.77	7.17	1.08	116	54	380
24	甕	7	0.59	3.83	15.16	2.08	150	19	334
25	甕	7	0.72	4.54	14.55	2.02	199	24	347
26	甕	7	0.70	4.34	14.59	1.96	180	22	346
27	壺	8	2.00	1.21	11.57	1.12	140	91	
28	甕	9	1.58	2.59	10.96	1.07	236	56	345
29	壺	9	1.59	2.65	10.80	1.04	236	59	332
30	壺	10	1.29	1.79	14.04	1.59	169	43	337

(%) ただしSr, Rbはppm

第12表 国分寺六ツ目遺跡出土土器胎土分析試料一覧表



第68図 各胎土分類と周辺遺跡出土土器との比較



第69図 各胎土分類と周辺遺跡出土土器との比較

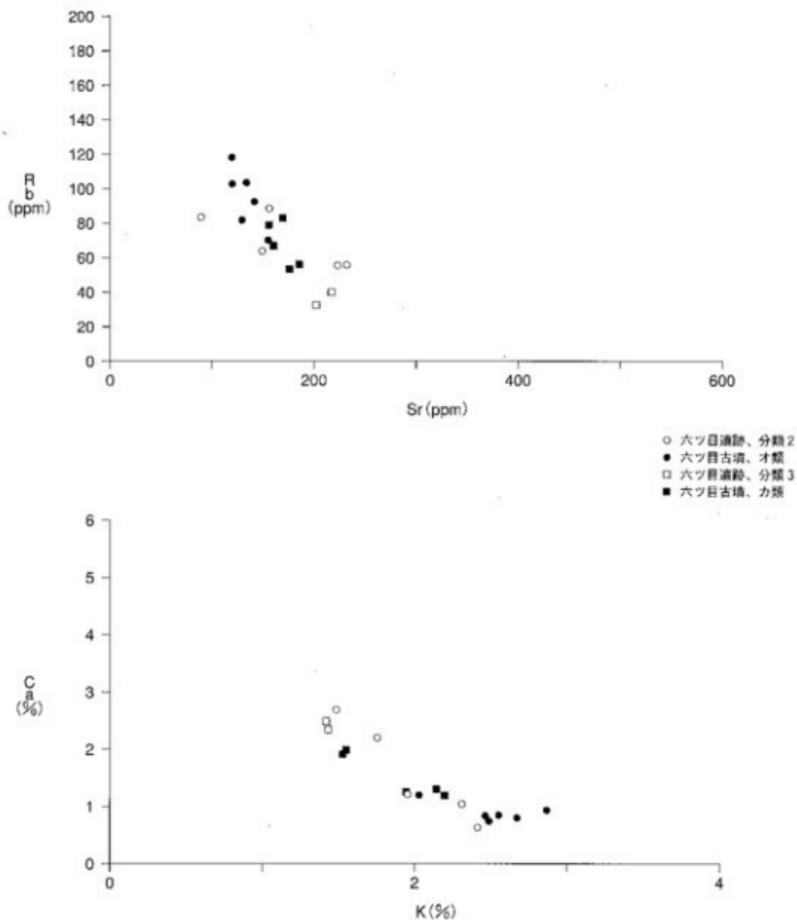
第4節 自然科学分析についてのコメント

サヌカイト産地分析については、分析試料を提出するに当たり、筆者の方で今までの薬科氏の分析結果を参照して、金山産と判断できる資料についてはほとんど分析を依頼していない。また、金山産以外と考えた比較的黒色で緻密な剥片は肉眼で分類を行い、各分類から分析試料を抽出した。そのため、分析結果の産地の比率が当遺跡のサヌカイトの産地の比率には結びつかない。金山産と他の産地の比率については、おおよぼであるが次節の石材比率のデータを参照されたい。また、分析結果で産地が特定できず「六ツ目遺跡群」とされたものについては、今後の課題としたい。

放射性炭素年代測定の結果については、サヌカイト剥片を含む包含層から出土した炭化材の年代測定ではあったが、出土石器と時代観については違和感の無い結果であったと考えられる。当遺跡では縄文土器が1点も出土していないため、石器群の時期決定についてはやや困難な状況であるので、参考データになるものであろう。

土器胎土分析については、分類7の下川津B類土器は、これまでの分析成果と齟齬のないものとなった。また、今回、分析の1つの目的とした国分寺六ツ目古墳出土土器との比較においては、国分寺六ツ目古墳^{*1}のオ・カ類が国分寺六ツ目遺跡の土器の胎土と類似しているとされていたので、オ・カ類に類似したものを抽出し、それぞれ分類2・3として分析を依頼した。分析を依頼した白石氏からグラフは単純に重ねて使用することが可能ということを知ったので、これを行った結果が、第70図であり、明確な分布域の重なりは認められない。これは、分析試料抽出者が異なることが原因である可能性もあり、問題を残した。ただ、肉眼で雲母が観察できたもの（Dグループの下川津B類土器は除く）が、同じCグループとして分離できたことは一つの成果と考えられる。

*1 香川県教育委員会・柳香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団『西国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十八巻 国分寺六ツ目古墳』1997 p.83



第70図 国分寺六ツ目古墳と国分寺六ツ目遺跡の土器胎土の比較

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷

旧石器時代

ナイフ形石器及び角錐状石器が数点出土しているのみである。

縄文時代

放射性炭素年代測定法を参考にすれば、後期頃の年代が想定できるが、土器は全く出土していない。石器は石鏃、石匙、スクレイパー等が出土している。遺構としては、4区で金山産サヌカイトの集積遺構が検出されているのみである。

弥生時代終末期

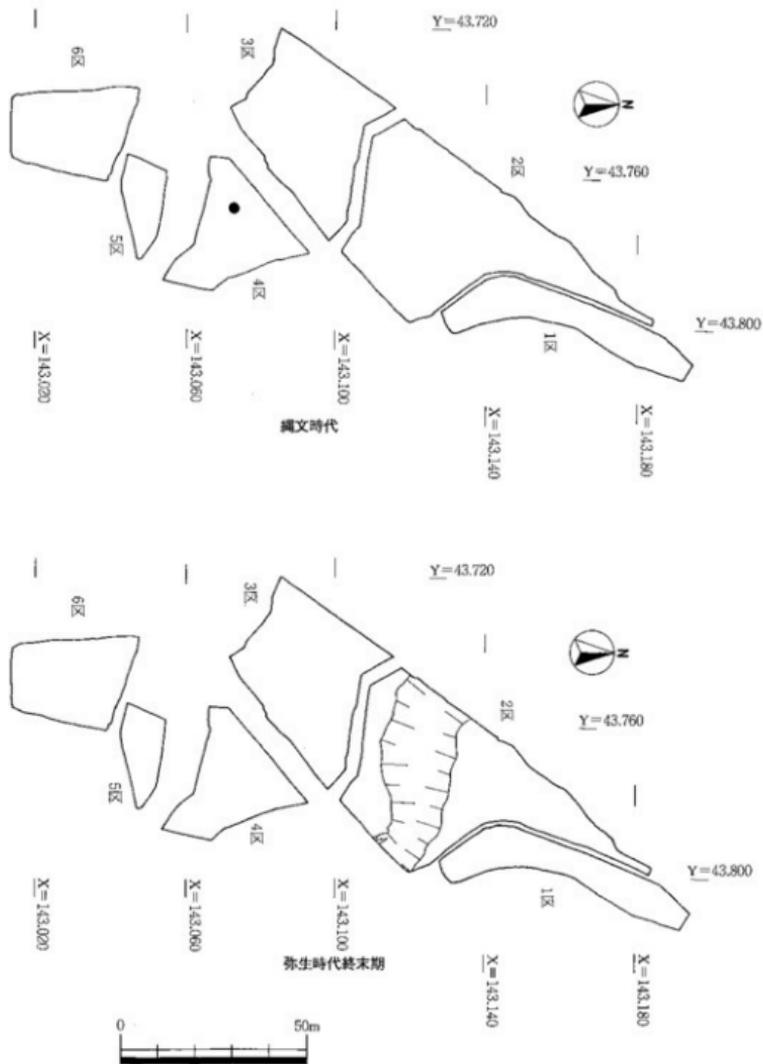
2区で、川跡埋土中に土器が集中する箇所が検出されている。

中世

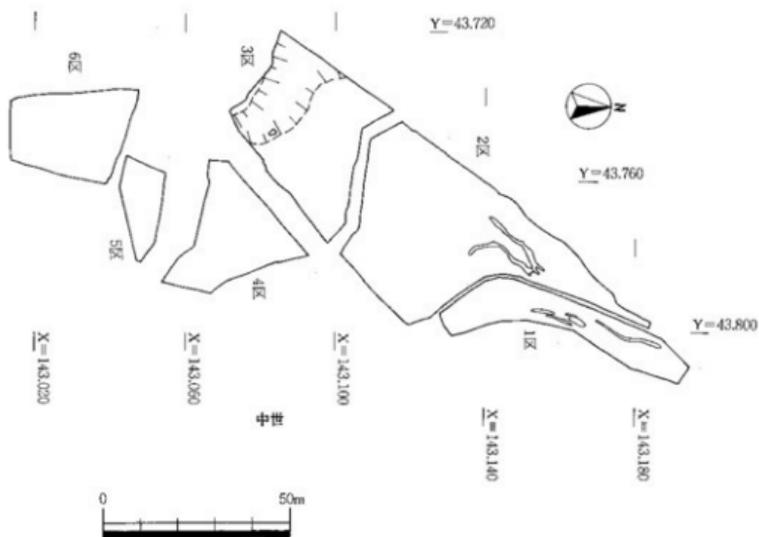
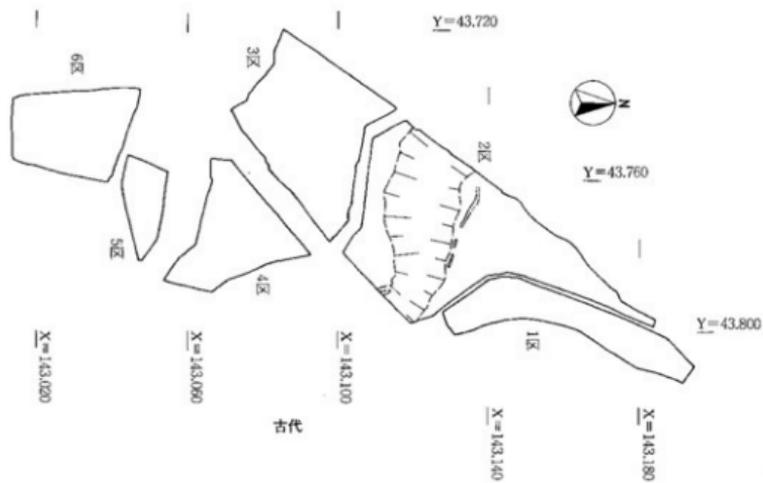
古代については、あまり明らかではない。2区SR01埋土には奈良時代頃の遺物を包含する層が見られる程度である。中世の遺構としては、少数の溝跡及び土釜の出土した土坑が検出されているのみである。

近世

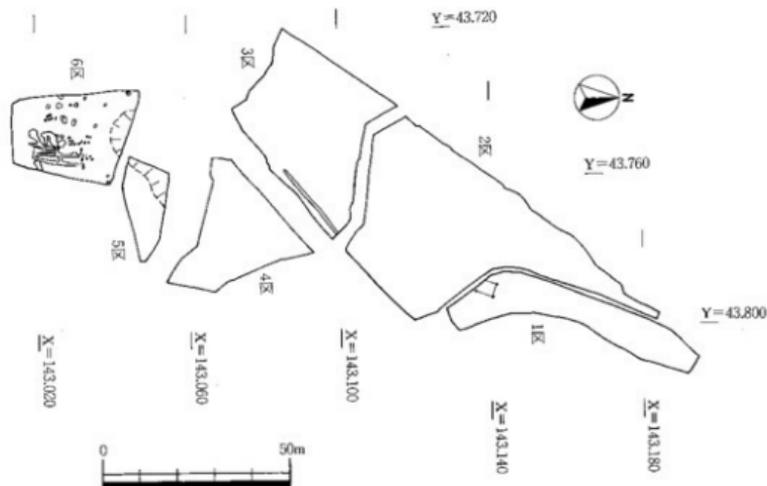
6区で近世以降の建物跡が検出されている。



第71図 遺構配置図(1) (縄文時代・弥生時代終末期) (1/1,500)



第72図 遺構変遷図(2)(古代・中世)(1/1,500)



第73図 遺構変遷図(3) (近世以降) (1/1,500)

第2節 サヌカイト集積遺構出土剥片について

集積遺構からは、多数の剥片が出土したが、製品は石匙1点のみであった。石材については、第3章で記したとおり、ほとんどが金山産と考えられるサヌカイトである。ここでは、金山産と考えられる剥片についてまとめておく。なお、集積遺構内出土の接合資料を構成する剥片で、集積遺構外から出土したものは集積遺構内出土の剥片としてデータを処理している。

1 剥片剥離について

集積遺構出土の剥片の観察からは、両極技法を用いた板状剥片の剥離作業が中心であると考えられる。また剥片の二次加工はほとんど認められない。また、主要剥離面には主要剥離以前の潜在割れが認められることが多く、1回の打撃で剥片剥離ができず、数回打撃を繰り返していることが考えられる。

剥片背面の礫面に注目すると、図化した剥片86点中*1、背面に大きく礫面を残すものは

*1 出土した剥片は105点であるが、接合作業の結果、折れ面接合と判断したものは接合状態で1点として図化したので、実測箇の点数で数える。

8点、側面に礫面を残すものは71点、礫面を全く残さないものは8点である。これから考えるとおそらく原石の状態で石材は搬入され、当遺跡で板状剥片に分割されたものと考えられる。

打面	白
点	24
礫	42
切子	0
平坦	4

第13表 集積遺構出土剥片打面の集計

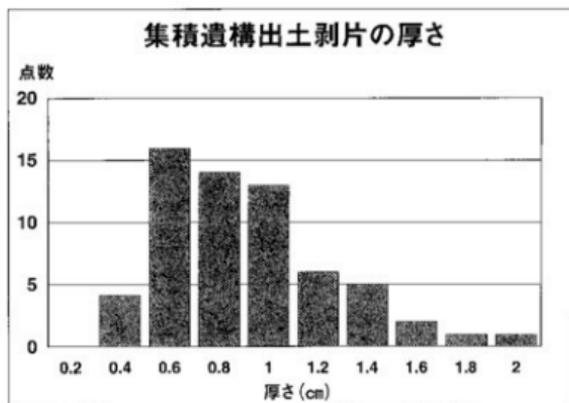
原石の大きさは、礫面の残存度が大きい剥片から考えると、剥片14からは平面の大きさが約13×6 cm、接合資料100からは20×9 cm、剥片107からは約18×15 cm程度である。厚さについては復元できないが、板状剥片（接合資料を含めて）の最大のもので2 cm程度である。

打面のわかる剥片について、打面の種類ごとに集計したものが第13表である。これによれば、礫面打面が多いことがわかり、上で述べた礫面の残存度に加え、当遺跡で原石の状態で分割されたということを補強するものといえる。

2 剥片の大きさ、重量

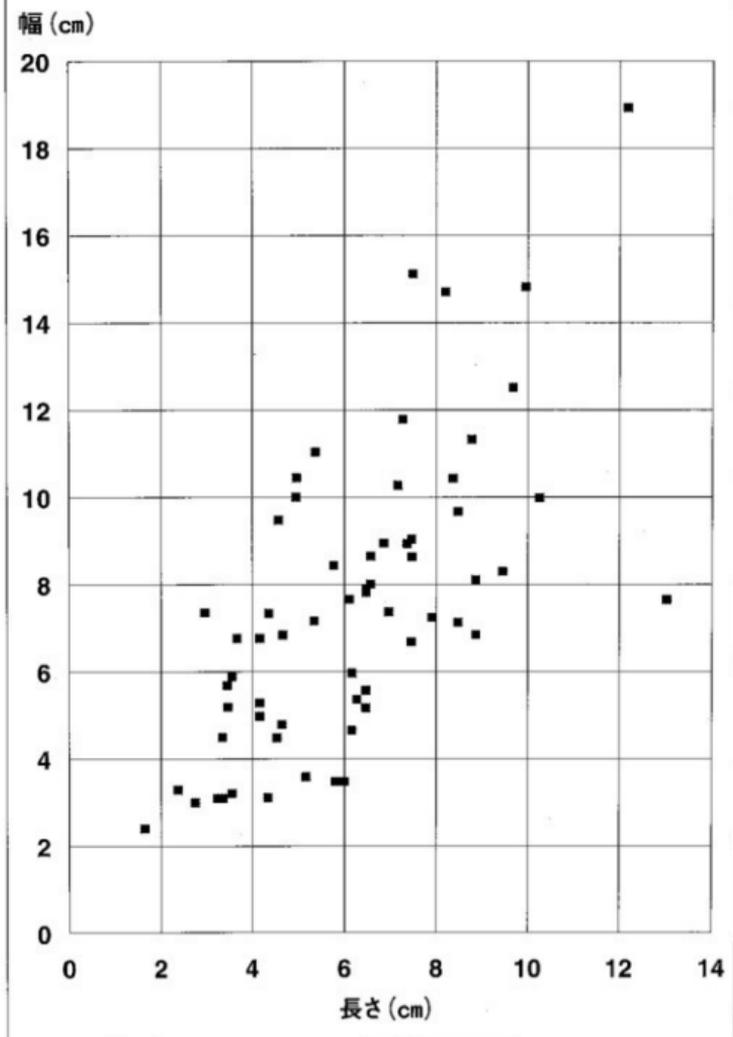
出土した剥片には、小型石器の素材となる程度のものから石核素材となりそうな板状の剥片まである。完形及び完形に近い剥片の大きさは、第75図で示した。これによれば、長さ及び幅については、特に集中する大きさの範囲は無いといえる。厚さについては、0.6～1.0 cmのものが多く（第74図）。重量についても、小さいものが多く、大きくなるに従い少なくなる。ほとんどは、

200 g 以下の軽い剥片が多い。これは、中国地方で見つかっている



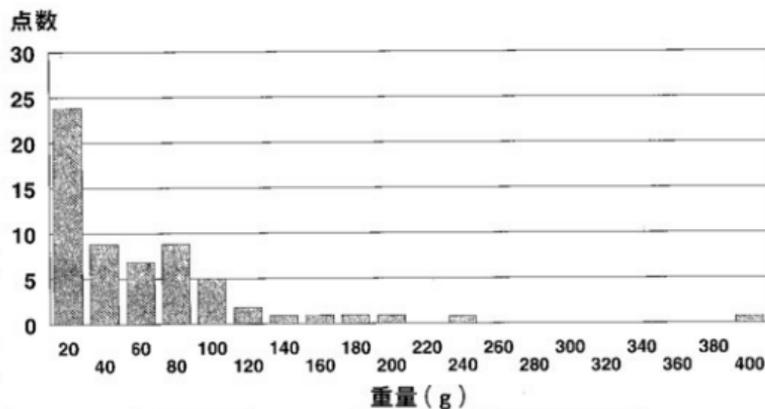
第74図

集積遺構出土剥片の大きさ

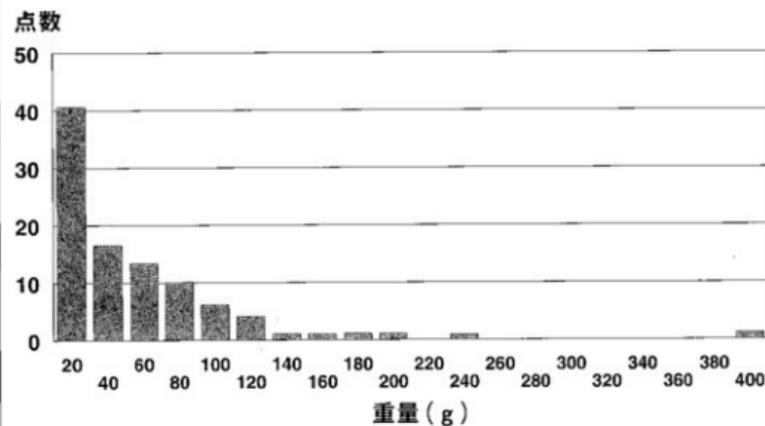


第75図 集積遺構出土剥片の大きさ

集積遺構出土完形剥片重量分布図



集積遺構出土全剥片重量分布図



第76図 集積遺構出土剥片重量分布図

板状石材の集積遺構など^{*1}の剥片に比べて小さく、異なる性格が考えられる。

第3節 サヌカイト集積遺構外出土石器類の分析

この節では、当遺跡の出土石器類全体（集積遺構出土は除く）をデータとして扱っているため、すべて同時期の資料とはいえないという問題点はあるが、剥片の風化度からおおむね同時期の石器類が多いものと考えている。

1 石材について

集積遺構外から出土した石器類の石材ごとの点数は、第14表のとおりである。この表では、比較的黒色を呈し緻密で、おそらく金山以外の産地と考えられるサヌカイト（以下、黒色系石材あるいは黒色系剥片）を

黒、白色に風化し縞状の構造が見られ金山産と考えられるサヌカイト（以下、白色系石材あるいは白色系剥片）を白、縞状の構造が見られるが金山産とはやや異なるもの（以下、縞状石材あるいは縞状剥片）を縞^{*2}として表現した。ただ、この分類はやや曖昧なものである。この表によれば、石器類の点数は黒色系剥片が多いものの、石器類1点あたりの平均重量は白色系剥片と黒色系剥片ではほとんど変わらない。

2 剥片について

剥片の大きさについて

ここでは、出土石器類のうち、完形及び完形に近い剥片についてデータの処理を行った。対象点数は、白色系剥片が215点、黒色系剥片が381点、縞状剥片が19点、ハリ質安山岩製

石材	点数	重量(g)	平均重量(g)
白	737	6867.37	9.32
黒	1343	13245.52	9.86
縞	75	834.36	11.12
その他	21	300.03	14.29
ハリ質安山岩	12	36.00	3.00

第14表 集積遺構外出土石器類の集計

*1 竹広文明「縄文時代の石器原料獲得 ―金山産サヌカイトをめぐる―」『考古論集 ―潮見浩先生退官記念論文集―』1993 を参照。

*2 縞状構造の石材については、今回産地分析は行っていない。今後の課題である。

が6点及び他石材を含む合計623点である。

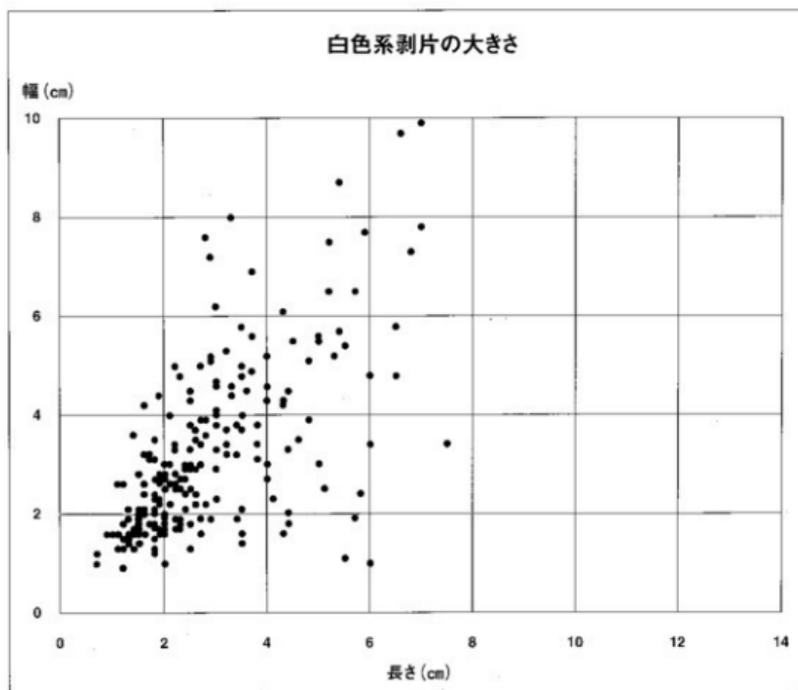
第77～79図に集積遺構外出土の剥片の長さ及び幅の分布図を示した。白色系剥片及び黒色系剥片とも長さ及び幅が2 cm前後にやや集中する傾向がある。また、縞状剥片とハリ質安山岩では大型の剥片は無い。

重量

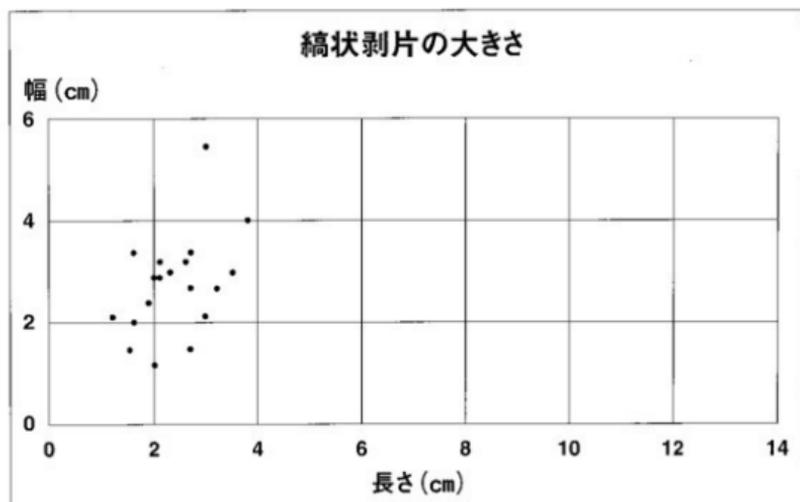
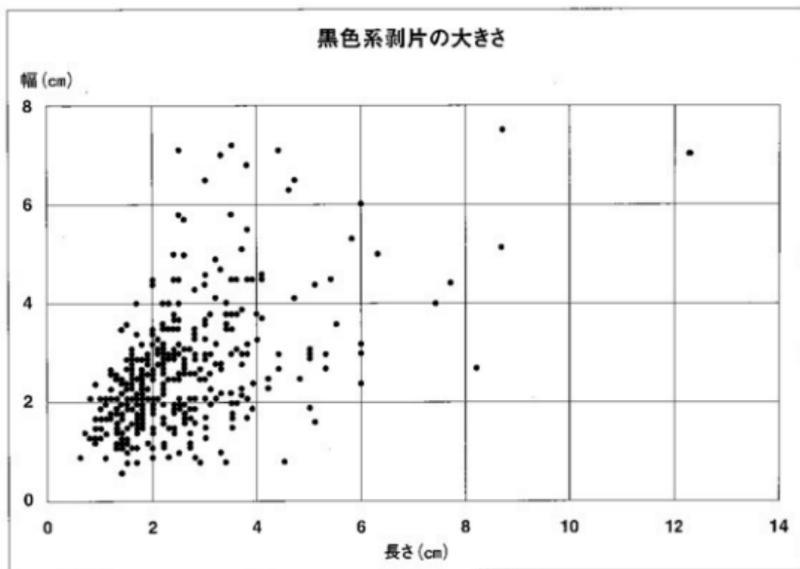
黒色系剥片と白色系剥片の重量分布については、第80図に示した。いずれも10 g前後にやや集中する範囲がある。また、それぞれの石材の総重量は第14表のとおりである。

打面

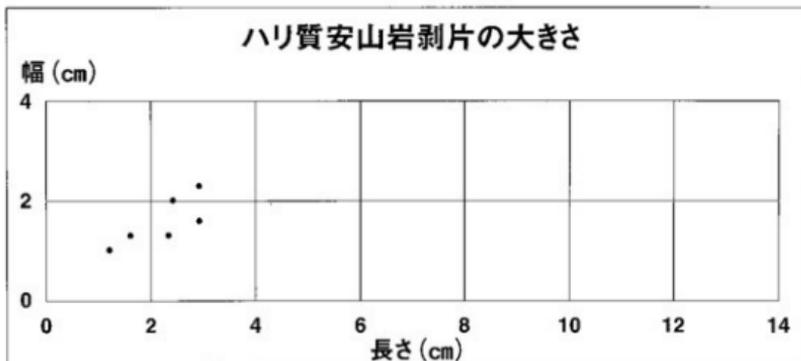
出土した石器類のうち主要剥離面の打面のわかるもの（計878点）を、点状打面、平坦



第77図 集積遺構外出土剥片の大きさ (1)



第78図 集積遺構外出土剥片の大きさ (2)



第79図 集積遺構外出土剥片の大きさ (3)

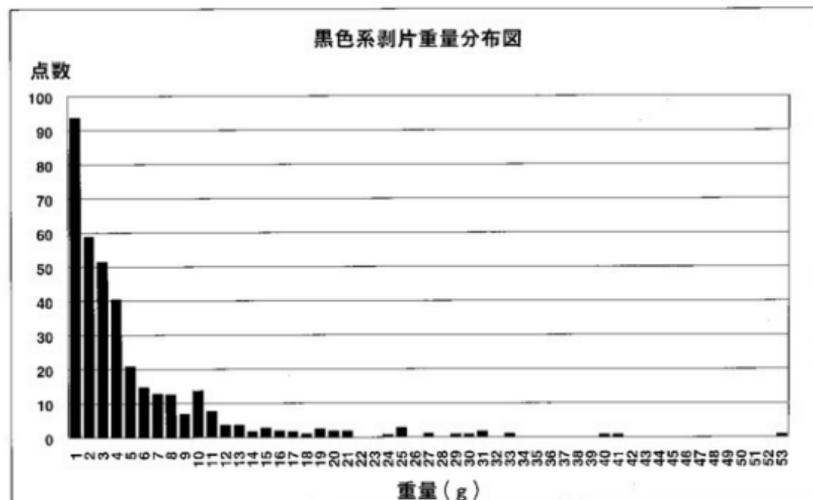
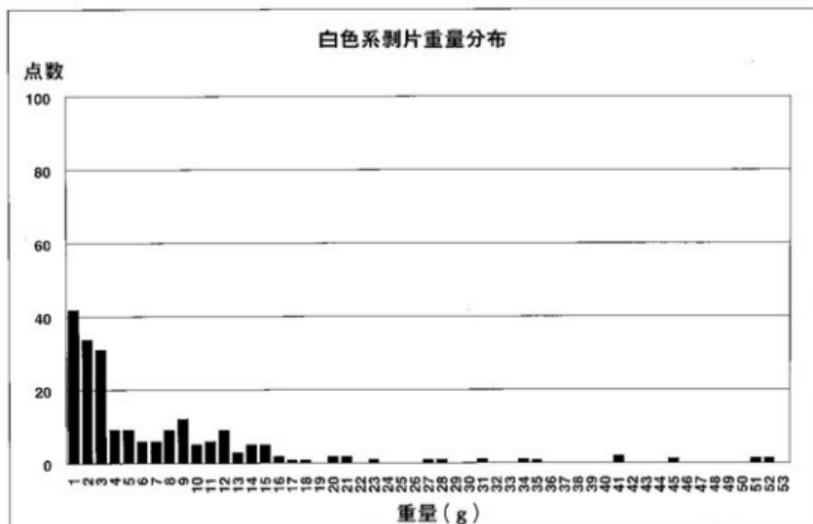
打面、切子打面、礫面打面に区別して集計し、グラフにした(第81図)。第82図は完形剥片における打面についての集計である。いずれにおいても点状打面が過半をしめるが、白色系剥片と黒色系剥片を比較した場合、白色系剥片は礫面打面がやや多く、黒色系剥片は平坦打面が多い傾向がある。

3 石核について

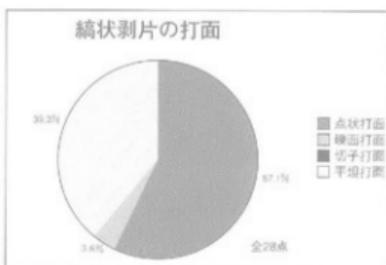
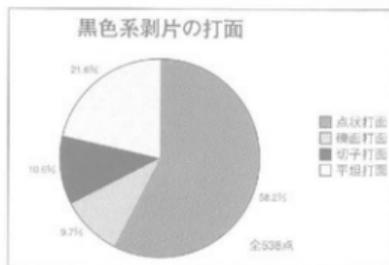
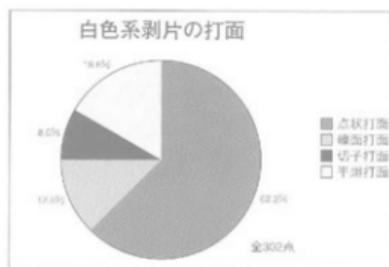
石核は実測図を掲載したものと掲載しなかったものを含めて、41点観察を行った。石核と判断した基準は、もっとも小さい剥離面でも、石鏃の素材となりそうな大きさの剥片剥離面をもつものとした。石材の内訳は黒色系石材が27点、白色系石材が6点、縞状石材が8点である。石材の重量や剥片の数(前項参照)の比率を考えると、白色系石材の石核が少ないが、これは実際の剥片剥離が行われた石核が、通常石核の形態を示していないため、石核として抽出できないのかもしれない。

剥離された剥片の大きさ、打面

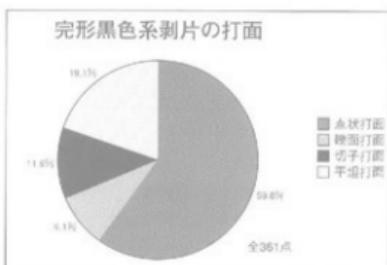
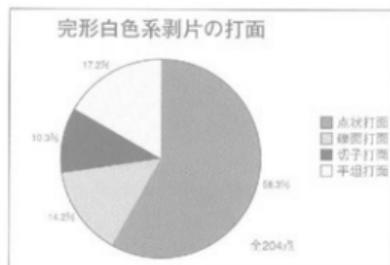
剥離面の大きさを第83図で示した。長さ1～3cm前後、幅1～4cm前後が多く、おそらく石鏃の素材剥片の剥離が中心であった可能性がある。これより、大型の剥離面については石匙の素材剥片の剥離面である可能性がある。特に、実測図303は、石匙の素材剥片の剥離面の可能性はあろう。



第80図 集積遺構外出土剥片の重量



第81図 集積遺構外出土剥片の打面



第82図 集積遺構外出土完形剥片の打面

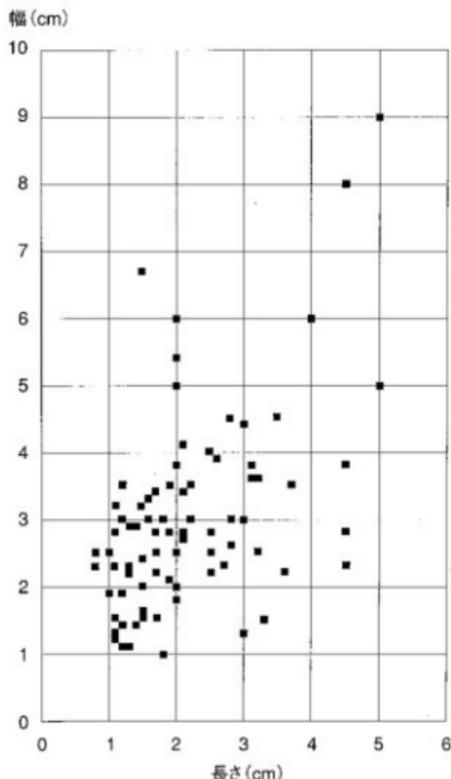
剥片剥離面の打面形態については、第15表にまとめた。これによれば、平坦打面がかなり多いことがわかる。剥片の観察では点状打面の多さが目立ったが、石核では異なった結果となった。これは、分析した剥片が目的剥片かどうかという問題、先ほど述べた石核の認識の問題などがあり、今後、製品や未製品の検討も行う必要があるだろう。

4 製品について

石鏃及び石鏃未製品についてのみ集計した(第16表)。石材は石鏃及び未製品とも、黒色系石材が多い。また、主要剥離面の形状であるが、石理のあまりみられない黒色系石材を利用したためか、平坦なもの少ない。また、石核の検討結果をあわせて考えると、当遺跡の石鏃の製作方法は、黒色系石材を使用し、平坦打面を打撃して素材剥片を得、これを二次加工するものであったと言える。

打面	黒	白	縞	計
点状	15	3	0	18
稜面	18	1	1	20
切子	7	0	6	13
平坦	35	5	19	59

第15表 石核剥離面打面の集計



第83図 石核剥片剥離面の大きさ

	石材	黒	白	縞	
石鏃	点数	34	16	3	
	主剥離面形状	貝殻状	7	0	0
		平坦	3	1	1
石鏃未製品	点数	13	2	0	
	主剥離面形状	貝殻状	10	0	0
		平坦	2	2	0

第16表 石鏃及び未製品の集計表

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
1	MSⅡS 754	ナイフ形石器	5.85	サヌカイト	黒(旧)		24
2	MSⅡS谷撥乱層	ナイフ形石器	8.65	サヌカイト	黒(旧)		24
3	MSⅣA-18	ナイフ形石器	3.78	サヌカイト	黒(旧)		24
4	MSⅣA-64	ナイフ形石器	1.05	サヌカイト	黒(旧)		24
5	MSⅡ④SR02土層～粘土層	ナイフ形石器	3.98	サヌカイト	黒(旧)		24
6	MSⅣA-97	角錐状石器	3.51	サヌカイト	黒(旧)		24
7	MSⅢA-268	角錐状石器	8.69	サヌカイト	白(旧)		24
8	MSIS上黄茶褐色包含層	角錐状石器	2.91	サヌカイト	黒(旧)		24
9	MSⅣA-768	石匙	17.51	サヌカイト	白		57
10	MSⅣA-796	剥片	29.19	サヌカイト	白		25
11	MSⅣA-791	剥片	38.28	サヌカイト	白		25
12	MSⅣA-746	剥片	51.9	サヌカイト	白	有効	25
13	MSⅣA-696.710	剥片	48.97	サヌカイト	白		25
14	MSⅣA-729	剥片	41.82	サヌカイト	白		25
15	MSⅣA-813	剥片	50.17	サヌカイト	白		25
16	MSⅣA-686	剥片	119.76	サヌカイト	白		26
17	MSⅣA-709	剥片	45.53	サヌカイト	白		26
18	MSⅣA-804	剥片	191.89	サヌカイト	白		26
19	MSⅣA-805	剥片	173.68	サヌカイト	白		27
20	MSⅣA-727.728.785.1040	剥片	82.27	サヌカイト	白		27
21	MSⅣA-797	剥片	91.87	サヌカイト	白		28
22	MSⅣA-723.759.722	剥片	93.97	サヌカイト	白		28
23	MSⅣA-790	剥片	71.99	サヌカイト	白		28
24	MSⅣA-685.789	剥片	70.68	サヌカイト	白		28
25	MSⅣA-807	剥片	79.95	サヌカイト	白		29
26	MSⅣA-784	剥片	53.92	サヌカイト	白		29
27	MSⅣA-773	剥片	73.91	サヌカイト	白		29
28	MSⅣA-778	剥片	67.69	サヌカイト	白		29
29	MSⅣA-770	剥片	56.26	サヌカイト	白		30
30	MSⅣA-803	剥片	41.82	サヌカイト	白		30
31	MSⅣA-810	剥片	70.98	サヌカイト	白		30
32	MSⅣA-719	剥片	61.95	サヌカイト	白		30
33	MSⅣA-811	剥片	43.3	サヌカイト	白		30
34	MSⅣA-775	剥片	51.9	サヌカイト	白		30
35	MSⅣA-801	剥片	30.92	サヌカイト	白		31
36	MSⅣA-692	剥片	39.52	サヌカイト	白		31
37	MSⅣA-800	剥片	44.53	サヌカイト	白		31
38	MSⅣA-714.716	剥片	44.57	サヌカイト	白		31
39	MSⅣA-769	剥片	43.33	サヌカイト	白		31
40	MSⅣA-798	剥片	29.83	サヌカイト	白		31
41	MSⅣA-792	剥片	28.56	サヌカイト	白		32
42	MSⅣA-745	剥片	19.89	サヌカイト	白		32
43	MSⅣA-699.743	剥片	23.49	サヌカイト	白		32
44	MSⅣA-706	剥片	18.74	サヌカイト	白		32
45	MSⅣA-715	剥片	19.22	サヌカイト	白		32
46	MSⅣA-795	剥片	21.36	サヌカイト	白		33
47	MSⅣA-688	剥片	28.12	サヌカイト	白		33

第17表 石器観察表(1)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
48	MSⅣA-702.193	剥片	26.6	サヌカイト	白		33
49	MSⅣA-764	剥片	19.81	サヌカイト	白	有効	33
50	MSⅣA-806	剥片	22.68	サヌカイト	白		33
51	MSⅣA-708	剥片	21.23	サヌカイト	白		33
52	MSⅣA-771	剥片	19.17	サヌカイト	白		34
53	MSⅣA-730	剥片	8.79	サヌカイト	白		34
54	MSⅣA-809	剥片	10.37	サヌカイト	白		34
55	MSⅣA-741	剥片	14.75	サヌカイト	白		34
56	MSⅣA-808	剥片	11.11	サヌカイト	白		34
57	MSⅣA-740	剥片	13.62	サヌカイト	白		34
58	MSⅣA-799	剥片	8.12	サヌカイト	白		34
59	MSⅣA-742	剥片	10.03	サヌカイト	白		34
60	MSⅣA-704	剥片	29.2	サヌカイト	白		
61	MSⅣA-739	剥片	13.43	サヌカイト	白		35
62	MSⅣA-744	剥片	9.24	サヌカイト	白		35
63	MSⅣA-766	剥片	7.47	サヌカイト	白	有効	35
64	MSⅣA-793	剥片	6.9	サヌカイト	白		35
65	MSⅣA-701	剥片	4.68	サヌカイト	白		35
66	MSⅣA-698	剥片	3.96	サヌカイト	白		35
67	MSⅣA-787.788	剥片	7.36	サヌカイト	白		35
68	MSⅣA-777	剥片	2.46	サヌカイト	白		36
69	MSⅣA-712	剥片	8.16	サヌカイト	白		36
70	MSⅣA-720	剥片	10.36	サヌカイト	白		36
71	MSⅣA-782	剥片	2.45	サヌカイト	白		36
72	MSⅣA-713	剥片	3.7	サヌカイト	白		36
73	MSⅣA-691	剥片	4.21	サヌカイト	白		36
74	MSⅣA-776	剥片	23.27	サヌカイト	白		36
75	MSⅣA-705	剥片	25.18	サヌカイト	白		36
77	MSⅣA-684	剥片	35.07	サヌカイト	白		37
78	MSⅣA-772	剥片	14	サヌカイト	白		
80	MSⅣA-774	剥片	5.41	サヌカイト	白		35
81	MSⅣA-687	剥片	94.25	サヌカイト	白		29
83	MSⅣA-703	剥片	102.64	サヌカイト	白		38
84	MSⅣA-786	剥片	71.94	サヌカイト	白		38
86	MSⅣA-693	剥片	23.73	サヌカイト	白		31
87	MSⅣA-718.794	剥片	74.73	サヌカイト	白		39
89	MSⅣA-717	剥片	16.59	サヌカイト	白		40
90	MSⅣA-721	剥片	75.26	サヌカイト	白		40
92	MSⅣA-735	剥片	14.88	サヌカイト	白		41
93	MSⅣA-815.689.199.732.151	剥片	142.41	サヌカイト	白		41
95	MSⅣA-814	剥片	104.24	サヌカイト	白		42
96	MSⅣA-812	剥片	192.17	サヌカイト	白		42
98	MSⅣA-760.761	剥片	107.84	サヌカイト	白		43
99	MSⅣA-724.725	剥片	99.29	サヌカイト	白		43
101	MSⅣA-127	剥片	120.04	サヌカイト	白		
102	MSⅣA-816	剥片	224.12	サヌカイト	白		45
103	MSⅣA-700	剥片	8.07	サヌカイト	白		45

第18表 石器観察表(2)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
104	MSⅣA-802	剥片	55.1	サヌカイト	白		45
106	MSⅣA-707	剥片	12.74	サヌカイト	白		46
107	MSⅣA-690.711	剥片	394.15	サヌカイト	白		46
108	MSⅣA-216	石鏃	1.26	サヌカイト	黒		47
109	MSⅣA-62	石鏃	0.71	サヌカイト	白		47
110	MSⅣA-657	石鏃	1.59	サヌカイト	黒		47
111	MSⅣA-197	石鏃	3.31	サヌカイト	黒		47
112	MSⅣA-76	石鏃	3.01	サヌカイト	黒		47
113	MSⅢA-1006	石鏃	0.41	サヌカイト	黒		48
114	MSⅣA-460	石鏃	0.4	サヌカイト	黒		48
115	MSⅣA-577	石鏃	0.27	サヌカイト	白		48
116	MSIS下北包含層	石鏃	0.54	サヌカイト	白		48
117	MSⅣA-631	石鏃	0.6	サヌカイト	黒		48
118	MSⅣA-693	石鏃	0.37	サヌカイト	白		48
119	MSⅢA-500	石鏃	0.48	サヌカイト	白		48
120	MSⅢA-463	石鏃	0.55	サヌカイト	黒		48
121	3区禁地層	石鏃	0.56	サヌカイト	白		50
122	MSⅢA-103	石鏃	0.91	サヌカイト	黒		49
123	MSⅢS-②	石鏃	0.64	サヌカイト	黒		48
124	MSⅢA-346	石鏃	0.72	サヌカイト	黒		50
125	MSⅢA-481	石鏃	0.62	サヌカイト	黒		48
126	MSⅣA-360	石鏃	0.64	サヌカイト	黒		48
127	MSⅣA-536	石鏃	0.72	サヌカイト	黒		49
128	MSⅢA-540	石鏃	0.88	サヌカイト	黒		49
129	MSⅣA-571	石鏃	0.78	サヌカイト	黒		49
130	MSⅣA-26	石鏃	1.07	サヌカイト	黒		49
131	MSⅣA-535	石鏃	0.83	サヌカイト	黒		49
132	MSⅣA-40	石鏃	0.88	サヌカイト	黒		50
133	MSⅣA-45	石鏃	0.76	サヌカイト	黒		50
134	MSⅣA-1026	石鏃	0.51	サヌカイト	白		49
135	予備調査調査E-54区試掘101F	石鏃	1.21	サヌカイト	黒		47
136	MSⅢA-688	石鏃	1.22	サヌカイト	黒		49
137	MSⅣA-250	石鏃	0.69	サヌカイト	黒		50
138	MSⅣA-242	石鏃	1.5	サヌカイト	黒		47
139	MSⅢA-628	石鏃	1.14	サヌカイト	黒		52
140	MSⅢA-448	石鏃	2.98	サヌカイト	白		51
141	4区101付近不明	石鏃	1.29	サヌカイト	白		50
142	MSⅢA-613	石鏃	1.24	サヌカイト	白		50
143	MSⅢA-654	石鏃	1	サヌカイト	縞		49
144	MSⅢA-199	石鏃	2.97	サヌカイト	黒		51
145	MSⅢA-396	石鏃	1.65	サヌカイト	白		51
146	MSⅢA-133	石鏃	1.08	サヌカイト	黒		50
147	MSⅣ	石鏃	2.95	サヌカイト	白		51
148	MSⅣA-153	石鏃	1.32	サヌカイト	縞		53
149	MSⅣA-580	石鏃	3.89	サヌカイト	黒		53
150	2区北南SR01③土器集中	石鏃	2.25	サヌカイト	白		53
151	4区地点不明	石鏃	0.54	サヌカイト	黒		53

第19表 石器観察表(3)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
152	MSⅢA-524	石鉢	2.64	サヌカイト	白		54
153	MSⅢA-638	石鉢	0.79	サヌカイト	黒		55
154	MSⅢA-453	石鉢	1.18	サヌカイト	白		52
155	MSIE包含層	石鉢未製品	2.43	サヌカイト	黒		52
156	Ⅲ区包含層	石鉢(未製品)	1.51	サヌカイト	白		52
157	MSIS上黄茶褐色包含層	石鉢未製品	1.88	サヌカイト	黒		52
158	MSⅢA-188	石鉢	1.91	サヌカイト	黒		47
159	MSⅢS(3)整地上472	二次加工ある割片	0.5	サヌカイト	黒		
160	Ⅰ区各層出土石器	石鉢	1.63	サヌカイト	白		52
161	MSⅢA-94	石鉢	2.16	サヌカイト	黒		52
162	MSⅣA-299	石鉢	1.38	サヌカイト	黒		49
163	MSIE整地土	石鉢未製品	2.58	サヌカイト	白		54
164	MSⅢA-71	石鉢	6.75	サヌカイト	黒		55
165	MSIW整地土	石鉢未製品	1.61	サヌカイト	黒		52
166	MSⅣA-484	石鉢	6.65	サヌカイト	黒		55
167	MSⅣA-262	石鉢	1.21	サヌカイト	黒		52
168	MSⅣA-368	石鉢	3.6	サヌカイト	黒		54
169	MSⅢA-31	石鉢	2.29	サヌカイト	黒		54
170	MSⅣA-247	石鉢	3.77	サヌカイト	縞		54
171	4区予備調査E-5④Tr.排土中より採集	石鉢	4.93	サヌカイト	黒		55
172	Ⅲ区包含層	石鉢(未製品)	3.49	サヌカイト	黒		54
173	MSIE整地土707	二次加工ある割片	1.91	サヌカイト	黒		
174	MSⅢA-530	石鉢	8.91	サヌカイト	黒		59
175	MSⅣA-489	石鉢	5.77	サヌカイト	黒		55
176	MSIE包含層	石鉢	4.18	サヌカイト	白		66
177	MSⅢA-236	石匙	6.19	サヌカイト	白		56
178	ⅡN北肩	石匙	10.26	サヌカイト	黒		59
179	MSⅢA-153	石匙	20.97	サヌカイト	白		56
180	MSⅢS-③褐色土	石匙	15.07	サヌカイト	黒		57
181	ⅡN北肩2区北南SR01	石匙	22.02	サヌカイト	白		58
182	MSⅢS	石匙	17.48	サヌカイト	白		57
183	三区B-6⑥トナ	石匙	14.05	サヌカイト	白		57
184	MSⅢA-1043	石匙	5.83	サヌカイト	白		57
185	MSⅣA-389	石匙	9.36	サヌカイト	縞		58
186	MSⅢA-100	スクレイパー	6.75	サヌカイト	黒		58
187	MSⅣA-2	石皿か石匙の未製品	3.34	サヌカイト	黒		54
188	MSⅢ①SR02下部粘土層	石匙未製品	12.4	サヌカイト	黒		58
189	MSⅢA-496	石匙	39.37	サヌカイト	黒		58
190	MSⅣA-462	スクレイパー	0.64	サヌカイト	白		55
191	MSⅣA-261	スクレイパー	4.09	サヌカイト	黒		54
192	MSⅣA-50	スクレイパー	1.82	サヌカイト	黒		59
193	MSⅣA-475	スクレイパー	2.73	サヌカイト	白		
194	MSⅣA-221	スクレイパー	2.67	サヌカイト	縞		59
195	MSⅣA-224	スクレイパー	6.99	サヌカイト	黒		
196	MSⅢA-116	スクレイパー	4.51	サヌカイト	黒		59
197	MSⅣA-188	スクレイパー	12.13	サヌカイト	黒		60
198	MSⅢA-276	スクレイパー	11.26	サヌカイト	黒		59

第20表 石器観察表(4)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
199	MSⅢA-385	スクレイパー	11.23	サヌカイト	黒		59
200	MSⅢ④SR02	スクレイパー	20.18	サヌカイト	黒		62
201	MSⅢA-542	スクレイパー	14.97	サヌカイト	白		56
202	MSⅣA-111	スクレイパー	13.98	サヌカイト	黒		60
203	MSⅢA-79	スクレイパー	10.18	サヌカイト	白		60
204	MSV地山面上641	スクレイパー	24.5	サヌカイト	黒		67
205	MSⅢA-126	スクレイパー	19.41	サヌカイト	黒		62
206	MSⅢA-487	スクレイパー	10.68	サヌカイト	黒		56
207	MSⅣA-284	スクレイパー	15.83	サヌカイト	白		62
208	MSⅢ表採	スクレイパー	14.85	サヌカイト	白		62
209	MSⅢ⑦729	スクレイパー	32.7	サヌカイト	黒		61
210	MSⅢ⑧整地土	スクレイパー	24.32	サヌカイト	白		61
211	MSⅣA-145	スクレイパー	24.4	サヌカイト	黒		61
212	MSⅢA-472	スクレイパー	43.56	サヌカイト	白		64
213	MSIE 整地土1区東	スクレイパー	14.52	サヌカイト	白		62
214	MSⅢA-600	スクレイパー	50.12	サヌカイト	黒		63
215	MSⅢA-307	スクレイパー	50.77	サヌカイト	白		61
216	MSIW整地土	スクレイパー	30.99	サヌカイト	黒		63
217	MSⅣA-469	スクレイパー	47.39	サヌカイト	黒		63
218	MSⅢA-604	スクレイパー	40.34	サヌカイト	白		
219	MSIS包含層	スクレイパー	66.95	サヌカイト	黒		63
220	MSⅢA-27	スクレイパー	42.21	サヌカイト	黒		64
221	MSIS西包含層	スクレイパー	81.04	サヌカイト	白		65
222	MSIW包含層 740	スクレイパー	80.1	サヌカイト	黒		65
223	2区北南SR01MSⅡS①~②	スクレイパー	30.68	サヌカイト	黒		62
224	MSⅢA-376	スクレイパー	27.18	サヌカイト	白		62
225	MSⅢA-597	スクレイパー	63.29	サヌカイト	黒		64
226	MSV(西)谷状部地山直上 678	スクレイパー	60.5	サヌカイト	黒		66
227	3区SR02	スクレイパー	67.87	サヌカイト	白		65
228	MSⅢA-399	スクレイパー	55.16	サヌカイト	黒		65
229	MSⅢA-35	楔形石器	4.2	サヌカイト	白		
230	MSⅢA-204	楔形石器	6.12	サヌカイト	黒		
231	MSIS下北包含層721	楔形石器	3.35	刈賀安山岩		有効	
232	MSⅣA-586	楔形石器	3.35	サヌカイト	黒		
233	MSⅢA-114	楔形石器	3.23	サヌカイト	黒		
234	MSⅢA-666	楔形石器	3.81	サヌカイト	黒		
235	MSⅢA-429	楔形石器	4.13	サヌカイト	白		
236	MSⅢA-258	楔形石器	5.16	サヌカイト	黒		
237	MSⅣA-195	楔形石器	9.82	サヌカイト	白		
238	MSⅣA-229	楔形石器	8.18	サヌカイト	黒		
239	MSⅢA-214	楔形石器	11.46	サヌカイト	黒		
240	MSIE整地土	楔形石器	3.98	サヌカイト	黒		
241	MSⅣA-276	楔形石器	9.35	サヌカイト	黒		
242	MSⅢA-590	楔形石器	5.45	サヌカイト	黒		
243	MSⅢA-40	楔形石器	6.89	サヌカイト	黒		
244	MSⅣA-96	楔形石器	12.54	サヌカイト	黒		
245	MSⅢA-323	楔形石器	3.95	サヌカイト	黒		

第21表 石器観察表(5)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
246	MSⅢ A-150	楔形石器	4.49	サヌカイト	白		
247	MSⅡE西包含層	楔形石器	11.03	サヌカイト	黒		
248	MSⅣ A-177	楔形石器	22.83	サヌカイト	白		
249	MSⅢ A-521	楔形石器	19.11	サヌカイト	縹		
250	MSⅢ A-670	楔形石器	20.14	サヌカイト	白		
251	MSⅢ A-275	楔形石器	26.25	サヌカイト	黒		
252	MSⅣ A-603	楔形石器	17.25	サヌカイト	黒		
253	MSⅢ A-28	楔形石器	11.46	サヌカイト	黒		
254	MSⅣ A-292	楔形石器	18.57	サヌカイト	白		
255	MSⅣ A-616	楔形石器	24.26	サヌカイト	黒		
256	MSⅣ A-187	楔形石器	37.59	サヌカイト	黒		
257	五区E-5区③トレンチ	楔形石器	20.58	サヌカイト	黒		
258	MSⅣ A-178	楔形石器	16.63	サヌカイト	縹		
259	MSⅢ A-473	楔形石器	68.28	サヌカイト	白		
260	MSⅢ A-53	楔形石器	18.1	サヌカイト	白		
261	MSⅢ A-281	楔形石器	76.98	サヌカイト	白		
262	MSⅢ A-498	楔形石器	88.84	サヌカイト	黒		
263	4区予備調査E-S④Tr.上側のピット	二次加工ある石器	1.33	サヌカイト	黒		52
264	MSⅢ S③ 整地土385	二次加工ある石器	2.74	サヌカイト	白	有効	
265	MSⅣ A-180	二次加工ある石器	4.8	サヌカイト	白		
266	MSⅣ A-132	二次加工ある石器	6.58	サヌカイト	縹	有効	
267	MSⅣ A-214	二次加工ある石器	8.2	サヌカイト	黒		
268	MSⅢ A-287	二次加工ある石器	8.61	サヌカイト	黒		
269	MSⅣ A-233	二次加工ある石器	12.44	サヌカイト	黒		
270	MSⅢ A-677	二次加工ある石器	13.56	サヌカイト	黒		
271	1区表探735	二次加工ある石器	10.4	サヌカイト	白		66
272	MSⅣ A-387	二次加工ある剥片	8.16	サヌカイト	黒	有効	66
273	MSⅢ S④SR02 757	二次加工ある石器	22.7	サヌカイト	黒		67
274	MS表探725	二次加工ある石器	12.6	サヌカイト	黒	有効	66
275	7区A下面MSⅢ SD-01	二次加工ある石器	12.7	サヌカイト	白	有効	
276	MSⅢ A-633	二次加工ある石器	28.22	サヌカイト	黒		60
277	MSⅣ A-503	二次加工ある石器	27.93	サヌカイト	黒		
278	MSⅢ A-457	二次加工ある石器	38.1	サヌカイト	白		
279	MSⅢ A-636	二次加工ある石器	16.43	サヌカイト	黒	有効	61
280	MSⅡ西708	二次加工ある石器	25.8	サヌカイト	縹		66
281	MSⅢ A-290	二次加工ある石器	51.19	サヌカイト	黒		64
282	MSⅢ S④SR02 777	二次加工ある石器	114.41	サヌカイト	黒	有効	70
283	MSⅢ A-60	二次加工ある石器	130.19	サヌカイト	白		66
284	MSⅢ A-388	小割離痕ある石器	4.26	河質安山岩		有効	
285	MSⅢ ③整地土340	小割離痕ある石器	14	サヌカイト	黒		67
286	MSⅣ A-106	小割離痕ある石器	14.68	サヌカイト	黒		60
287	MSⅢ ④SR02土層～粘土層758	小割離痕ある石器	14.11	サヌカイト	黒	有効	66
288	MSⅣ A-78	小割離痕ある石器	30.48	サヌカイト	黒		68
289	MSⅡE712	小割離痕ある石器	15.5	サヌカイト	黒		67
290	MSⅡ N包含層 685	磨滅のある石器	17.2	サヌカイト	白		
291	MSⅢ ④SR02 200	横長剥片	8.1	サヌカイト	黒	有効	
292	MSⅢ A-675	横長剥片	12.36	サヌカイト	黒		

第22表 石器観察表(6)

番号	遺構名	器種	重量	石材	石材細分	備考	図版
293	MSⅡA-686	縦長剥片	62.8	サヌカイト	黒		
294	MSⅡE 714	縦長剥片	99.7	サヌカイト	黒		
295	E-5区③トレンチ	敲打痕ある石器	332.84	サヌカイト	黒		67
296	MSⅢS①SR02 165	板状剥片	289.3	サヌカイト	黒	有効	
297	MSⅢ③整地土 766	石核	16.5	サヌカイト	縞		68
298	MSⅡS 743	石核	22.97	サヌカイト	縞		68
299	MSⅢS①SR02 779	石核	45.8	サヌカイト	黒		68
300	MSⅣA-126	石核	50	サヌカイト	黒		68
301	MSⅣ盛土層 642	石核	31.6	サヌカイト	黒		
302	MSⅢ表探762	石核	36.3	サヌカイト	白		
303	3区整地層 787	石核	75.96	サヌカイト	黒		70
304	MSⅢA-23	石核	100.87	サヌカイト	黒		
305	MSⅢS③ 整地土730	石核	58.7	サヌカイト	縞		68
306	MSⅢA-24	石核	77.67	サヌカイト	黒		68
307	MSⅢ④SR02 土層～粘砂層 172	石核	60.9	サヌカイト	白		
308	MSⅢF北包含層605	石核	69.5	サヌカイト	白		70
309	MSⅢA-46	石核	123.07	サヌカイト	黒		
310	MSⅢS①SR02 粘土層～灰白色粘土層776	石核	114.2	サヌカイト	白		69
311	MSⅣA-560	石核	139.65	サヌカイト	黒		70
312	MSⅢF下北包含層743	石核	45	サヌカイト	縞		70
313	MSⅣSD04埋土519	石核	44.34	サヌカイト	白		
314	E-5区③トレンチ	石核	68.05	サヌカイト	白		70
315	MSⅢA-299	石核	245.8	サヌカイト	黒		69
316	MSⅢS①SR02 761	石核	250.8	サヌカイト	白		71
317	MSⅢ⑥ 731	石核	125.9	サヌカイト	黒		71
318	MSⅢ④SR02 778	石核	257.1	サヌカイト	白		72
319	MSⅥ(西)谷状部地山直上 752	石核	276.8	サヌカイト	黒		72
320	MSⅣA-122	石核	66.68	サヌカイト	黒		73
321	MSⅠ東SD-05 732	石核	307.3	サヌカイト	黒		72
322	MSⅣA-676	石核	279.3	サヌカイト	白		
323	MSⅣA-246	石核	117.78	サヌカイト	白		73
324	MSⅢA-152 MSⅢA-151	石核	82.29	サヌカイト	黒		73
325	MSⅣA-593	石核	221.9	サヌカイト	黒		
326	ⅡN北肩 749	石核	114.44	サヌカイト	縞		73
327	MSⅢF下北	小型円盤状石器	4.57	不明			
328	E-6⑥トレンチ	凹石	578.92	砂岩	砂岩		74
329	MSⅢA-602	凹石	1177.98	砂岩	砂岩		74
379	6区SD04埋土	石硯	34.73	不明			

第23表 石器観察表(7)

番号	種類	器種	身石・石英	霏母	高閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考
330	弥生土器	甕	粗砂多				7.5YR4/6褐色	1/8	不明	不明	
331	弥生土器	底器	粗砂多				10R5/6赤色	3/8	不明	不明	
332	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	不明	不明	胎土分析29
333	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			7.5YR4/3褐色	1/8	不明	不明	
334	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR5/8明赤褐色	1/8	不明	不明	
335	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR7/6褐色	7/8	不明	不明	
336	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR5/6明赤褐色	3/8	不明	不明	高さ、下半部傾きは不確定
337	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂少			7.5YR5/6明褐色	2/8	不明	不明	
338	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			7.5YR4/3褐色	1/8	不明	不明	
339	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			10YR8/4黄褐色	2/8	不明	不明	
340	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			7.5YR7/6褐色	3/8	不明	不明	
341	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			10R5/6赤色	2/8	不明	不明	
342	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR7/6褐色	5/8	不明	不明	
343	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂少			5YR7/8褐色	4/8	不明	不明	
344	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			2.5Y6/3にぶい褐色	6/8	不明	不明	高さは不確定
345	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			5YR5/8明赤褐色	2/8	不明	不明	胎土分析28
346	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			7.5YR5/6明褐色	2/8	不明	不明	
347	弥生土器	甕	粗砂多	粗砂多			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	不明	不明	
348	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR4/6赤褐色	5/8	不明	不明	
349	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR5/8明赤褐色	1/8	不明	不明	
350	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR5/6明赤褐色	6/8	不明	不明	
351	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR6/6褐色	6/8	不明	不明	
352	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR4/3にぶい赤褐色	4/8	不明	不明	
353	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR4/6赤褐色	1/8	不明	不明	
354	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR5/6明赤褐色	1/8	不明	不明	内面鉄分沈着
355	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			7.5YR5/6明褐色	3/8	不明	不明	
356	弥生土器	鉢	粗砂多	粗砂多			5YR5/6明赤褐色	1/8	不明	不明	
357	弥生土器	高杯	粗砂多	粗砂多			5YR5/6明赤褐色	3/8	不明	不明	

第24表 土器観察表(1)

番号	種類	器種	表石・ 石巻	霰	角閃石	その他	色調	残存 量	内面調査	外面調査	備考
358	弥生土器	底部	粗砂多				5YR6/6橙色	4/8	7/7	7/7	
359	須恵器	甕	粗砂多				5PB5/1青灰色	6/8	回転付*	回転付*	
360	須恵器	平蓋	粗砂多				5PB7/1明青灰色	1/8	回転付*	回転付*	
361	須恵器	壺	粗砂多				2.5GY7/1明オリーブ灰色	1/8	回転付*	断面回転付*、高台回転付*	
362	須恵器	長頸壺	粗砂多				N7/0灰白色	6/8	回転付*	回転付*	
362	土師器	短壺	粗砂多				10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	9/7	口縁3/7、型残れ	
363	須恵器	甕	粗砂多				2.5Y7/1灰白色	2/8	断面回転付*、断面中心円多	回転付*	
364	弥生土器	葉	粗砂多				5YR5/8明赤褐色	1/8	9/7	9/7	
365	土師器	皿	粗砂多				7.5YR6/6褐色	2/8	7/7	底9/7	
366	土師器	皿	粗砂多				5YR5/6明赤褐色	3/8	7/7	7/7、底9/7	高さは不定
367	土師器	鍋	粗砂多				2.5Y7/3黄褐色	1/8	7/7	7/7	
368	土師器	杯	粗砂多				2.5YR2/1灰白色	1/8	7/7	7/7	
369	土師器	土釜	粗砂多				7.5YR7/6藍色	8/8		口縁3/7、型残れ	
370	土師器	土釜	粗砂多				2.5Y7/3黄褐色	7/8	口縁のみ	口縁3/7、型残れ、底格子7/7	
371	土師器	足蓋	粗砂多				2.5Y7/3黄褐色	7/8	口縁3/7、型のみ	口縁3/7、型のみ、底格子7/7	1割欠
372	土師器	鍋	粗砂多				10YR6/2灰黄褐色	1/8	7/7	口縁のみ	
373	陶器	甕	粗砂多				5YR6/8褐色	1/8	9/7	口縁3/7、型のみ	外面すず付着あり
374	土師器	燈台	粗砂多					1/8	9/7	型残れ	
375	陶器	灰結皿	粗砂多				5Y6/3オリーブ黄色	2/8	底軸	底軸、底9/7あり	
376	土師器	燈台	粗砂多				5PB3/1暗青灰色	1/8	9/7	型残れ	
377	灰付 甕		砂質含ます					7/8	底軸	型付無軸	
378	灰付 甕		砂質含ます				5Y7/1灰白色	1/8	底軸	底軸	
380	弥生土器	甕	粗砂多				2.5Y5/3黄褐色	5/8	7/7	7/7後のみ	
381	唐津焼	刷毛目碗	粗砂多				7.5YR3/2黒褐色	2/8	底軸	底軸	
382	唐津焼	刷毛目皿	粗砂多				2.5YR4/2灰赤色	6/8	底軸	型付無軸	高台遺流
383	唐津焼	刷毛目碗	粗砂多				5YR4/3にぶい赤褐色	3/8	底軸	型付無軸	高台遺流
384	唐津焼	刷毛目碗	粗砂多				2.5YR3/2暗赤褐色	5/8	底軸	型付無軸	
385	唐津焼	刷毛目碗	粗砂多				5YR2/2オリーブ黒色	5/8	底軸	型付無軸	口勝
386	唐津焼	刷毛目碗	粗砂多				2.5YR4/2灰赤色	3/8	底軸	型付無軸	

第25表 土器観察表(2)

番号	種類	器種	原石・石英	番号	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考
387	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	2.5Y3/2黒褐色	6/8	施釉	裏付無釉	
388	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	5R3/1暗赤灰色	4/8	施釉	裏付無釉	
389	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	7.5Y5/3灰オリーブ色	1/8	施釉	下半無釉	
390	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	7.5YR3/2黒褐色	1/8	施釉	底無釉	
391	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	施釉	底無釉	高台に滑着防止用の砂
392	磨津焼	刷毛目肌				砂粒含まず	7.5Y4/3暗オリーブ色	2/8	施釉	底無釉	
393	磨筋染付	柄					7.5GY6/1緑灰色	1/8	施釉	高釉	
394	磨筋染付	柄				砂粒含まず	2.5GY5/1オリーブ灰色	7/8	施釉	裏付無釉	高台滑減
395	磨筋染付	柄				砂粒含まず	10Y7/1明緑灰色	3/8	施釉	高台裏付無釉	
396	磨筋染付	柄				砂粒含まず	2.5GY6/1オリーブ灰色	5/8	施釉	裏付無釉	
397	磨筋染付	柄				砂粒含む	2.5GY6/1オリーブ灰色	4/8	施釉	裏付無釉	高台磨減時に欠損
398	磨筋染付	柄				砂粒含まず	7.5GY7/1暗緑灰色	4/8	施釉	裏付無釉	高台の一部削られている
399	磨筋染付	柄				砂粒含まず	7.5GY6/1緑灰色	3/8	施釉	裏付無釉	
400	磨筋染付	柄				砂粒含まず	5GY6/1オリーブ灰色	3/8	施釉	裏付無釉	
401	磨筋染付	柄				砂粒含まず	5G5/1緑灰色	3/8	施釉	裏付無釉	
402	磨筋染付	柄				砂粒含まず	7.5Y5/1灰色	3/8	施釉	裏付無釉	高台滑減
403	磨筋染付	柄				砂粒含まず	2.5GY6/1オリーブ灰色	6/8	施釉	裏付無釉	
404	磨筋染付	香炉				砂粒含まず	10Y6/1灰色	3/8	口縁無釉	底無釉	
405	京楽風陶器	椀				粗砂多	2.5Y7/4淡黄色	2/8	施釉	施釉	
406	京楽風陶器	椀				砂粒含まず	2.5Y8/3淡黄色	1/8	施釉	施釉	
407	京楽風陶器	椀				砂粒含まず	2.5Y7/4淡黄色	7/8	施釉	裏付無釉	
408	京楽風陶器	椀				砂粒含まず	5Y7/3淡黄色	5/8	施釉	裏付無釉	
409	京楽風陶器	椀				砂粒含まず	2.5Y8/4淡黄色	5/8	施釉	裏付無釉	
410	瀬戸美濃焼	灰釉施釉 かまわけ瓶				砂粒含まず	10Y7/2灰白色・10YR2/3黒褐色	1/8	施釉	施釉	
411	瀬戸美濃焼	灰釉施釉 かまわけ瓶				砂粒含まず	10Y7/1灰白色	1/8	施釉	高釉	
412	陶器	灰釉皿				砂粒含まず	7.5Y6/2灰オリーブ色	3/8	施釉	口縁のみ施釉	
413	陶器	灰釉灯明皿				砂粒含まず	5Y6/2灰オリーブ色	2/8	施釉	無釉・裏・ガラス	
414	陶器	灰釉瓶				砂粒含まず	7.5Y6/2灰オリーブ色	1/8	施釉	施釉	
415	陶器	灰釉瓶				砂粒含まず	7.5Y6/2灰オリーブ色	2/8	施釉	施釉	
416	陶器	灰釉瓶				砂粒含まず	7.5Y8/2灰白色	2/8	施釉	底無釉	

※26表 土器調査表(3)

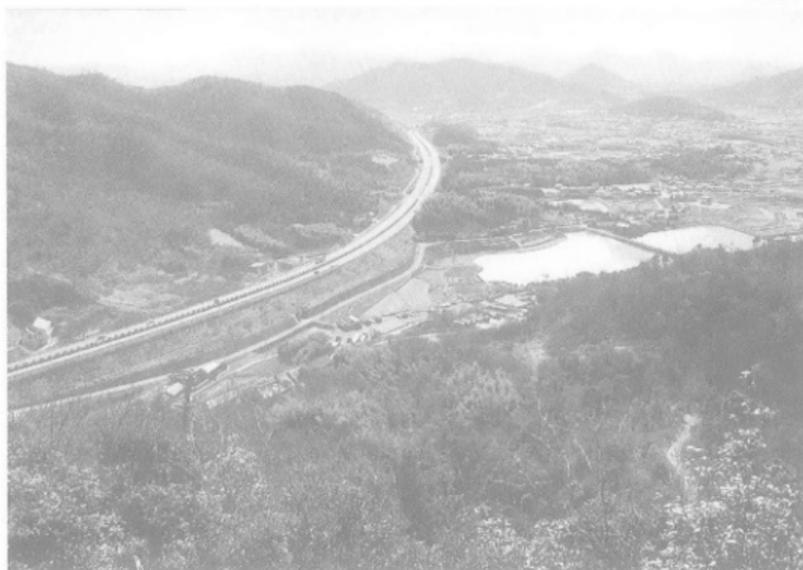
番号	種類	器種	炭石・石英	番号	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考
417	機器	灰油皿				砂粒含まず	10Y7/2灰白色	4/8	底皿	無袖/ハズリ	
418	機器	灰油鉢				砂粒含まず	5Y7/2灰白色	1/8	底皿	底皿無袖	
419	機器	鉄油鉢				砂粒含まず		2/8	底皿	底皿無袖	
420	機器	鉄油鉢				砂粒含まず	10YR4/4褐色	1/8	□縁のみ底皿	底皿	
421	白磁	皿				砂粒含まず		4/8	見込み底の目皿割き	底皿無袖	
422	薬付	皿				砂粒含まず		7/8	見込み底の目皿割き	底皿無袖	
423	薬付	皿				砂粒含まず		5/8	見込み底の目皿割き	底皿無袖	
424	薬付	皿				砂粒含まず		7/8	見込み底の目皿割き	底皿無袖	
425	薬付	皿				砂粒含まず	7.5GY8/1明緑灰色	7/8	見込み底の目皿割き	底皿無袖	
426	薬付	皿				砂粒含まず		3/8	見込み底の目皿割き	薬付無袖	
427	白磁薬付	皿				砂粒含まず		1/8	底皿	薬付無袖	
428	薬付	皿				砂粒含まず	10Y7/1灰白色	4/8	底皿	薬付無袖	
429	薬付	皿				砂粒含まず	2.5GY8/1灰白色	4/8	底皿	薬付無袖	
430	薬付	皿				砂粒含まず		2/8	見込み底の目皿割き	薬付無袖	
431	薬付	皿				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
432	薬付	皿				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
433	薬付	皿				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
434	薬付	碗				砂粒含まず		2/8	底皿	薬付無袖	
435	薬付	碗				砂粒含まず		4/8	底皿	薬付無袖	
436	薬付	碗				砂粒含まず		4/8	底皿	薬付無袖	
437	薬付	碗				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
438	薬付	碗				砂粒含まず		2/8	底皿	底皿	
439	薬付	碗				砂粒含まず	7.5Y7/1灰白色	1/8	底皿	薬付無袖	
440	薬付	碗				砂粒含まず		4/8	底皿	薬付無袖	
441	薬付	碗				砂粒含まず	10YR7/1灰白色	4/8	底皿	薬付無袖	
442	薬付	碗				砂粒含まず		3/8	底皿	薬付無袖	
443	薬付	碗				砂粒含まず		4/8	底皿	薬付無袖	
444	薬付	碗				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
445	薬付	碗				砂粒含まず		1/8	底皿	薬付無袖	
446	薬付	碗				砂粒含まず		4/8	底皿	薬付無袖	
447	薬付	碗				砂粒含まず		3/8	底皿	薬付無袖	
448	磁器	鉄器徳利				砂粒含まず	10Y7/1灰白色	1/8	無袖	底皿	
449	薬付	鉢				砂粒含まず		1/8	底皿	底皿	
450	薬付	鉢				砂粒含まず		2/8	底皿	底皿	
451	薬付	鉢				砂粒含まず		2/8	底皿	底皿	

第27表 土器調査表(4)

第28表 土器調査表(5)

番号	種類	器種	裏石・石英	窯田	黄閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考
452	灰付	皿				砂粒含まず		2/8	施釉	施釉	
453	灰付	皿				砂粒含まず		6/8	施釉	高台内底の目釉調	
454	灰付	皿				砂粒含まず		1/8	施釉	施釉	
455	灰付	皿				砂粒含まず		4/8	施釉	高台内底の目釉調	
456	灰付	皿				砂粒含まず		7/8	施釉	底部底の目釉剥ぎ	
457	赤絵	皿				砂粒含まず	7.5YR1灰白色	6/8	施釉	臺付煎釉	
458	青磁灰付	皿				砂粒含まず	10GY7/1明緑灰色	1/8	施釉	高台内底の目釉調	アット
459	青磁	花瓶				砂粒含まず	5G7/1明緑灰色	6/8	口縁のみ施釉	臺付無釉	
460	青磁	鉢				砂粒含まず	10YR2オリーブ灰色	1/8	施釉	施釉	
461	土師器	焙烙				粗砂含	10YR2/1黒色	1/8	口縁後3/4寸	口縁3/4寸、口～体部焼れ	
463	土師器	土甕				粗砂含	7.5YR4/3褐色	2/8	口縁のみ、体部付	口縁3/4寸、体指お	
464	土師器	焙烙				粗砂含	2.5Y5/4黄褐色	4/8	口縁3/4寸、体部付	口縁3/4寸、体指お	
465	瓦質土器	羽蓋				粗砂含	5Y2/2オリーブ黒色	3/8	板による3/4寸	上巻3/4寸、下半寸	
466	土師器	羽蓋				粗砂含	5Y3/2オリーブ黒色	1/8	付	羽部3/4寸、体指お	
467	土師器	釜				粗砂含	7.5Y5/1灰色	2/8	回転付	付	
468	灰生土器	釜	粗砂多			粗砂含	2.5Y5/6黄褐色	3/8	付	付	頸部の間隔は不確定
469	灰生土器	釜	粗砂多			粗砂多	10YR6/4にぶい黄褐色	1/8	付	付	
470	灰生土器	底部	粗砂多			赤色粗砂多	5YR6/6褐色	2/8	不明	付	
471	灰生土器	底部	粗砂多	粗砂含		赤色粗砂多	10YR6/4にぶい黄褐色	2/8	付	付	
472	灰生土器	釜	粗砂多			赤色粗砂少	5YR4/6赤褐色	1/8	付	付	
473	須恵器	杯				粗砂少	5BG5/1青灰色	1/8	回転付	回転付、底の付縁	

圖 版



遺跡遠景（現在）北から



1区 東半 空中写真



1区 西半 空中写真



1区 東半全景 南から



1区 西半全景 西から



2区 空中写真



2区 全景 西から



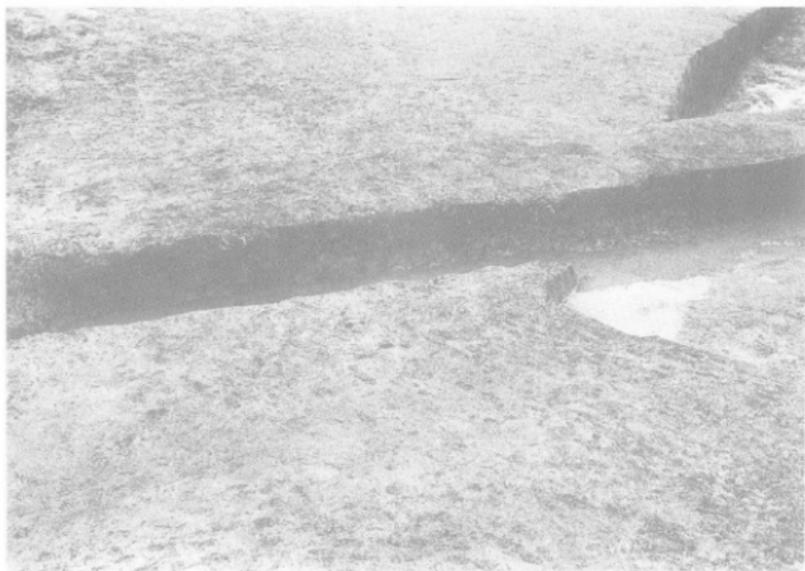
3区 空中写真



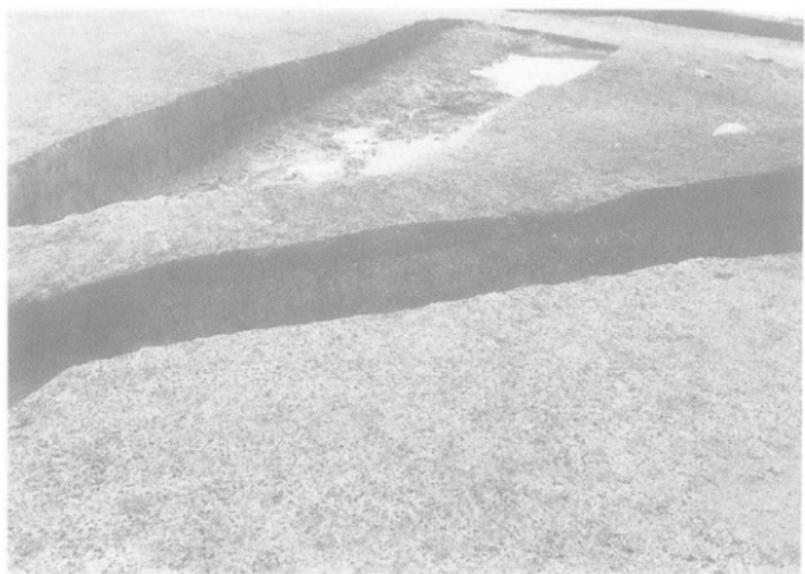
3区 全景 北から



3区 断面 (第28図)



3区 断面 (第28图)



3区 断面 (第28图)



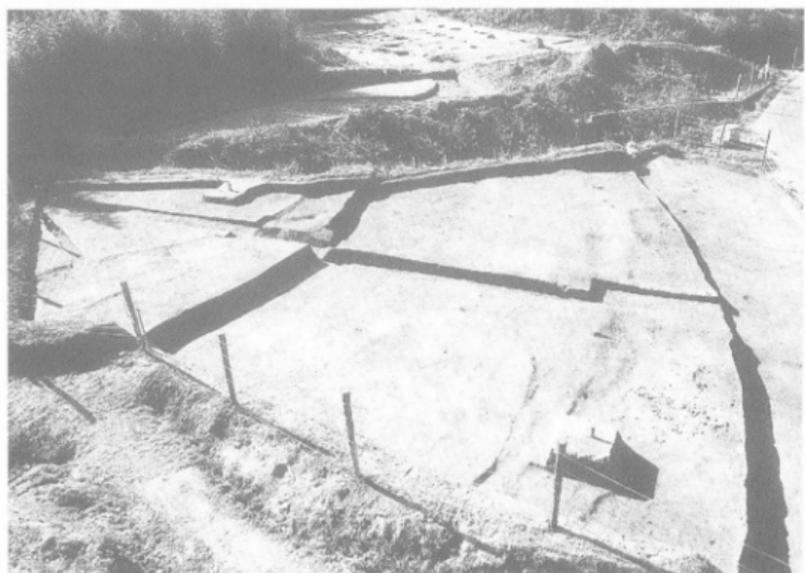
3区 断面 (第28图)



3区 断面 (第28图)



4区 空中写真



4区 全景 北東から



4区 断面 (第31図)



4区 断面 (第31図)



4区 断面 (第31图)



5区 空中写真



5区 全景 西から



5区 西壁断面 (第65図)



6区 空中写真



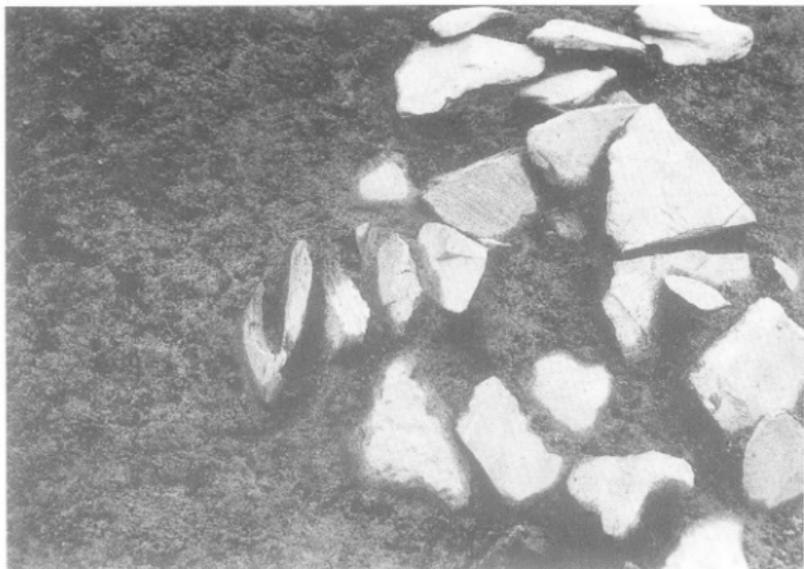
6区 全景 北から



6区 断面 (第58図)



サヌカイト集積遺構



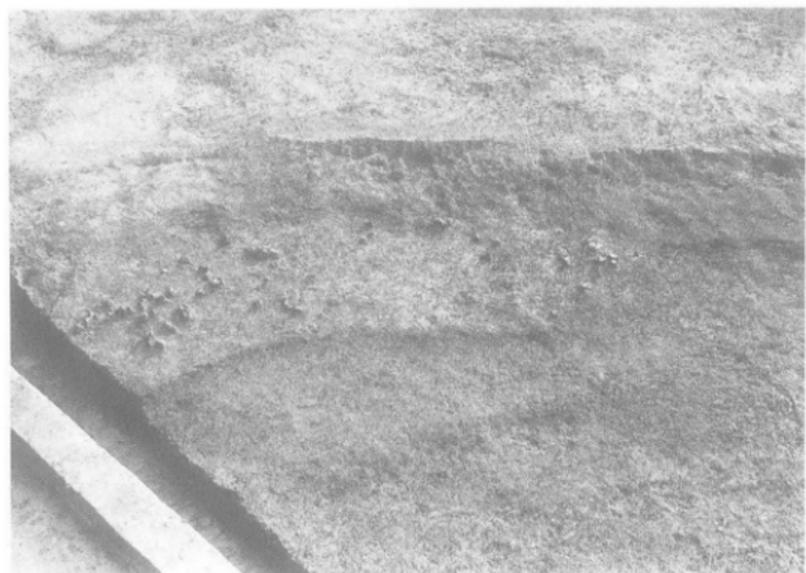
サヌカイト集積遺構



サヌカイト集積遺構（下位）



2区 SR01断面(第6・7図)



2区 SR01土器集中①② 北から



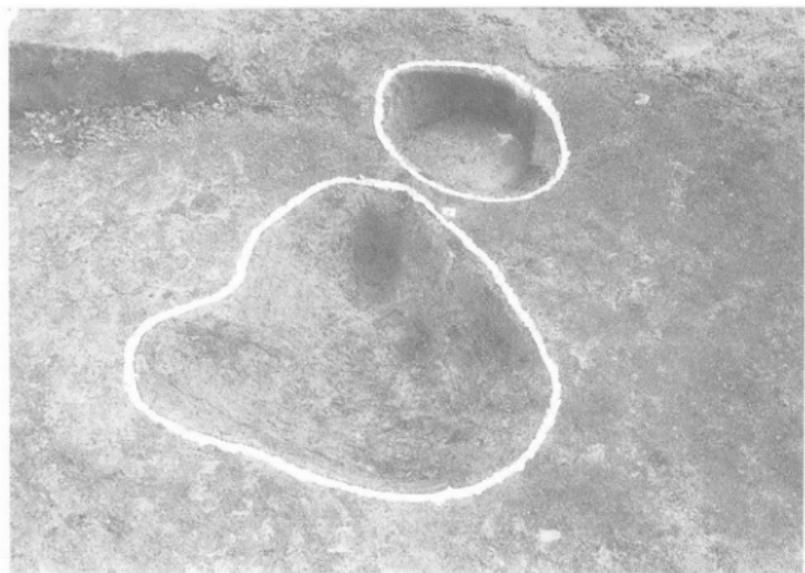
2区 SR01土器集中①② 西から



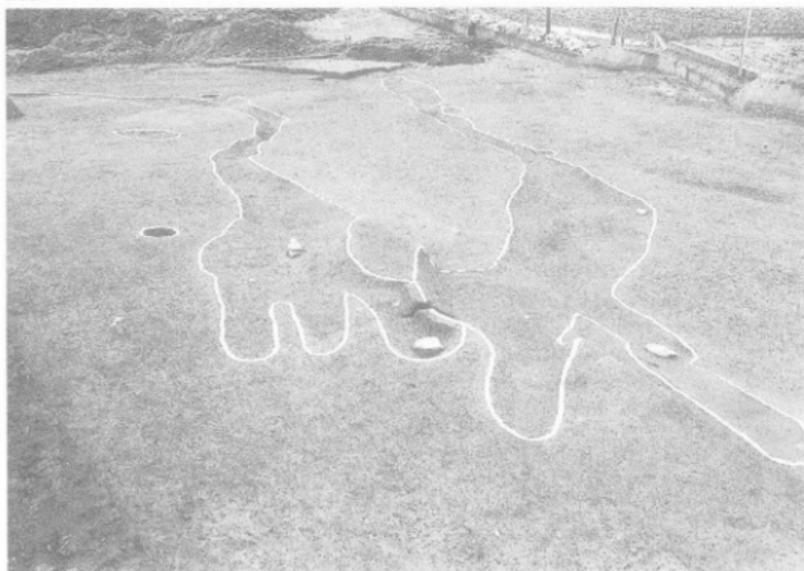
1・2区 SD01 西から



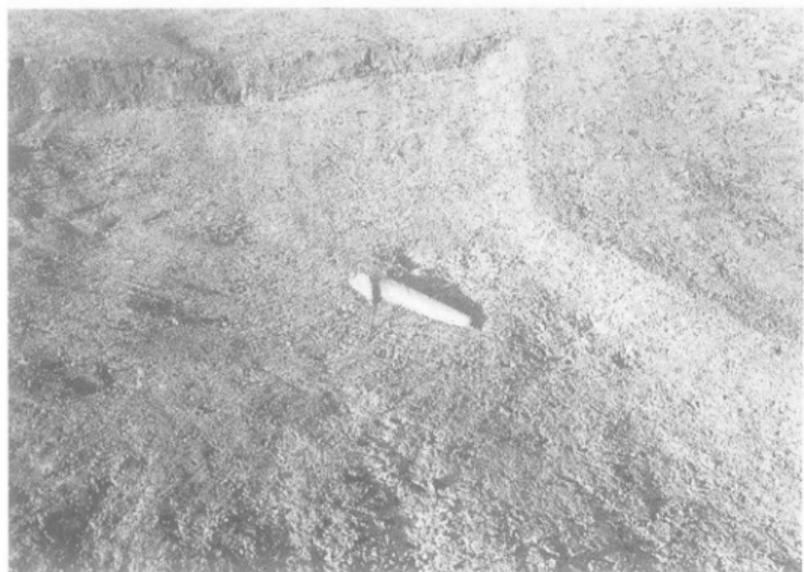
3区 SK01・02 検出状況 北から



3区 SK01・02 北から



1区 SD02・03 東から



1区 SD03 土器出土状況 北から



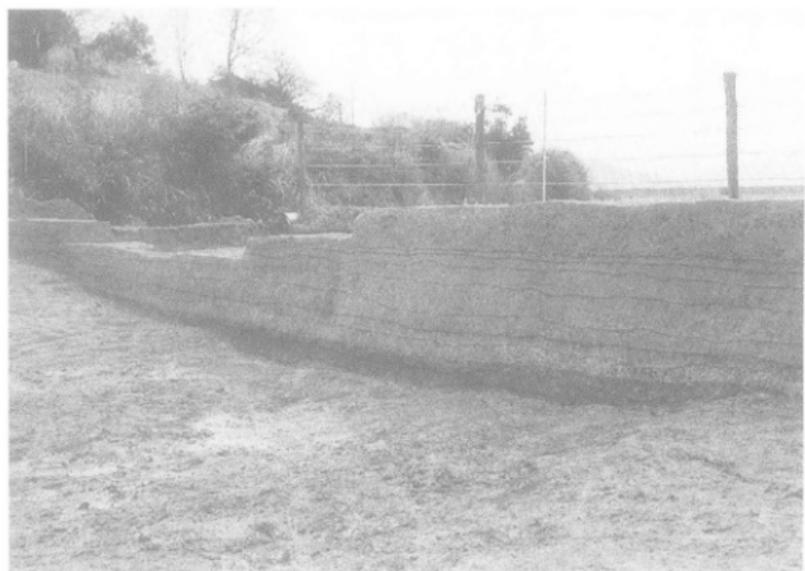
1区 SX01 西から



3区 SR02 断面A 西から



3区 SR02 断面B 西から



3区 SR02 断面C 東から